

上田市文化財調査報告書第38集

# 大 道 下

小泉地区県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書

1991年3月

上 田 市 教 育 委 員 会  
上 小 地 方 事 務 所

上田市文化財調査報告書第38集

# 大 道 下

小泉地区県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書

1991年3月

上 田 市 教 育 委 員 会  
上 小 地 方 事 務 所

# 序

大道下遺跡は上田市の西部、川西地区を流れる浦野川の第二段丘上に所在する縄文、弥生、古墳、平安の各期にわたる複合遺跡です。

平成元年度の県営は場整備事業小泉地区の施工にともない調査された当遺跡は、同段丘上に所在し、当地方の弥生・古墳時代史研究に多くの成果を上げた琵琶塚遺跡に劣らず多くの遺構と遺物を検出しました。中でも、縄文時代後期の所産と見られる三角埴土製品は、上小地方ではお隣の丸子町の深町遺跡に次いで二例目の貴重な発見となっています。

当初、平成元年度中に報告書刊行まで行う予定でしたが、あまりに膨大な遺物と検出された遺構の多さから、平成元年度は現場調査と遺物整理の一部を行うのみにとどまり、残る遺物整理と報告書の刊行は本年度行い、ここに御報告する次第です。

調査は上田女子短期大学の塩入秀敏助教授に調査団長をお願いし、都合2ヶ年にわたって担当していただきました。特に、元年度の現場調査では不順な天候と夏の暑さにも拘らず、作業員の皆さんと共に御尽力していただきました。また、小泉地区は場整備実行委員会をはじめとするは場整備関係者の皆様にも深い御理解と多大な御協力をいただきました。ここに、関係者各位に衷心より御礼申し上げます。

当市もこれから高速交通化時代を迎えんとし、各種の開発事業が目白押しとなってきており、埋蔵文化財はいよいよ危機的な状況となっていますが、郷土の貴重な文化財の継承に御理解と御協力をお願いし、序といたします。

平成3年3月

上田市教育委員会教育長 内藤 尚

# 例 言

お読みした

- 1 本書は長野県上田市大字小泉字大道下に所在する大道下遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 大道下遺跡の調査は小泉地区県営圃場整備事業の着工に先立ち、上小地方事務所の依頼を受け、上田市教育委員会が主体となり国庫補助事業として行った。現場調査は琵琶塚遺跡ほか発掘調査団に事業委託し、平成元年6月5日から11月12日にかけて実施された。
- 3 遺構実測図の作成は全体図ほかを株式会社新日本航業に委託して実施し、細部を猪熊啓司、河上純一、大原宏枝、塩崎幸夫ほかが行った。
- 4 遺物実測図の作成は、猪熊、塩崎が行い、一部、翠川泰弘氏の援助を得た。
- 5 拓本は猪熊、河上が行い、トレースは市村みつ子、米窪千鶴が行った。
- 6 本書に使用した写真は、遺構を塩崎が、遺物を中西徳士が撮影したものを使用した。また、航空写真は新日本航業が撮影した。
- 7 本書の執筆は第1章第1節を中西が、他を塩崎が行い、編集は塩崎が行った。
- 8 本調査に関わる資料はすべて上田市教育委員会の責任下に保管されている。その際に用いる遺跡の略号は、「OMS」である。
- 9 本書が上梓されるまでには、多くの方々や諸機関より御指導、御協力を賜った。

以下、御芳名を記して深く感謝の意を表したい。（敬称略 順不同）

青木一男、赤塚次郎、大竹幸恵、尾見智志、加納俊介、児玉卓文、小林真寿、小林秀夫、小森紀男、小山岳夫、坂井美嗣、末永成清、高橋仁美、西沢浩、保坂富男、堀田雄二、前島卓、翠川泰弘、宮原洋子、山下誠一

地元圃場整備委員、小泉区民の皆様、長野県教育委員会文化課、上小地方事務所、上田市農村整備課、小泉圃場整備事務所、上田市立信濃国分寺資料館



# 凡 例

- 1 各遺構の略号は、次のとおりである。

住居址－SB 集石遺構－SX 土坑－SK 溝状遺構－SD 柱穴－P

- 2 遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。

土器（拓影を含む）－1／3 石器・石製品・土製品－1／3

- 3 土器実測図における点のスクリーントーンは、赤色塗彩、土師器黒色処理、灰釉を表わす。

- 4 出土土器一覧表法量欄は上から口径、器高、底径の順で記した。また、（ ）は推定値を、  
[ ] は大幅な推定値を示し、底径欄の－は丸底、或は丸底に近く計測不可能な平底を表わす。

- 5 出土土器一覧表備考欄の色調は外面／内面の順で記し、外内面同色の場合は略した。

- 6 住居址の形態は、長軸と端軸の比率が1:1 以上のものを長方形とし、それ以下のものを方形とした。

- 7 図版中の遺物番号は簡略化した（例、第35図1→35－1）。なお、縮尺は統一してない。

# 目 次

序

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査の経緯 .....	1
第1節 調査に至る経過 .....	1
第2節 調査の体制 .....	3
第3節 調査日誌 .....	4
第2章 遺跡の位置と環境 .....	5
第1節 自然的環境 .....	5
第2節 歴史的環境 .....	5
第3節 基本層序 .....	10
第3章 大道下遺跡の調査 .....	11
第1節 調査の概要 .....	11
第2章 遺 構 .....	15
第3章 遺 物 .....	49
遺物写真図版 .....	97



# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経過

### 1. 調査に至る経過

昭和61年度より着手された県営ほ場整備事業小泉地区の事業区域内には、周知の埋蔵文化財包蔵地である琵琶塚遺跡と大道下遺跡が存在していた。このため、事業主体者である上小地方事務所と長野県教育委員会（以下県教委という）、上田市教育委員会（以下市教委という）の関係者で遺跡の保護協議を行い、施工前に遺跡の発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなり、昭和61年度から62年度にわたり琵琶塚遺跡及び小泉条里水田跡遺跡の調査を実施した。（市教委発行『琵琶塚』『琵琶塚Ⅱ』参照）

平成元年度のほ場整備施工区に係る埋蔵文化財については、県教委教育長発市教委受の昭和63年6月30日付け63教文第 185号「昭和64年度の農業基盤整備事業等に係る埋蔵文化財について（通知）」により、市教委が上田市農政課長宛てに昭和63年7月5日付け上教社発第 160号により同名で照会した文書の回答により把握した。これによれば、浦野川南の、日向橋上流の第2段丘上をほ場整備するというもので、その施工区域内には周知の埋蔵文化財包蔵地である琵琶塚遺跡と大道下遺跡が存在していた。このことを昭和63年7月25日付け上教社発第 191号で県教委宛て回答したところ、県教委教育長発市教委受の昭和63年8月22日付け63教文第 185号で「昭和64年度の農業基盤整備事業等に係る埋蔵文化財の保護協議（通知）」により、9月26日に保護協議を実施することに決定した。

この保護協議には、県教委、上小地方事務所、上田市、市教委の担当課、担当職員が出席した。この席上、市教委は、遺跡の範囲確認のための試掘を早急に実施するよう、県教委より指導を受け、その結果によって再度協議を実施することとした。市教委ではこの後、試掘調査を実施し、この結果をもって11月28日再度協議を実施し、下記の計画で調査を実施することとした。

#### 発掘調査計画書

発掘調査地	上田市大字小泉
遺跡名	琵琶塚遺跡・大道下遺跡
遺跡の状況	地目（水田・畑）破壊状況（一部破壊）
調査の目的及び概要	開発事業県営ほ場整備事業小泉地区に先立ち 5,000㎡以上を発掘調査して記録保存を図る。 遺跡における発掘作業は平成元年9月30日までに終了する。 調査報告書は平成2年3月31日までに刊行するものとする。
調査の作業日数	発掘作業80日、整理事業80日、合計 160日
調査に要する費用	21,276,000円
調査報告書作製部数	300部
発掘調査の主体者	上田市教育委員会
経費の負担割合	農政部局側負担額（原因者）15,425,000円（72.5%） 文化財保護部局側負担額（農家負担分）5,851,000円（27.5%）
備考	調査の結果、重要な遺跡等が検出された時は、その保存について改めて協議するよう配慮する。

平成元年4月12日、この調査に際し市教委が新たに組織した『琵琶塚遺跡ほか発掘調査団』の塩田秀敏調査団長以下調査団員に委嘱書が交付され、調査団会議を開催し、調査の方法等について検討を加えた。5月8日、調査に係る事務担当者レベルの協議を行い、調査の段取りについて最終の打ち合わせを行い、5月13日付けで上田市と調査団の委託契約が成立し、6月5日より調査に着手した。

## 2. 調査の経過

### (1) 平成元年度事務処理の経過

本調査に係る平成元年度の契約、補助金等の申請事務は次に示すとおりである。

国庫補助金関係	県費補助金関係	上小地方事務所	発掘調査団
平成元年4月3日 庁保伝第7号 補助金の内示	平成元年4月3日 元教文第2号 補助金の内示	平成元年5月12日 委託契約締結	平成元年5月13日 委託契約締結
平成元年5月24日付 上教社発第121号 補助金交付申請	平成元年7月17日付 上教社発第165号 補助金交付申請		
平成元年11月17日付 委保第71号 補助金交付決定	平成元年12月20日付 県教委教育長指令 元教文第2-39号 補助金交付決定	平成元年10月2日 変更委託契約締結 (消費税の扱いの 変更によるもの)	平成元年10月24日 変更委託契約締結 (消費税の扱いの 変更によるもの)
平成元年11月28日付 上教社発第264号 計画変更承認申請	平成元年11月28日付 上教社発第264号 計画変更承認申請	平成元年11月6日 変更委託契約締結 (計画変更による)	平成2年2月14日 変更委託契約締結 (計画変更による)
平成2年2月22日付 委保第71号 補助金変更交付決定	平成2年3月20日付 県教委教育長指令 元教文第2-39号 補助金変更交付決定		
平成2年3月31日付 上教社発第72-1号 補助事業実績報告	平成2年3月31日付 上教社発第72-2号 補助事業実績報告	平成2年3月26日 上教社発第72-3号 事業実績報告	平成2年3月26日 事業実績報告
平成2年4月10日付 長野県教育委員会達 元教文第1-16号 補助金確定	平成2年3月31日付 県教委教育長達 元教文第2-39号 補助金確定		
平成2年4月10日付 上教社発第72-1号 補助金交付請求	平成2年3月31日付 上教社発第72-2号 補助金交付請求	平成2年3月26日 上教社発第72-3号 委託金交付請求	
平成2年4月24日 補助金入金	平成2年5月18日 補助金入金	平成2年4月27日 委託金入金	

\*計画変更・契約変更は、遺物整理の一部と報告書作製を平成2年度に実施するとしたものである。

### (2) 平成2年度事務処理の経過

本調査に係る平成2年度の契約、補助金等の申請事務は次に示すとおりである。

国庫補助金関係	県費補助金関係	上小地方事務所	発掘調査団
平成2年4月4日 庁保伝第7号 補助金の内示	平成2年4月4日 2教文第2号 補助金の内示	平成2年4月10日 委託契約締結	平成2年4月10日 委託契約締結
平成2年4月5日付 上教社発第118-1号 補助金交付申請	平成2年8月10日付 上教社発第173号 補助金交付申請		
平成2年7月24日付 委保第71号 補助金交付決定	平成2年10月12日付 県教委教育長指令 2教文第2-6号 補助金交付決定		



## 第2節 調査の体制

上田市教育委員会では新たに琵琶塚遺跡ほか発掘調査団を編成し、発掘調査を同調査団に事業委託して調査を実施した。

調査団の構成は次のとおりである。

### 琵琶塚遺跡ほか発掘調査団

- 顧問 五十嵐幹雄 (上田市文化財保護審議会委員・日本考古学協会会員)  
岩佐今朝人 (上田小県誌考古編纂副主任・日本考古学協会会員)
- 団長 塩入秀敏 (上田女子短期大学助教授・日本考古学協会会員)
- 調査員 猪熊啓司 (長野県長野高等学校教諭)  
川上元 (上田市教育委員会社会教育課課長補佐兼文化係長・日本考古学協会会員)  
倉沢正幸 (上田市立信濃国分寺資料館学芸員・長野県考古学会会員)  
中沢徳士 (上田市教育委員会社会教育課学芸員・長野県考古学会会員)  
塩崎幸夫 (上田市教育委員会社会教育課主事・長野県考古学会会員)  
久保田敦子 (上田市教育委員会社会教育課主事)
- 調査補助員 河上純一  
稲垣美麻 (奈良大学学生)
- 事務局 局長 三輪善方 (上田市教育委員会社会教育課長) 平成2年4月30日退任  
須藤清彬 (上田市教育委員会社会教育課長) 平成2年5月1日着任
- 事務局次長 川上元 (上田市教育委員会社会教育課課長補佐兼文化係長)
- 事務局員 中沢徳士 (上田市教育委員会社会教育課学芸員)  
塩崎幸夫 (上田市教育委員会社会教育課主事)  
久保田敦子 (上田市教育委員会社会教育課主事)  
小林香保利 (上田市教育委員会社会教育課主事) 平成2年5月1日着任
- 調査協力者 池田才次郎、市村みつ子、岩田幸子、大井敬子、太田富治、大原宏枝、工藤久美子、工藤玲子、小泉好武、小山俊子、小山康直、後藤政枝、酒井辰二、笹木正一、里見もとめ、嶋崎正、清水関二、清水恵美子、清水芳敏、関茂樹、竹内和美、竹内和好、竹内三郎、竹内知恵子、中山文子、長浜峰吉、成沢伯、西沢勝、野田三雄、平田伸江、堀内今朝次、堀内節子、間島亥三郎、宮崎四郎、宮崎のぶい、宮崎弘枝、宮下信子、宮本謙蔵、山崎美津子、依田すみ江、米窪千鶴

### 第3節 調査日誌（抄）

平成元年

- 5月24日（水）晴 大道下遺跡、重機による試掘調査を開始。
- 5月25日（木）晴 トレンチ T r - 1 ～ 28 を調査。調査区域を設定する。
- 5月30日（火）晴 T r - 6 付近より順次表土剥ぎと遺構検出作業を開始する。
- 6月5日（月）晴 発掘機材搬入、テント設営。作業員を投入し表土剥ぎと遺構検出作業に本格的に着手する。竪穴式住居址、柄鏡形敷石住居址等を検出。
- 6月15日（木）曇 石棺墓（S X - 04）検出。
- 6月1日（土）曇 三角埴土製品出土。
- 7月3日（月）晴 基準点測量。
- 7月6日（木）晴 グリッド設定に入る。
- 7月25日（火）晴 小泉郷土史クラブ遺跡見学会（約30名）。
- 8月3日（木）晴 南西部（T r - 3 ～ 5 付近）表土剥ぎに入る。
- 8月10日（木）曇 小泉郷土史クラブ遺跡見学会（約60名）。
- 8月11日（金）晴 表土剥ぎ、遺構検出作業ほぼ終了。
- 8月21日（月）晴 遺構掘りに入る。
- 9月5日（火）曇 調査区域周辺に排水路掘削。
- 9月27日（水）曇 川西小学校6年1組遺跡見学会。
- 10月6日（金）曇 第37号住居址（S B - 37）より勾玉2点出土。
- 10月31日（火）曇 ヘリコプターによる航空測量実施。
- 11月5日（日）晴 大道下遺跡現地説明会実施。約50名来訪。
- 11月6日（月）晴 川西小学校6年2組遺跡見学会。
- 11月7日（火）晴 小泉保育園園児遺跡見学会。
- 11月8日（水）晴 東部町教育委員会遺跡視察（約50名）。
- 11月10日（金）晴 大部分の機材、及びテントを撤収。
- 11月12日（日）曇 大道下遺跡における全調査を終了。機材撤収。

この後、上田市立信濃国分寺資料館において出土遺物の整理、報告書作成作業を行い、平成3年3月25日調査報告書が刊行され、調査はすべて終了した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 自然的環境

長野県東部に位置する上田盆地の南西部は、塩田と川西の2地区に大別される。塩田地区は小盆地で塩田平と呼ばれているのに対し、川西地区は、浦野川が形成した谷平野を中心に室賀谷を加えた一帯である。浦野川は上田小県地域では千曲川、依田川、神川に次ぐ河川で、小県郡青木村の大明神岳(1,232m)、二ッ石岳(1,563m)、御鷹山(1,623m)、大沢山(1,440m)、子檀嶺岳(1,223m)などを源とする相染川、宮淵川、滝川、田沢川、阿鳥川などを集めて東北流し、下流域に至って更に室賀川、塩田平の全河川を集めた産川と合流して、上田市下之条で千曲川に注いでいる。上流域の青木村杓掛付近で既に谷平野を形成し始め、流下するに従いその活動は活発となり、青木小学校付近で約400m、上田市浦野で約900m、同吉田で約1kmの幅を測る。また、河岸段丘もよく発達し、中下流域では第1段丘(比高差約3m)、第2段丘(比高差約5m)の2段を認めることができる。

今回、県営圃場整備事業に先立って発掘調査が実施された大道下遺跡は、上田市大字小泉字大道下に所在し、浦野川の侵食によって形成された舌状を呈する第2段丘上に立地している。遺跡付近での浦野川は北側山麓に寄って流下し、一帯は西から東へ、南から北へ向かって緩やかに傾斜している。

浦野川を挟んで北側には、名勝岩鼻から三ッ頭山(922m)、に連なる城山(933m)の山塊が屹立して北風を遮り、南側には塩田平と画する丘陵状の小尾根が存在するのみで、日照まことによく温暖で、その上、年間降雨量が1000mmに満たない全国でも有数の寡雨地帯で、浦野川以外に洪水を惹起する危険のある河川もなく、大規模な自然災害の発生は考えにくい絶好の生活環境であると言える。

大道下遺跡は、この段丘上に約9000m<sup>2</sup>にわたって展開しており、標高約450mを測る。

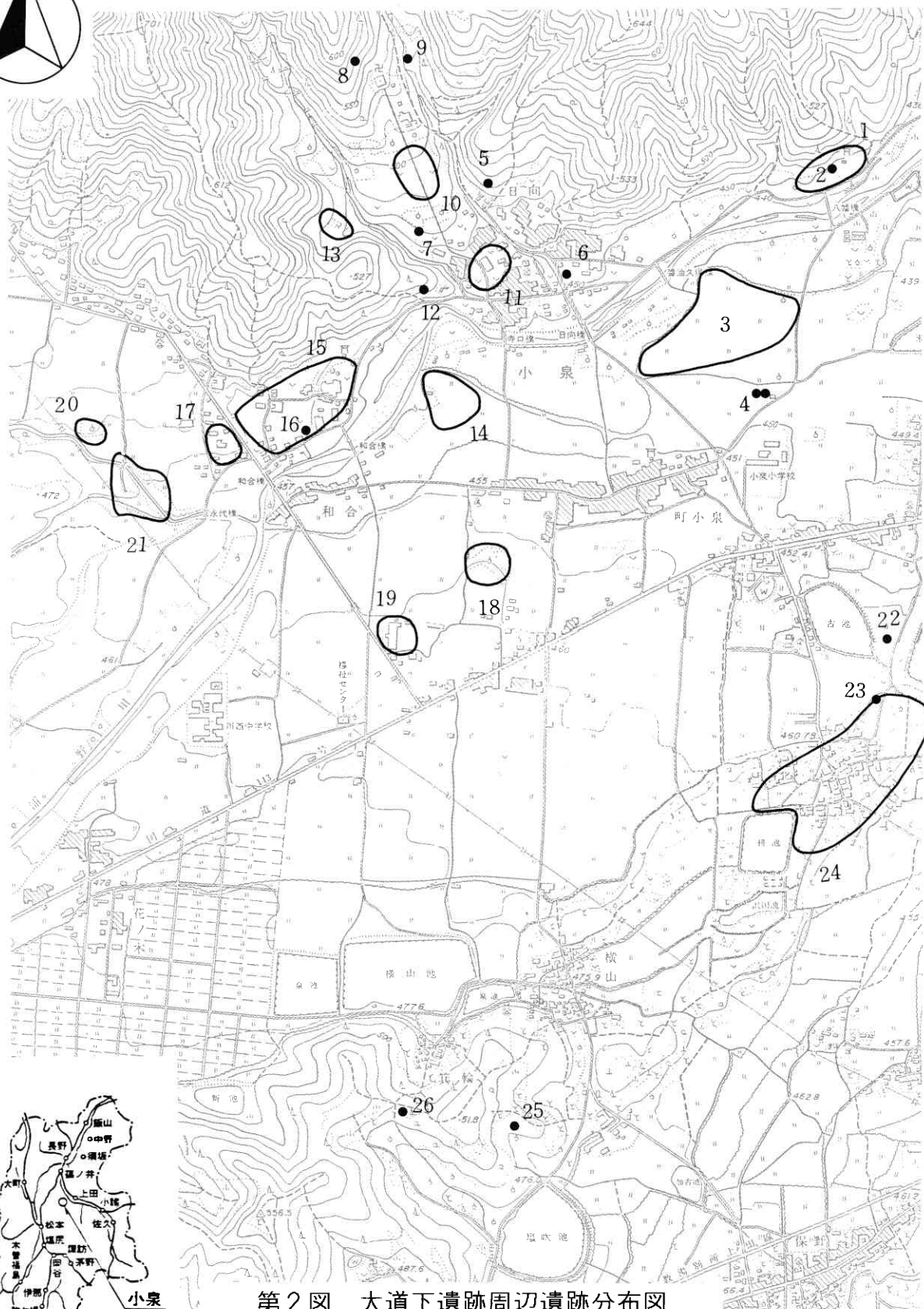
### 第2節 歴史的環境

浦野川流域において認められる最も古い人類の足跡は、約7000年前の縄文時代早期後葉茅山式期の土器を出土した室賀谷の奥の谷鬼(やぎ)遺跡にしるされた。地形などからより古い時期の遺跡が発見される可能性をもつ地点もあるが、現時点ではこれをさかのぼる時期の遺跡は確認されていない。

縄文時代の遺跡としては、早期後葉以降のすべての時期の遺跡が存在するが、中期後半の加曾利E式期に遺跡数が最も増加する傾向が見られ、大道下遺跡もこの時期に出現する。後晩期になると遺跡数は激減するものの、大道下遺跡の南西約2.5kmに下前沖遺跡が出現し、昭和55年度に

番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	時代								備考
					旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	
1	325	八幡山遺跡	小泉字八幡山	山麓			○	○	○	○			全壊・形象埴輪出土 昭和61・62年発掘調査 全壊 全壊 僅かに残る 僅かに残る 半壊 全壊
2	324	八幡山古墳	小泉字八幡山	〃				○					
3	326	琵琶塚遺跡	小泉字琵琶塚・町裏	段丘			○	○	○	○			
4	327	琵琶塚古墳	小泉字琵琶塚	平地				○					
5	328	日向小泉1号古墳	小泉字宮ノ入	山麓				○					
6	329	日向小泉2号古墳	小泉字東村	〃				○					
7	330	日向小泉3号古墳	小泉字西村	山腹				○					
8	331	日向小泉4号古墳	小泉字寺住平	〃				○					
9	332	日向小泉5号古墳	小泉字蛇川原入	〃				○					
10	333	西寺畑遺跡	小泉字西寺畑	山麓			○	○					
11	334	旗鉾遺跡	小泉字旗鉾	台地		○	○	○	○	○			平成2年発掘調査  平成3・4年調査予定 昭和54年発掘調査
12	335	鍛冶山古墳	小泉字鍛冶山	山麓				○					
13	336	鍛冶山遺跡	小泉字鍛冶山	〃		○		○	○				
14	337	大道下遺跡	小泉字大道下	段丘		○	○	○	○	○			
15	338	和合遺跡	小泉字和合	〃		○	○	○	○	○			
16	339	将軍塚古墳	小泉字和合	山麓				○					
17	340	岳之里遺跡	下室賀字岳の里	〃				○					
4	383	高田遺跡	小泉字高田	段丘		○	○	○	○	○			
19	384	長谷田遺跡	小泉字長谷田	平地			○						
20	341	岳ノ鼻遺跡	下室賀字岳ノ鼻	段丘		○	○	○		○			
21	413	山崎城跡	岡字山崎	台地				○		○	○		昭和54年発掘調査
22	385	扇田古墳	吉田字扇田	平地				○					
23	386	東村墳墓群	吉田字東村	〃							○	○	
24	387	原田遺跡	吉田字原田	〃			○	○	○	○			
25	388	口明塚古墳	保野字口明塚	山腹				○					
26	389	富士塚古墳	保野字富士塚	山頂				○					

第1表 周辺遺跡地名表



第2図 大道下遺跡周辺遺跡分布図





行われた発掘調査の結果、後期後葉加曾利B式期～晩期中葉大洞C<sub>2</sub>式期の遺物が大量に出土した。出土遺物は土器、石器のほか、装身具、呪的遺物などバラエティーに富んでおり、上田小泉地域の該期を代表する遺跡の一つとして知られている。

弥生時代の遺跡としては、青木村を含め10を僅かに上回る数の遺跡を挙げることができるだけで、それも後期後葉箱清水式期の小遺跡が多い。その中にあって大道下遺跡の東北東約 500mの位置に所在する琵琶塚遺跡は、昭和61・62年度の発掘調査により合計23軒の該期住居址が検出されているが、調査区域外で表面採集された遺物の量から遺跡全体では50軒を上回る住居址が存在したものと思われ、当地域では最大規模の集落遺跡である。

弥生時代終末期から古墳時初頭期にかけての遺跡としては、琵琶塚遺跡と青木村岡石遺跡B地点が挙げられる。両遺跡とも東海地方西部に分布の中心を持つS字状口縁台付甕形土器を出土しており、琵琶塚遺跡はその他にも近畿地方や北陸地方の影響を受けた土器を多種多量に出土している。

古墳時代の遺跡は古墳の数に比して少数である。湮滅したものも含め19基を数える古墳のうちで室賀谷の神宮寺古墳、青木村の塚穴古墳が発掘調査された。両古墳とも両袖型の横穴式石室を持つが、前者は直線的な羽子板型石室を、後者は胴張りの石室を有する。特に塚穴古墳からは勾玉、切子玉、ガラス小玉、耳環等の見事な装身具が出土している。浦野川を挟んだ西方約 300mの地点には和合將軍塚古墳が所在し、礫槨を持つ竪穴式石室と推定され、鉄剣2口を出土したと伝えられている。また、北方約 500mの対岸には日向小泉1～5号墳など6基の円墳が存在し、当地域唯一の群集墳として注目される。さらに、北東約 1 Kmの地点に畑化して湮滅してはいたが、最近円筒埴輪や人物埴輪を出土した八幡山古墳がある。これらの古墳は、やや古いと考えられる和合將軍塚古墳を除くと、ほとんどが後期後葉から終末期に比定され、6世紀末から7世紀代に築造されたものである。和合將軍塚古墳が竪穴式石室墳としてそのまま認められるのならば、6世紀前葉以前には既にかかなりの権力の集中があり、その後は少々分散するものの継続して権力が存在したとみることができると考えられる。集落遺跡としては現時点では大道下遺跡の他に、琵琶塚遺跡と青木村岡石遺跡が確認されているだけであるが、琵琶塚遺跡の規模は大きく、2次にわたる発掘調査で合計45軒の住居址が検出されている。大道下、琵琶塚両遺跡の所在する大字小泉に東接する地籍は大字吉田であるが、この地名は古代の吉田連（むらじ）氏に関わる地名で、吉田連氏を中心とした一帯の開発を想定する考察もなされている。このように少数ながらも古墳の存在は、当時の開発が相当進んでいたことを物語っており、今後、該期の遺跡が増加することを示唆している。

奈良・平安時代に至ると集落数が急増する。技術の進歩により灌漑用水路の開墾や水田の開墾が急激に進んだ結果であり、水田化可能な谷平野はおろか、戦後開拓の手が入った室賀谷の奥の谷鬼の地にも約1000年前に既に開拓者が入り込んでいる。8世紀には上田に信濃国府と信濃国分

寺が置かれ、令制の東山道が保福寺峠越えてこの谷平野を通っており、青木村当郷の岡石遺跡は「浦野駅跡推定地」として発掘調査された。東山道のルートについては諸説があるが、最近では大道下遺跡南方の谷平野中央部をほぼ一直線に通過していたとする説が提起されている。大道下遺跡もその小字名から東山道との関連が想起されるが、今回の発掘調査の結果では、古墳時代以降は平安時代末期まで人々の生活した痕跡は確認されず、東山道と関連づける積極的な資料は得られなかった。なお、奈良時代～平安時代後期までの集落途絶の様相は同じ第2段丘上に隣接する琵琶塚遺跡でも全く同じ傾向が看取される。平成2年度に発掘調査された高田遺跡は、大道下遺跡の南方約300mの第1段丘上に位置し、竪穴式住居址47軒、掘立柱建物址14棟、溝状遺構7基等が検出された。特に周辺の条里的遺構とほぼ主軸を共にする掘立柱建物群と人為的に屈曲する溝状遺構の検出は、この地に残る条里的遺構の成立年代を推定する上で貴重な資料を提供することとなった。高田遺跡の存続した年代は出土遺物より概ね8世紀前半から11世紀代と推定されるが、その時期は前述した大道下遺跡と琵琶塚遺跡の空白期間とほぼ一致しており、水田開発等に伴う集落の移動を推測することができよう。

信濃16の勅旨牧のひとつ塩原牧は浦野川上流域にあったと推定されており、「牧寄」「馬背」などの牧に関する数多くの地名等はその事実を如実に物語る。『日本霊異記』に登場する「小県郡跡目郷」の「他田舎人蝦夷」は、信濃国造氏に繋る人物と思われるが、塚穴古墳や塩原牧とも何らかの関係があったとも考えられよう。川西地区は『和名類聚抄』の小県八郷の内の「福田郷」であり、一部「跡部郷」にも含まれると思われるが、今ならば超一級国道とも言うべき東山道沿いで中央の文物も入りやすく、当時としては開けた土地であったと考えられる。古代末期に比定される小泉地区の条里的遺構は、今に残るその名残のひとつと言えよう。

### 第3節 基本層序

大道下遺跡は浦野川の形成した右岸第2段丘上に位置し、浦野川の侵食によって僅かに北西方向に突出した舌状地形の先端部を中心に略V字形に展開している。

標高は 450～451mを測り、南から北に、西から東に向かってごく緩やかに傾斜している。段丘下の氾濫原との比高差は2～5mを測る。

大道下遺跡の層序は、グリッドZ-24と2J-18を結ぶ線上付近を境として北東側と南西側で大きく異なり、北東側では比較的厚い強粘質の遺物包含層が存在し、遺構も濃密に分布しているが、南西側では耕作土下に若干の遺物を包含する砂礫層があり、さらに下層は旧河床と推定される砂礫層が存在していた。当初の試掘ではTr-4より遺存状況の極めて良好な遺物が出土し、多数の遺構の存在が予想されたが、遺構の存在は極めて稀薄で北東側と対称的な結果となった。

#### 北東側

第1層は耕作土層で、層厚は10～20cmを測る。暗茶褐色を呈し、締まり、粘性に乏しい。

第2層は暗黄色粘質土層で、小礫を多量に含み、層厚は10cmを測る。

第3層は礫を多量に含んだ暗黒褐色土層で、締まりに乏しい強粘質土である。

本層は遺物包含層で、下層の遺構に関わりなく多くの遺物が出土した。層厚は10～20cmを測る。

第4層は暗褐色土層で、小礫を含む強粘質土である。本層上面が遺構検出面となり、大方の遺構はこの第4層中に構築されていた。層厚は30～40cmを測る。

第5層は地山の暗黄色砂礫層で、部分的に激しい湧水を生じた。

#### 南西側

第1層は耕作土層で、層厚は15～30cmを測る。地目は水田と林檎畑で、林檎畑の部分では締まり、粘性の乏しい暗灰褐色土である。

第2層は明褐色砂礫層で、層厚は10～20cmを測り、締まり、粘性に乏しい。

第3層は暗黄色砂礫層で、旧氾濫原と推定され、極めて多量の円礫と砂層から構成されている。

# 第3章 調査の結果

## 第1節 調査の概要

### 1. 調査の概要

大道下遺跡は小泉地籍の西方に位置し、浦野川の形成した右岸河岸段丘の第2段丘上に立地している。本遺跡はかねてより縄文時代後期と弥生時代後期の遺物が表採される「周知の埋蔵文化財包蔵地」として知られていたが、平成元年度の県営圃場整備事業に伴い、遺跡のほぼ全域が破壊されることとなり、発掘調査を実施して記録保存を図ることとなった。

上田市教育委員会では、昭和63年度中に範囲確認のための試掘調査を実施したが、本調査に先立ち調査区域設定のために更に詳細な範囲確認が必要となり、平成元年5月24・25日の両日にわたり重機により28か所にトレンチを設定し調査を実施した。その結果、舌状地形の先端部を中心に約9,000m<sup>2</sup>の範囲にわたり遺跡が展開していることが確認された。また、遺跡の時期も縄文時代のほか、弥生・古墳・平安の各時代にわたる複合集落遺跡であることが判明した。

試掘調査の結果を受けて調査区域を設定したのであるが、遺跡中心部と推定された舌状地の先端部は花卉栽培中のため調査できず、やむをえずクランク状に調査区域を設定した。

本調査は6月5日より実施され、Tr-6付近より重機による表土剥ぎと遺構検出作業に着手した。試掘段階では南西部で良好な遺物の出土が多かったものの、表土下は旧河床の砂礫層となり遺構の存在は極めて希薄なものであった。北東部においては多数の遺構が重複して検出されたが、東側は比較的希薄となり集落は比較的限定された地域に展開していたものと推定される。

約5か月にわたる調査の結果、約6,400m<sup>2</sup>が調査され、遺構としては敷石住居址4軒、竪穴式住居址45軒、土坑12基、溝状遺構2基、集石（配石）遺構6基等が調査された。出土遺物の量は極めて多量であったが、隣接する琵琶塚遺跡と同様、覆土内への他時期遺物の混入が著しく、少ない遺構でも5割、多い遺構では9割以上が明らかに他時期の混入遺物で占められていた。包含層と他時期遺構への混入遺物の大半は縄文土器で占められ、弥生期以降の遺構が構築された際にかなりの縄文期遺構が破壊され、遺物が攪乱、混入したものと推測される。

### 2. 縄文時代

縄文時代の遺構としては、敷石住居址4軒（SB-08・21・24・39）、土坑5基（SK-01・02・07～09）、集石（配石）遺構3基（SX-02・03・06）、石棺墓2基（SX-04・05）、埋甕3基（SB-19・25・28）等がある。

これらの遺構は後世の遺構等によって著しく損傷を受けており、遺構の規模すら不明確なものが多い。前述したように縄文期の遺物が大道下遺跡出土遺物の大半を占めているものの、遺構に伴う資料は僅少にすぎず、弥生期以降の遺構によって大部分の遺構は破壊されたものと推定される。

遺構の所産期としては、第8号住居址が後期後葉加曾利B式期に比定される以外は、すべて中

期後葉加曾利E式期の所産と推定される。住居址や石棺墓に使用されている石材は浦野川流域の砂岩が主として用いられており、鉄平石の使用は僅かであった。

特殊な遺物としては、三角埴土製品、土偶、土製円盤、ミニチュア土器等があり、特に三角埴土製品は表土剥ぎ中に包含層内より出土したもので、遺構に伴うものではなかったが、上田小県地域では丸子町深町遺跡で出土したのに次いで2例目の出土である。

### 3. 弥生時代後期

弥生時代の遺構としては、竪穴式住居址8軒(SB-12・17・20・33・40・41・43・48)、集石を伴う土坑1基(SX-01)、溝状遺構2基(SD-01・02)がある。

住居址はいずれも隅丸長方形を呈し、長軸 5.0m以上の標準的な規模を持つ第12・17・20・33号住居址と、小型の第40・41・43・48号住居址に大別される。前者は調査区域西半に占地しており、後者は東半に位置している。住居址間の重複関係は認められず、1～2世代の小規模な集落であったと推定される。特筆されるのは第33号住居址で、4本の支柱穴と南壁中央部に梯子穴と推定される柱穴を持ち、北側中央部に小規模な石囲炉を有していた。住居址中央部でも焼土が検出されており主炉と推定されるが、石囲炉の検出は上田盆地では初例である。

第1号集石遺構(SX-01)は上部に集石を伴う略円形の土坑で、墓墳と推定される。また、2基検出された溝状遺構のうち、第1号溝状遺構は残高が浅く、第41号住居址と重複して東半分が不明確なものの、直径約9mの環状を呈している。第2号溝状遺構は調査区域南西部に位置し、残存長10.5mを測り、段丘縁に達している。

弥生時代後期の出土遺物としては、第12・20・48号住居址から良好な一括資料が出土したほかに、第40号住居址の南西壁際より完形の甕形土器が出土している。また、遺構外の資料として磨製石鏃、石包丁、土製円盤等の出土があった。

### 4. 古墳時代前期

古墳時代初頭期から前期にかけての遺構は、竪穴式住居址5軒(SB-01・14・49・52・53)、土坑1基(SK-12)とやや希薄である。

第1号住居址は一辺 3.2mの隅丸方形を呈する小住居址で、東海地方西部に分布の中心を持つS字状口縁台付甕形土器を出土している。

該期の遺物としては、第14・53号住居址から良好な一括資料が出土している。

### 5. 古墳時代中期

古墳時代中期の遺構としては、竪穴式住居址16軒(SB-02・03・07・10・13・15・16・18・22・31・35・37・38・44・45・50)、土坑1基(SK-10)がある。

住居址数は前代までと比較すると飛躍的に増加しているが、重複関係、主軸方向等から2～3世代の住居の存在が窺える。住居址の平面形は隅丸方形が主体を占め、規模は一辺が5～7m前後と比較的大型の住居が多く、さらに第13・37号住居址のように一辺が10m前後と突出して巨大



な住居址も出現する。両住居址からは多量の遺物が出土しており、第13号住居址からは須恵器甕が、第37号住居址からは勾玉2点が出土している。また、第44号住居址は中央部を第46号住居址によって破壊されていたものの、南西部の壁際を中心に多数の高坏類が出土し、他の住居とはやや性格が異なるものであった可能性が想起される。

大道下遺跡から浦野川を挟んだ地点には、この時期の築造と推定される和合將軍塚古墳が所在しており、この地域にかなりの権力を持った勢力が出現したことを示唆している。大道下遺跡における巨大な住居址の存在は、同古墳の築造に関与したであろう本集落の性格を考慮する上で興味深い問題を提起しているものといえよう。

## 6. 古墳時代後期

古墳時代後期の遺構としては、竪穴式住居址15軒(SB-04・05・06・11・23・26・27・29・30・32・34・36・46・47・51)がある。

住居址数では前代にほぼ匹敵し、連続して数世代の集落が営まれていたものと推定される。この時期の住居址は、前代に引き続き隅丸方形の住居址が大半を占めるが、規模は4～6m前後とやや小型化する傾向があり、前代のような圧倒的な規模の住居址は存在しない。カマドの方向は北、北西、西南西、東、北東とあまり一定していない。また、第36・46号住居址は古墳時代中期の第35・44号住居址の中央部に完全に収まっており、住居址が埋没する過程の窪地を意識的に再利用して構築された可能性が高い。

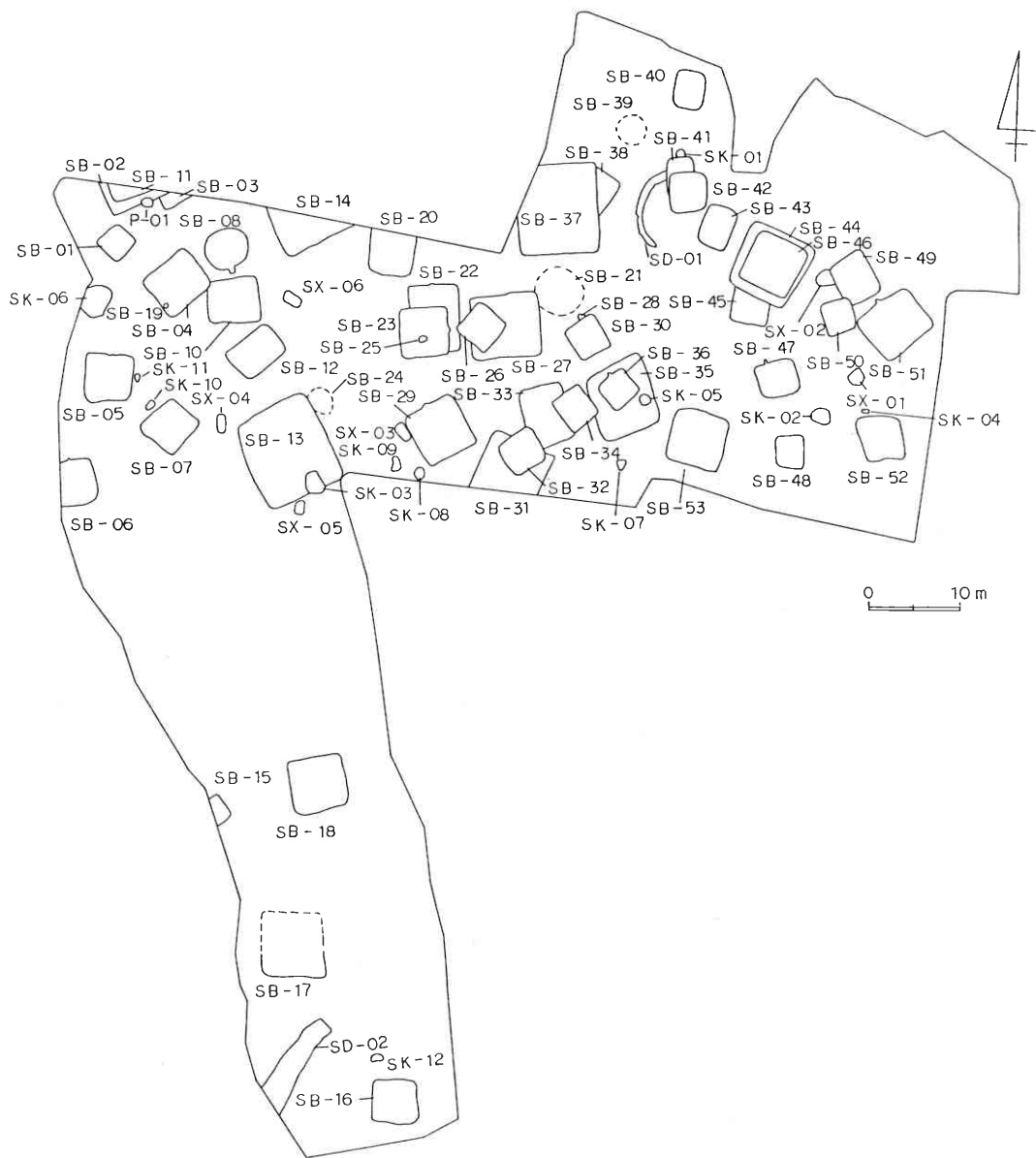
遺物としては第29・30号住居址から非常に良好な一括資料が出土しているが、他の住居址からも比較的豊富に出土している。

## 7. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は極めて希薄で、僅かに竪穴式住居址1軒(SB-42)が検出されたにすぎない。

この第42号住居址は僅かに東西方向に長い隅丸方形を呈し、南東隅部に石組粘土カマドを有している。出土した遺物は土師器の鏝釜と高台付坏、坏に限られ、平安時代後期に比定できよう。包含層あるいは他時期遺構への混入遺物としては、土師器高台付坏、坏、須恵器平瓶、灰釉陶器高台付坏等が出土している。

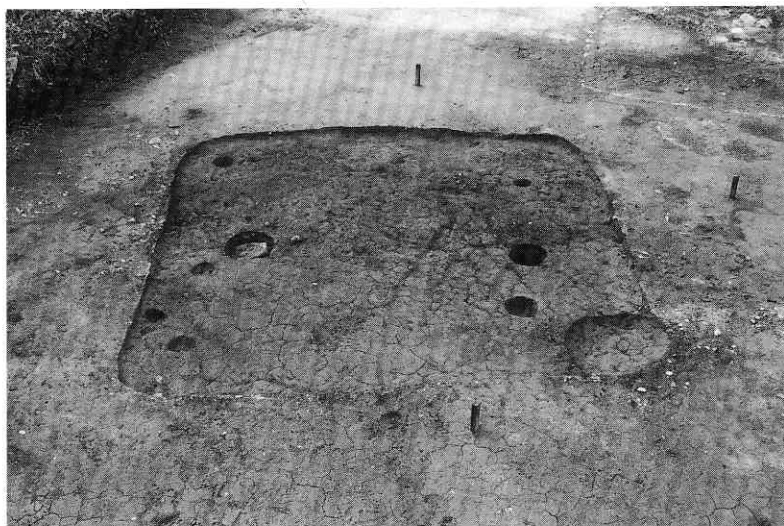
弥生時代後期から古墳時代後期にかけて隆盛を極めた大規模集落が、奈良期に入ると忽然として姿を消し、平安時代末期に至って再び僅かに人々が居住するようになる集落の変遷は、同じ第2段丘上に約500m離れて立地する琵琶塚遺跡でも全く同じ様相を呈している。そして両遺跡が途絶するのに時期を合わせて、南方の第1段丘上に高田遺跡が出現するのである。この現象は、古墳時代までの集落単位で行われていた水田開発が、奈良期に入り地域全体で計画的に実施されるようになり、集落の移動を伴う大規模な水田開発が実施されたことを示唆しているものと推測される。



第3図 大道下遺跡遺構配置図

## 第2節 遺 構

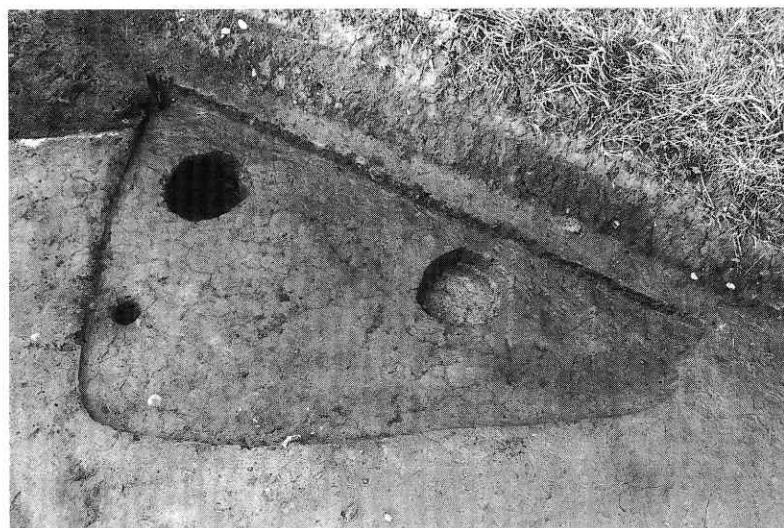
### 遺 構 写 真 図 版



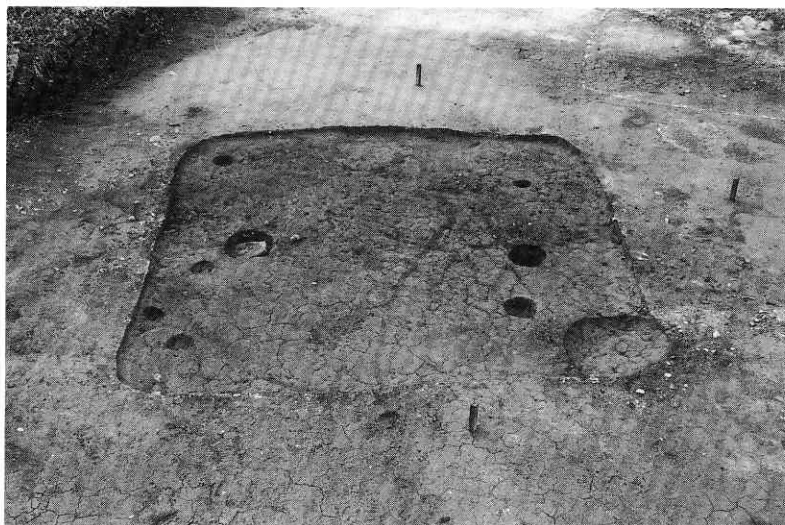
SB-01 (SE)



SB-02 (SE)



SB-03 (SE)



SB-01 (SE)



SB-02 (SE)

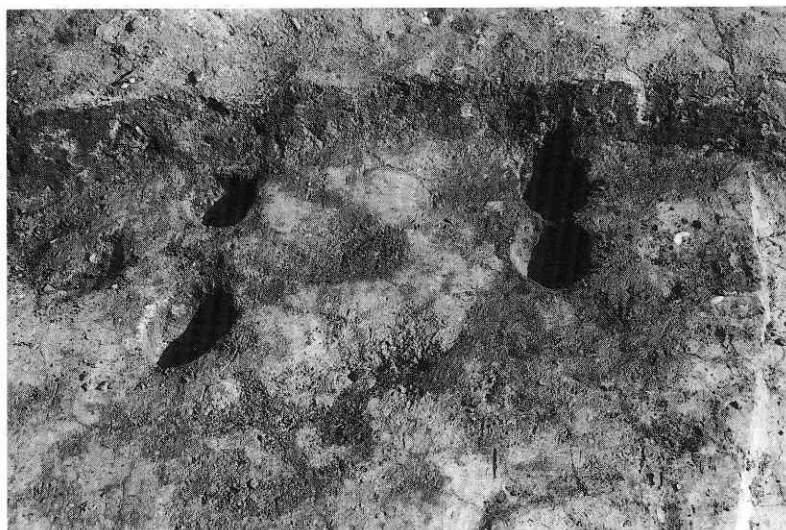


SB-03 (SE)





SB-04 (SW)



SB-04 竈 (SE)



SB-05 (S)



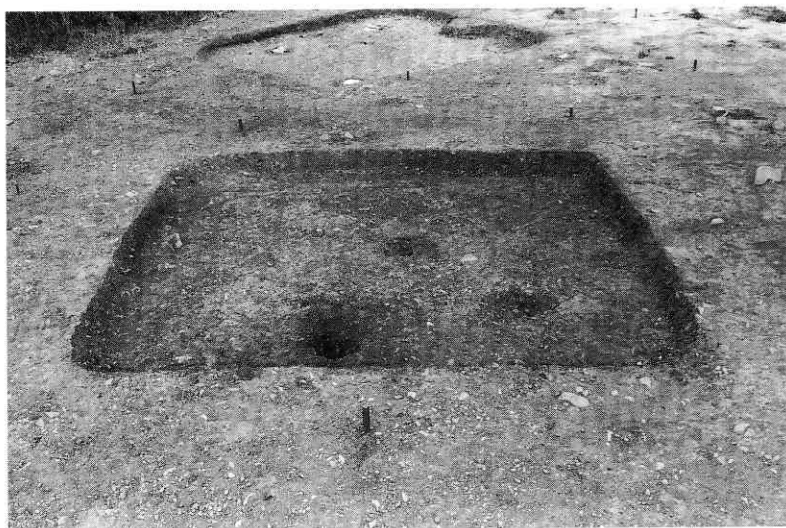
SB-05竈(S)



SB-06(S)



SB-06竈(S)



SB-07 (SE)

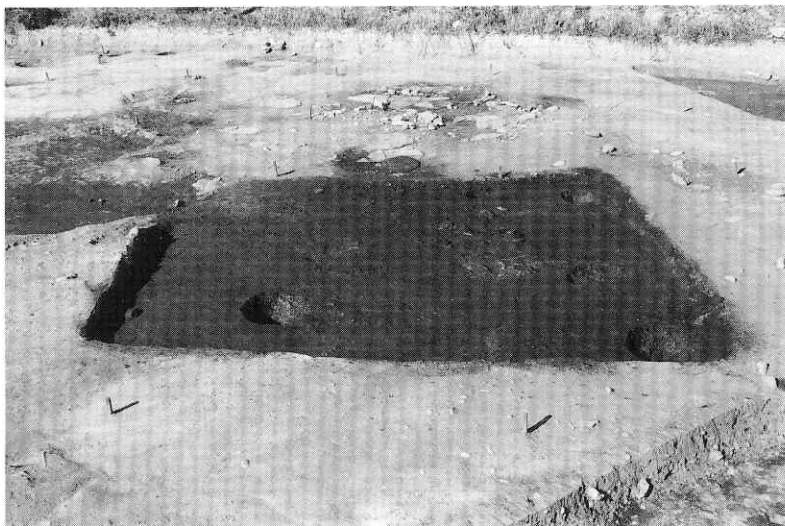


SB-08 (S)

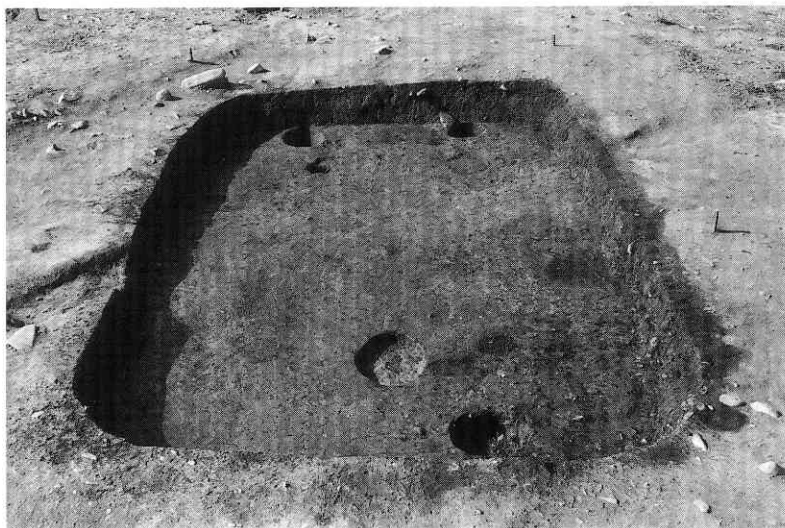


SB-08 炉 (N)





SB-10 (S)



SB-12 (SW)



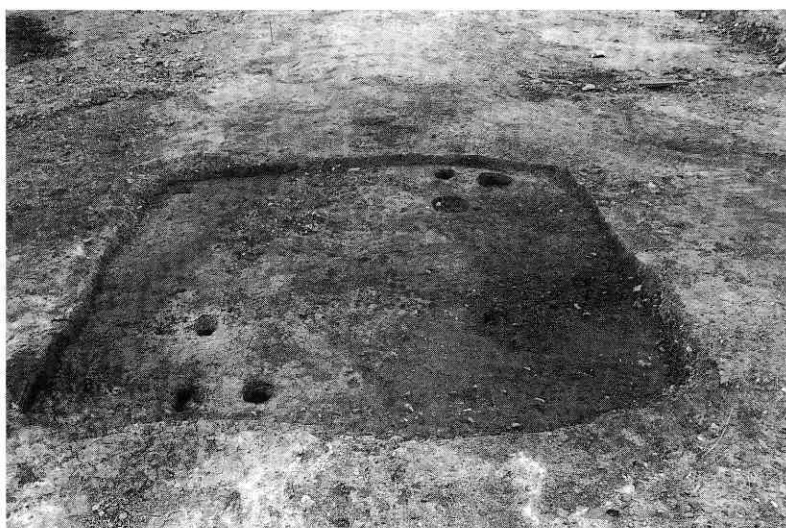
SB-13 (S)



SB-14 (SE)



SB-15 (S)



SB-16 (S)



SB-17 (E)



SB-18 (W)

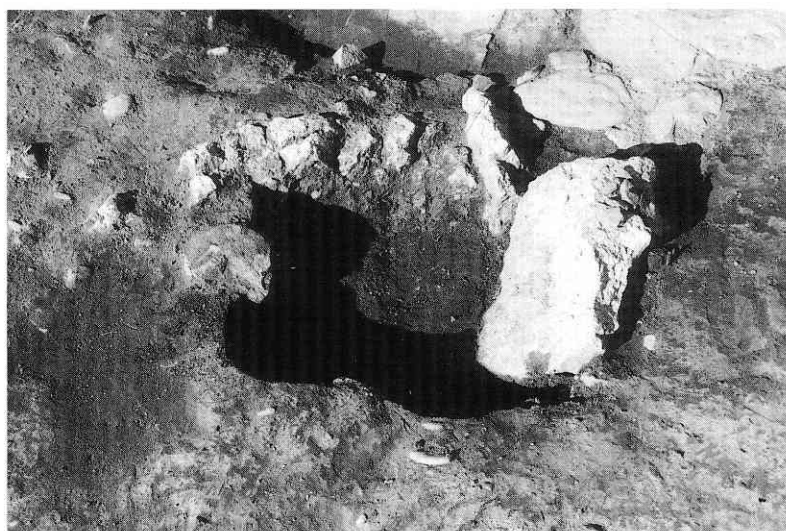


SB-20 (S)





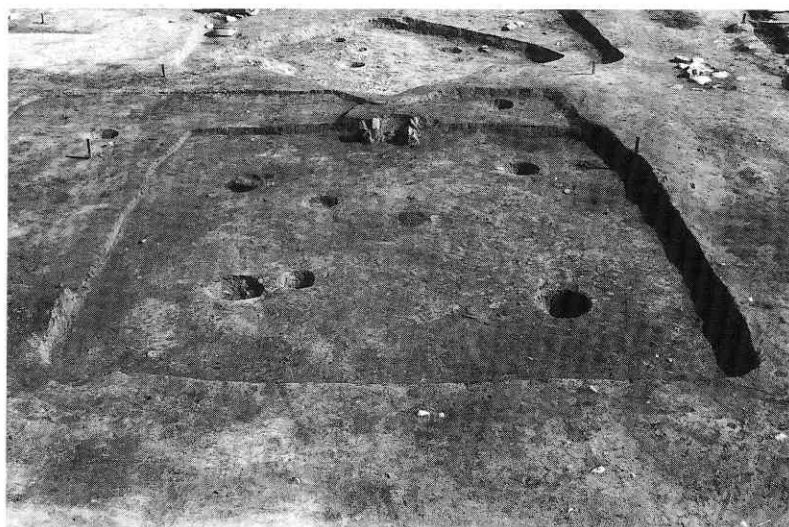
SB-21 (E)



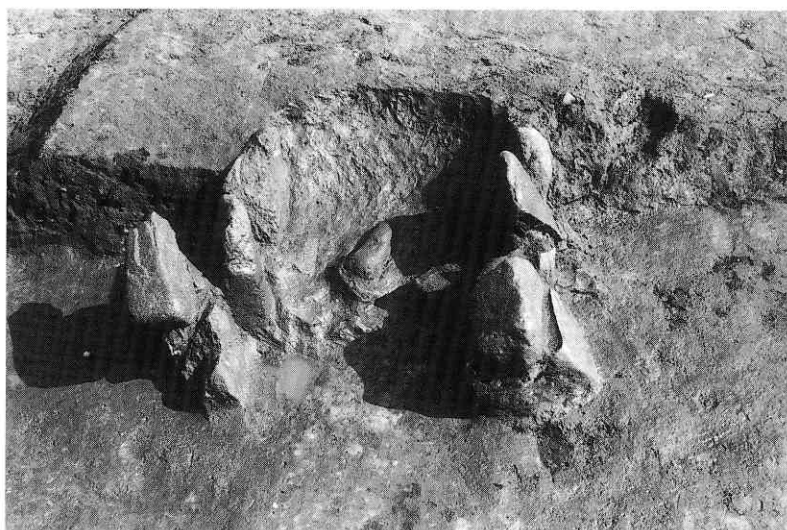
SB-21 炉 (S)



SB-22 (S)



SB-23 (W)



SB-23 竈 (W)

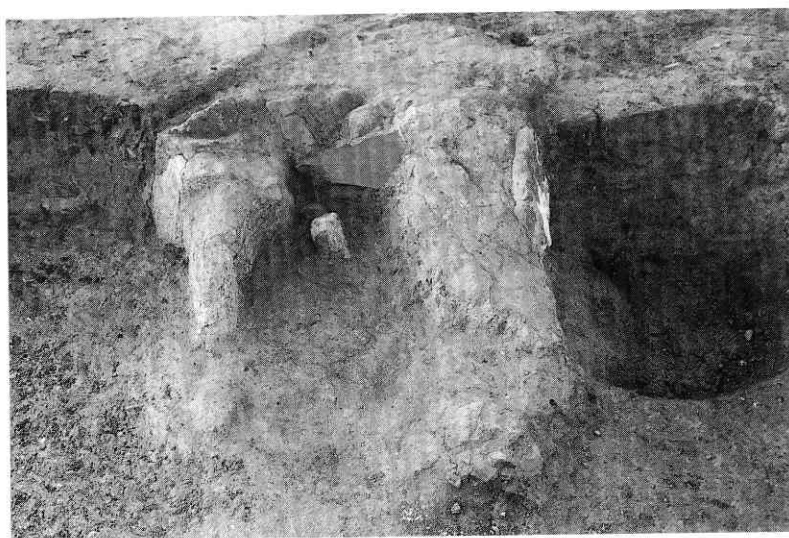


SB-24 (E)





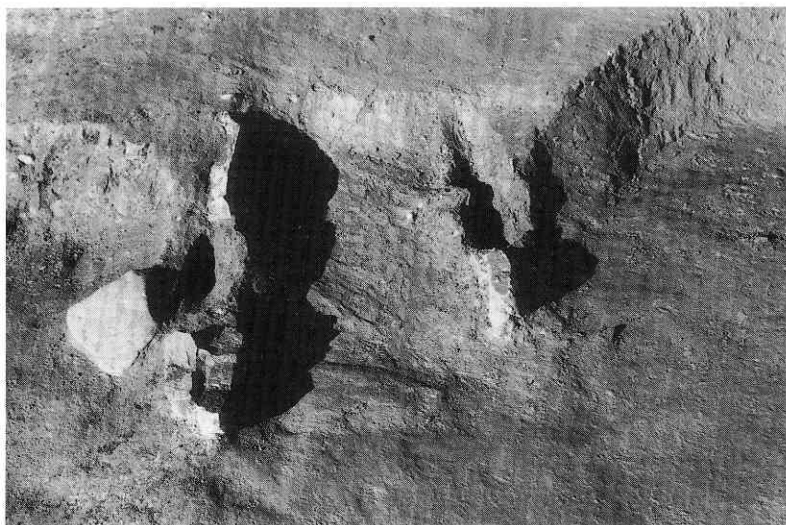
SB-26 (SE)



SB-26竈(S)



SB-27 (S)



SB-27 竈 (S)



琵琶塚遺跡試掘調査



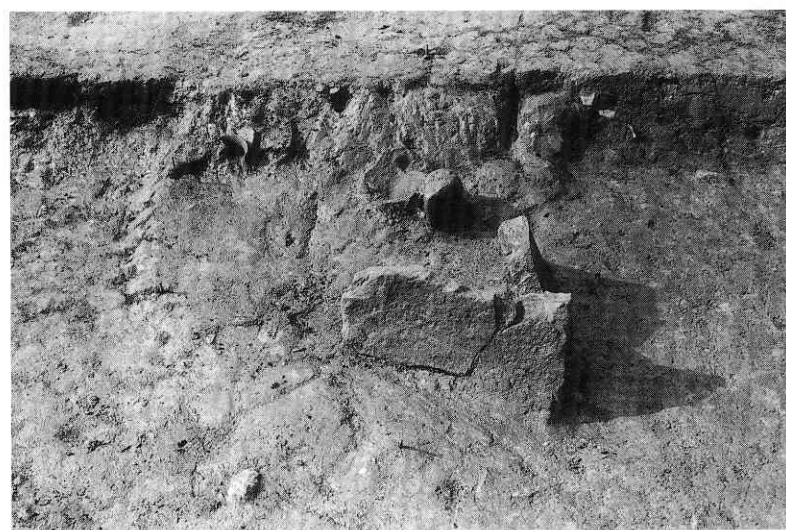
SB-29 (SE)



SB-29竈(S)



SB-30 (NE)



SB-30竈(N)





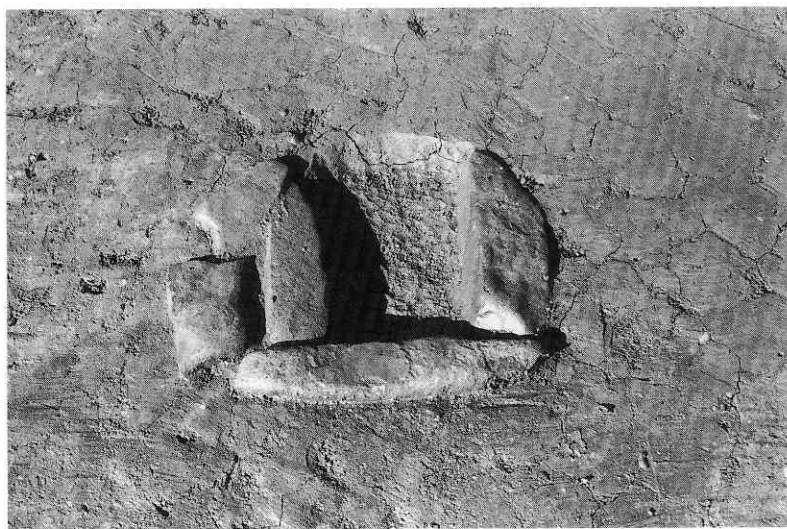
SB-31,32 (S)



SB-32 竈(SE)



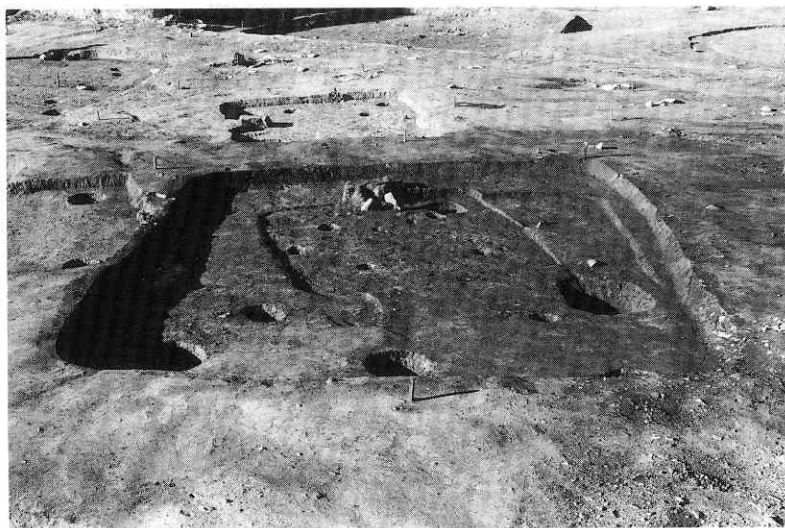
SB-33 (SE)



SB-33 炉 (S)



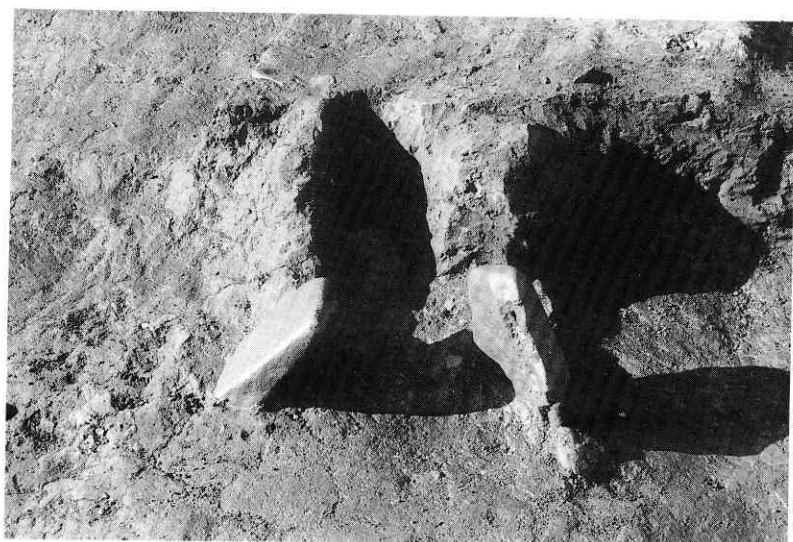
SB-34 (E)



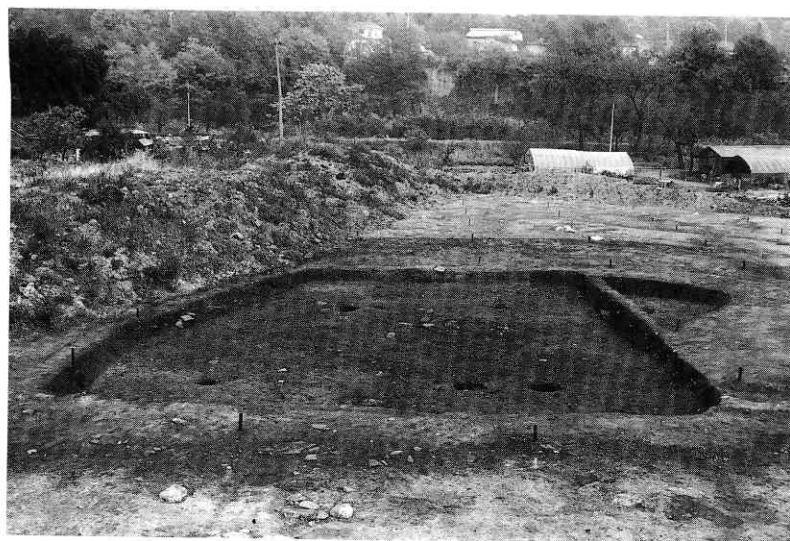
SB-35 (S)



SB-36 (SE)



SB-36竈 (SE)

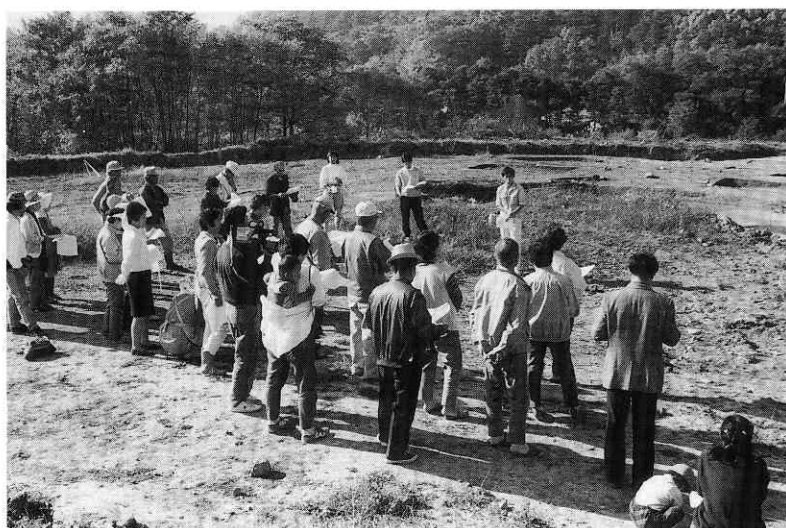


SB-37 (S)





SB-38 (SE)



現地説明会



SB-40 (E)



SB-40  
甕出土状況



SB-41 (S)

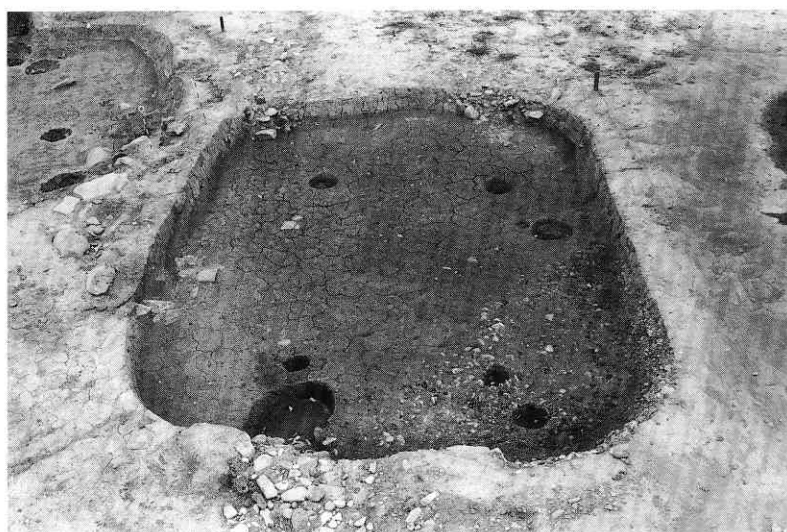


SB-42 (W)





SB-42 竈 (W)



SB-43 (S)



SB-44 (S)



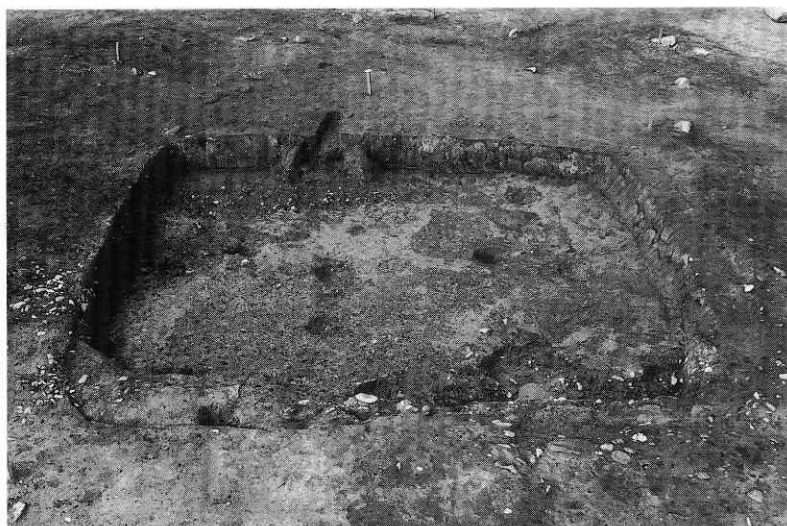
SB-45 (S)



SB-46 (E)



SB-46竈 (E)



SB-47 (S)



SB-47 竈 (S)



SB-48 (S)

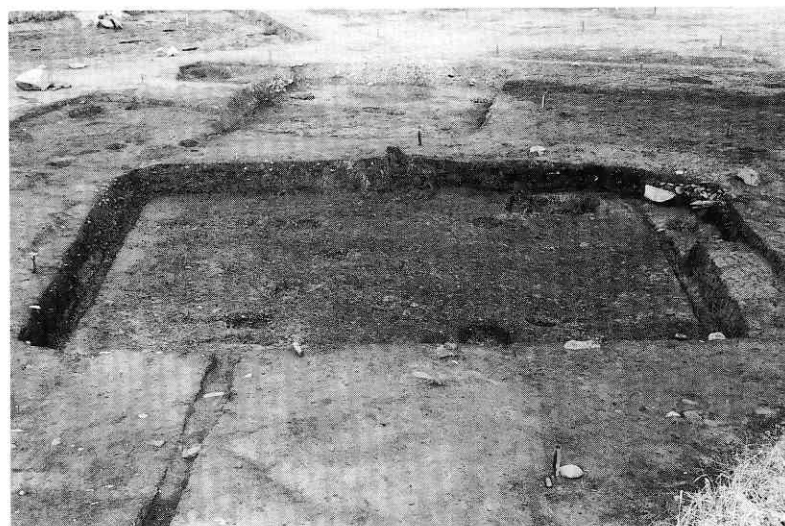




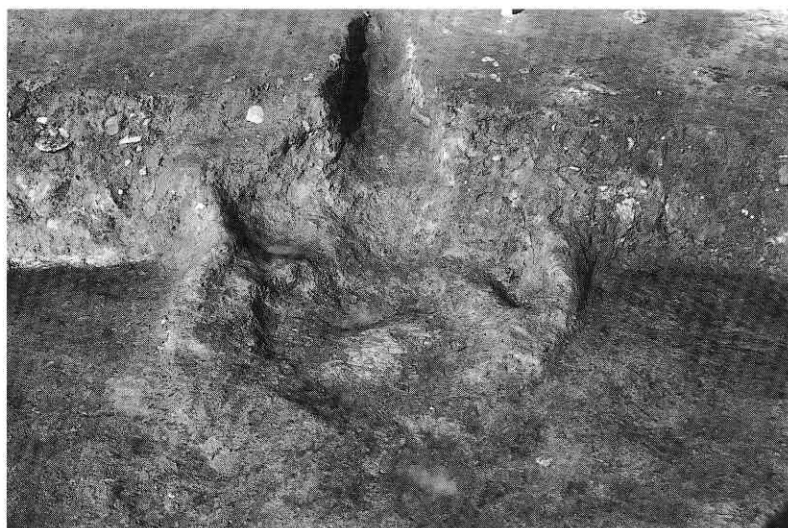
SB-49 (SW)



SB-50 (S)



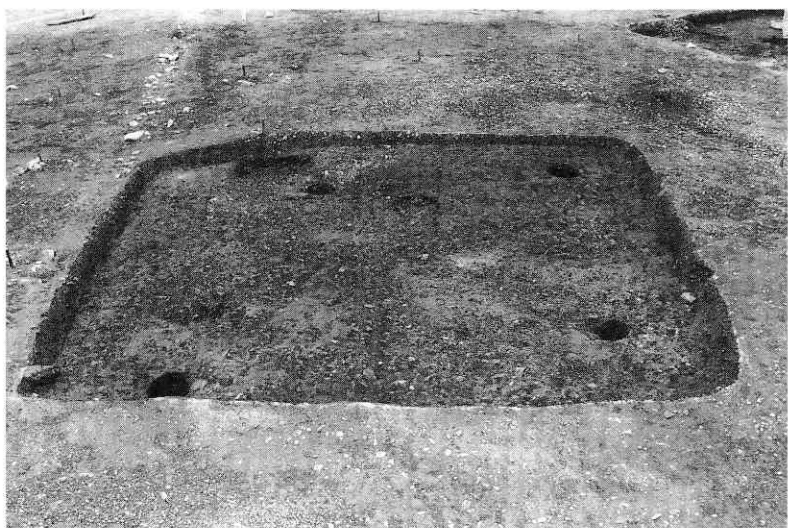
SB-51 (SE)



SB-51 竈 (SW)



SB-52 (S)



SB-53 (S)



SD-01 (S)

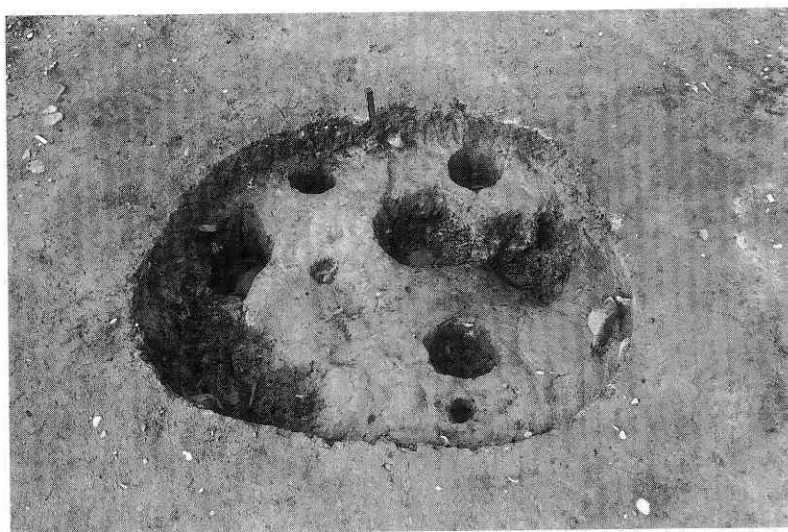


SD-02 (SE)

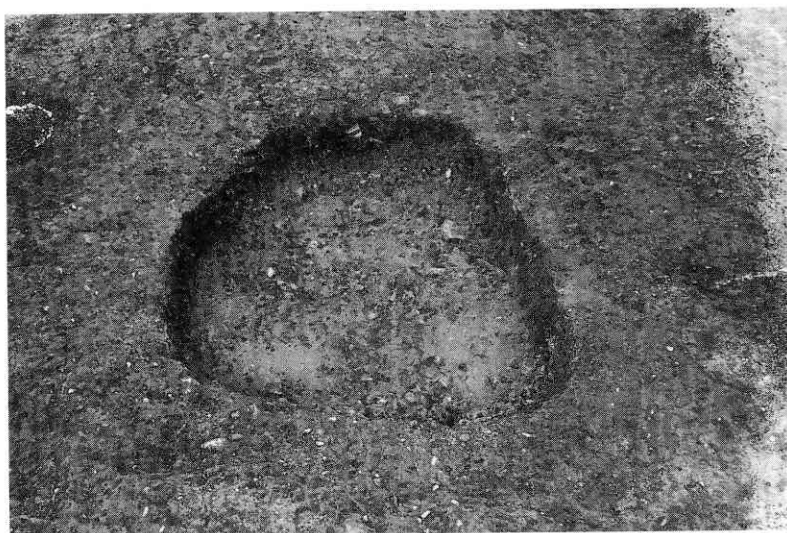


P-01 (SE)

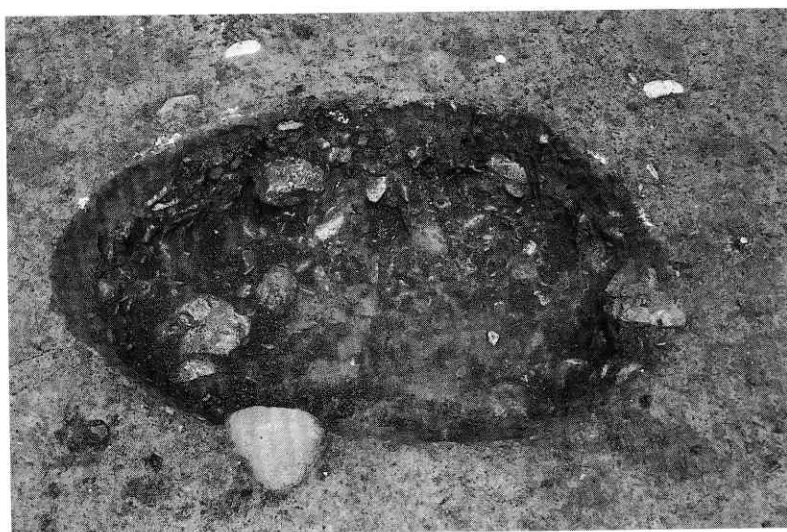




SK-02 (S)



SK-03 (S)



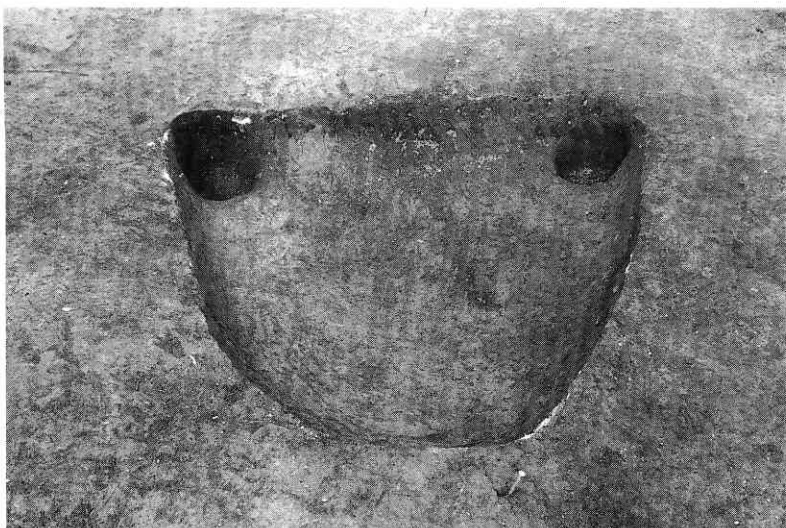
SK-04 (S)



SK-05 (E)



SK-06 (NW)



SK-07 (S)





SK-08 (S)



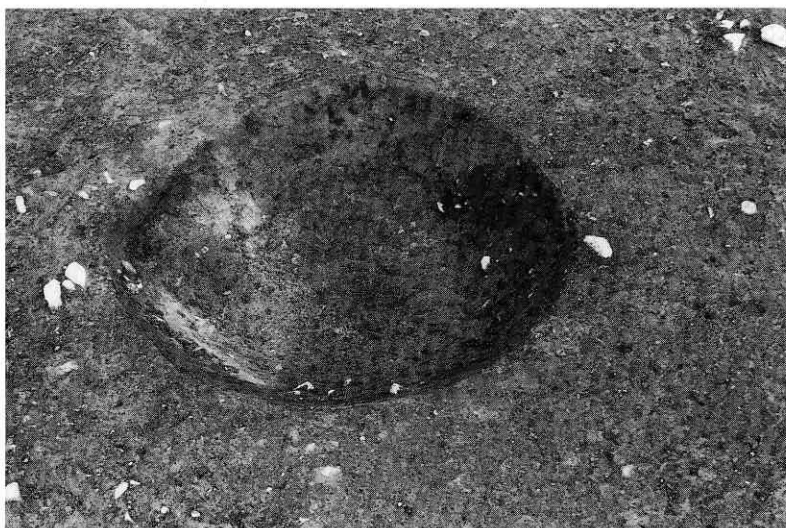
SK-09 (E)



SK-10 (S)



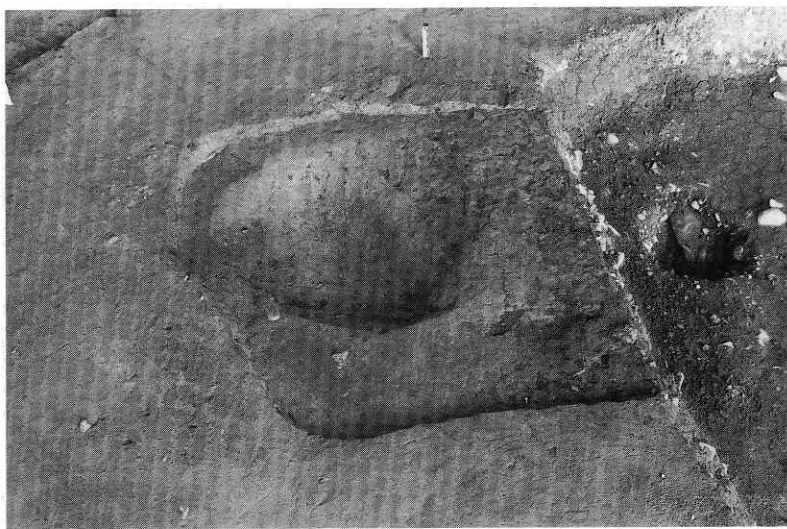
SX-01 (S)



SX-01全掘 (S)



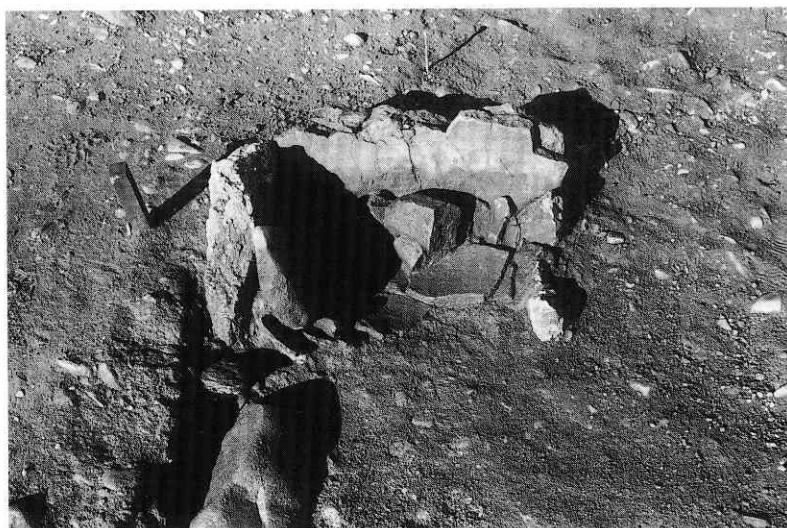
SX-02 (S)



SX-02 全掘 (S)



SX-03 (W)

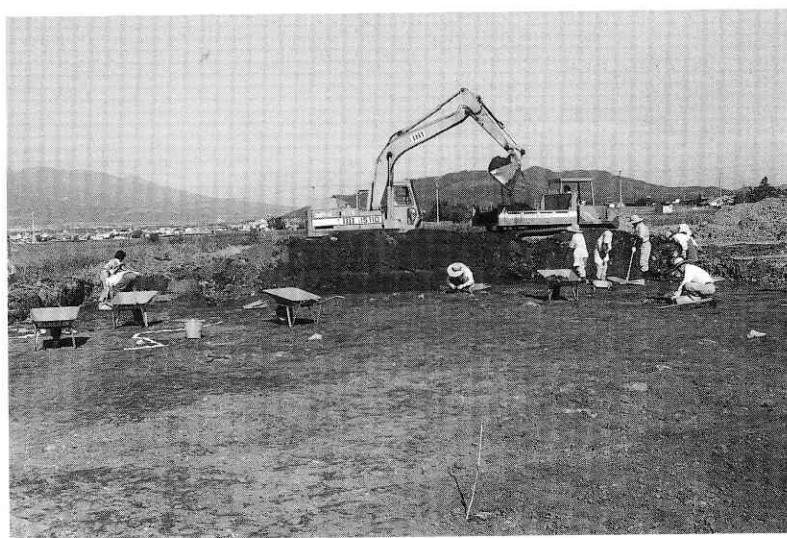


SX-04 (S)

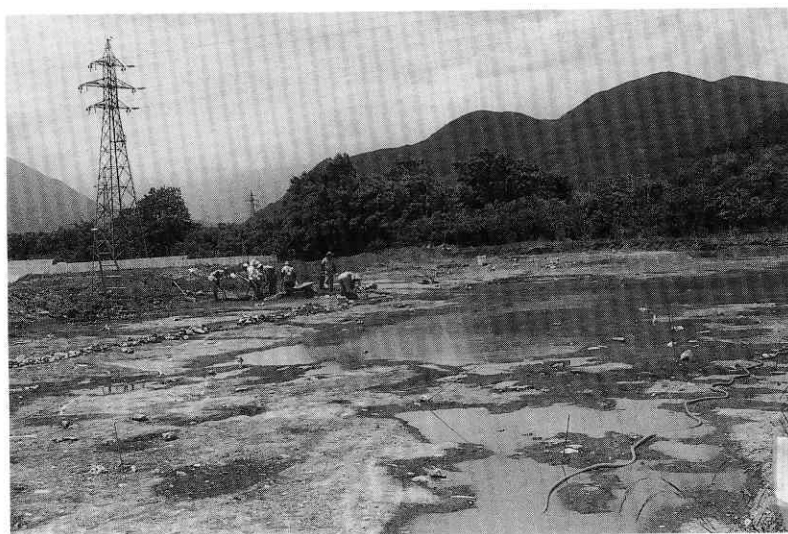




SX-05 (E)



表土剥～遺構検出



調査区域冠水



遺構掘り



遺構掘り～実測



調査作業員の皆さん

番号	平面形態	規模			主軸方向	炉址・カマド	所産期	備考
		長軸	短軸	壁高				
1	隅丸方形	3.2	3.2	5~7	N-45°-W	北西側中央部	古墳時代前期	
2	隅丸方形?	—	—	6~13	N-23°-W	不明	古墳時代中期	
3	隅丸方形?	2.5	—	2~6	N-20°-W	不明	古墳時代中期?	
4	隅丸長方形	6.0	5.3	6~50	N-53°-E	東壁中央部	古墳時代後期	
5	隅丸方形	5.5	5.0	19~30	N-6°-E	北壁中央部	古墳時代後期	
6	隅丸方形?	4.9	(4.8)	6~17	N-11°-W	北壁中央部	古墳時代後期	
7	隅丸方形	4.9	4.8	13~25	N-48°-W	不明	古墳時代中期	
8	柄鏡形	(5.0)	5.4	0~10	N-20°-W	主体部中央	縄文時代後期	敷石住居址
10	隅丸方形	5.2	4.9	0~22	N-1°-W	中央部	古墳時代中期	
11	隅丸方形?	—	—	3~5	N-18°-W	不明	古墳時代後期	
12	隅丸長方形	5.7	3.9	28~40	N-54°-E	中央部西寄り	弥生時代後期	
13	隅丸方形	10.1	9.1	21~40	N-26°-W	不明	古墳時代中期	
14	隅丸方形?	—	—	12~21	N-23°-W	不明	古墳時代前期	
15	隅丸方形?	2.9	—	2~8	N-33°-W	中央部?	古墳時代中期	
16	隅丸方形	5.0	4.9	8~20	N-89°-W	中央部北寄り	古墳時代中期	
17	隅丸長方形?	6.7	—	0~21	N-90°-EW	不明	弥生時代後期	
18	隅丸方形	6.0	6.0	16~40	N-11°-W	中央部	古墳時代中期	
19	不明	—	—	—	不明	不明	縄文時代中期	埋甕のみ
20	隅丸長方形?	—	5.0	15~34	N-8°-W	中央部?	弥生時代後期	
21	不明	—	—	—	不明	中央部?	縄文時代中期?	敷石住居址
22	隅丸長方形	7.3	5.4	3~13	N-0°-EW	不明	古墳時代中期	
23	隅丸方形	5.3	5.3	2~19	N-88°-E	東壁中央部	古墳時代後期	
24	楕円形?	(4.3)	(3.0)	—	N-30°-E	不明	縄文時代中期	敷石住居址
25	不明	—	—	—	不明	不明	縄文時代中期	埋甕のみ
26	隅丸方形	4.1	4.1	5~32	N-45°-W	西壁北寄り	古墳時代後期	
27	隅丸方形	7.4	6.7	5~20	N-2°-W	北壁中央部	古墳時代後期	

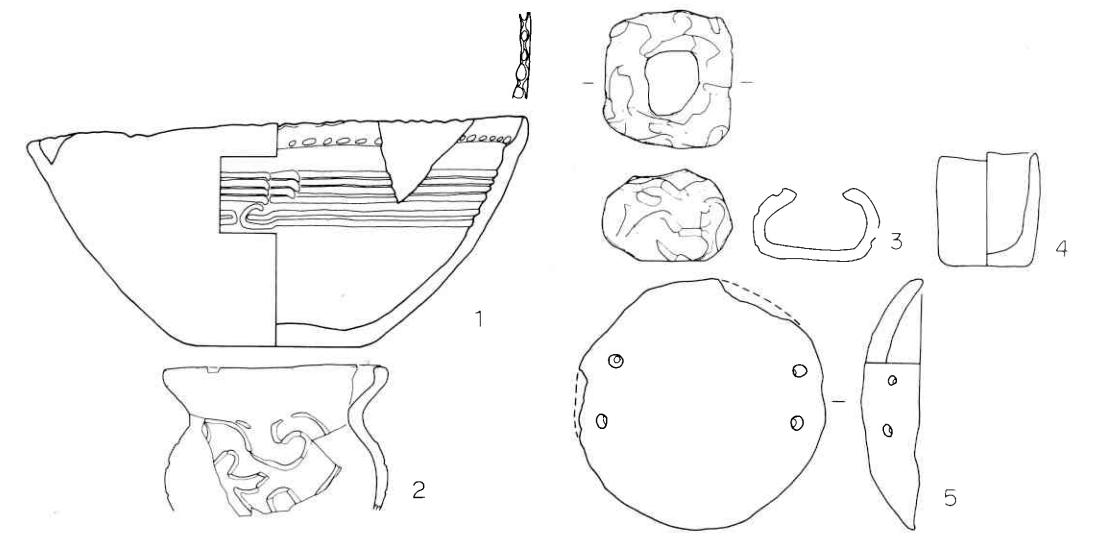
番号	平面形態	規模			主軸方向	炉址・カマド	所産期	備考
		長軸	短軸	壁高				
28	不明	—	—	—	不明	不明	縄文時代中期	埋甕のみ
29	隅丸方形	6.0	5.9	9~25	N-28°-W	北壁中央部	古墳時代後期	
30	隅丸方形	4.0	3.8	11~20	N-120°-W	西壁中央部	古墳時代後期	
31	隅丸方形?	7.1	—	12~28	N-25°-E	不明	古墳時代中期	
32	隅丸方形?	(4.8)	—	19~24	N-30°-W	北壁中央部	古墳時代後期	
33	隅丸長方形	6.5	4.3	19~36	N-16°-W	中央部?	弥生時代後期	北壁中央部に石囲炉
34	隅丸方形	4.2	4.0	12~30	N-50°-E	東壁中央部	古墳時代後期	
35	隅丸長方形	7.8	6.5	15~28	N-20°-W	不明	古墳時代中期	
36	隅丸方形	3.5	3.5	4~15	N-38°-W	北壁中央部	古墳時代後期	
37	隅丸方形	9.7	8.8	22~35	N-2°-W	不明	古墳時代中期	
38	隅丸方形?	4.6	—	25~28	N-35°-E	不明	古墳時代中期?	
39	不明	—	—	—	不明	中央部?	縄文時代中期	
40	隅丸長方形	4.1	3.2	11~33	N-8°-E	中央部北寄り	弥生時代後期	
41	隅丸長方形	(4.5)	3.1	21~32	N-2°-W	不明	弥生時代後期	
42	隅丸方形	4.3	4.1	11~33	N-90°-E	南東隅部	平安時代後期	
43	隅丸長方形	4.8	3.5	15~28	N-22°-E	中央部北寄り	弥生時代後期	
44	隅丸方形	7.5	7.5	25~36	N-25°-E	不明	古墳時代中期	
45	隅丸方形?	4.4	—	6~10	N-12°-E	中央部?	古墳時代中期	
46	隅丸方形	5.9	5.8	0~5	N-66°-W	西壁中央部	古墳時代後期	
47	隅丸方形	4.4	4.0	28~41	N-17°-W	北壁西寄り	古墳時代後期	
48	隅丸長方形	3.6	3.0	5~22	N-2°-W	中央部北寄り	弥生時代後期	
49	隅丸長方形	5.2	4.2	26~40	N-32°-W	中央部	古墳時代前期	
50	隅丸方形	3.5	3.4	6~14	N-16°-W	中央部	古墳時代中期	
51	隅丸長方形	6.5	5.8	33~43	N-41°-W	北壁中央部	古墳時代後期	
52	隅丸方形	5.0	4.8	5~13	N-7°-W	中央部北寄り	古墳時代前期	
53	隅丸方形	6.5	6.0	10~21	N-15°-E	中央部	古墳時代前期	

第2表 住居址計測一覧表

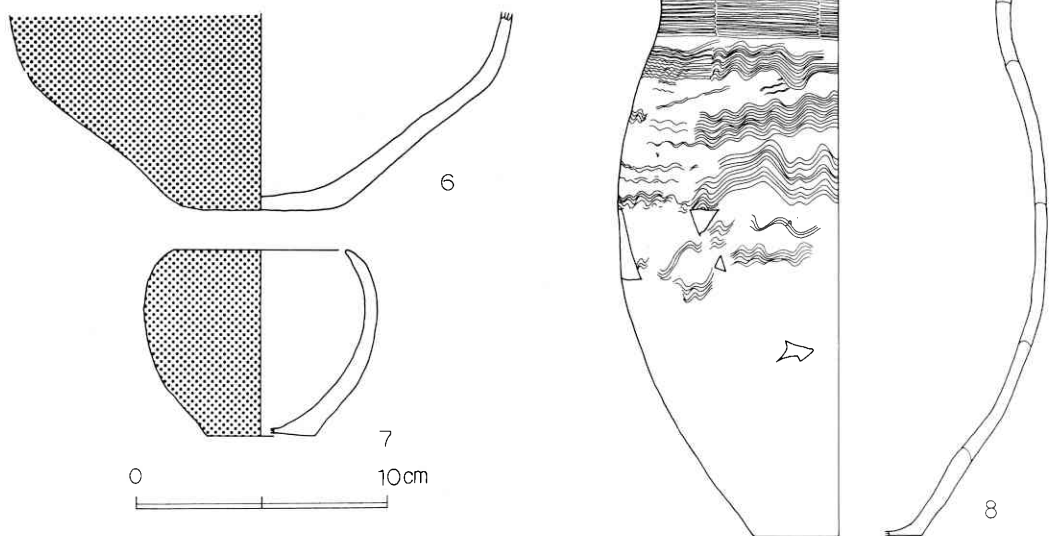
## 第5章 遺物

### 1 住居址出土遺物

#### (1) 縄文時代

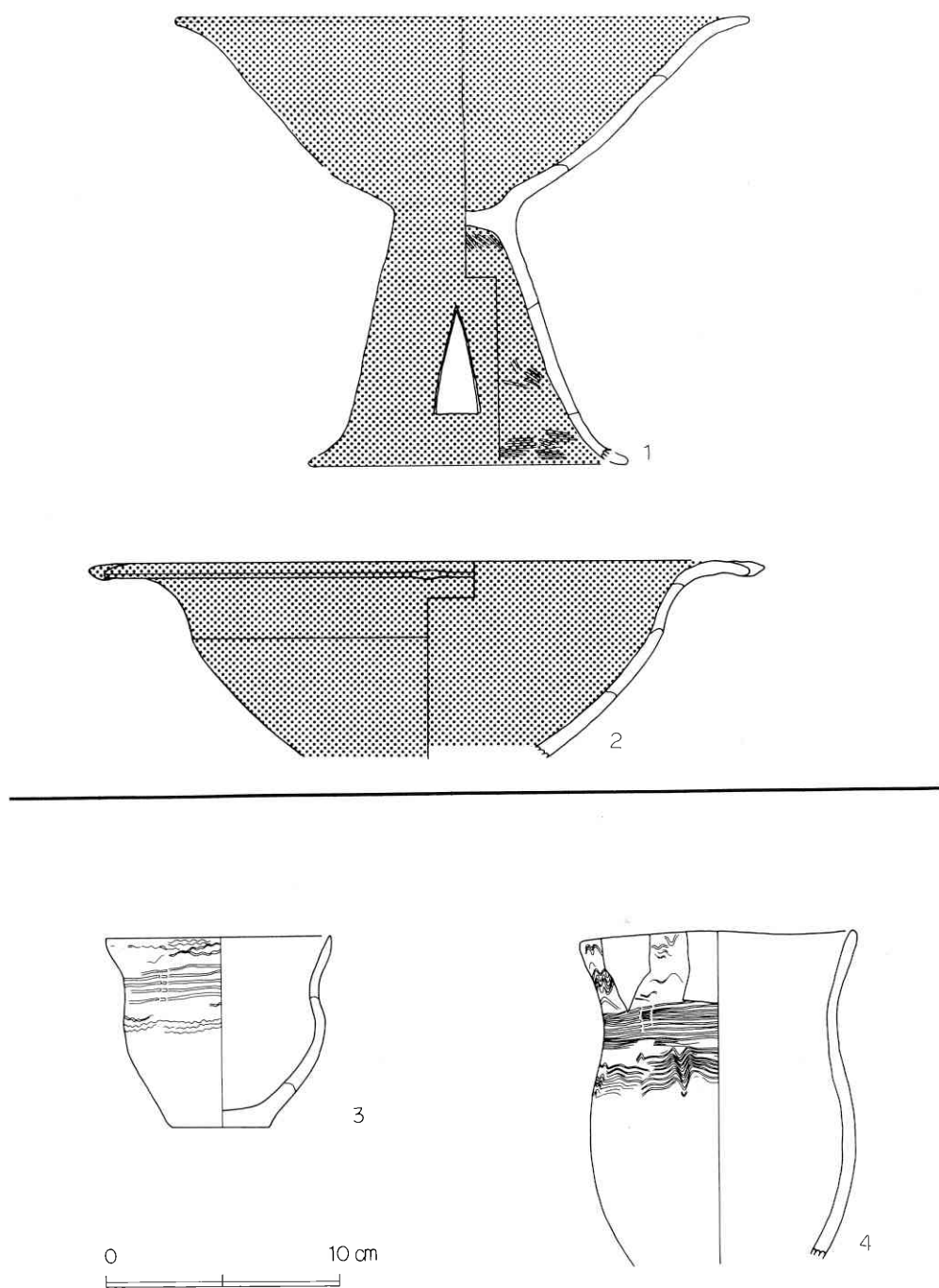


#### (2) 弥生時代

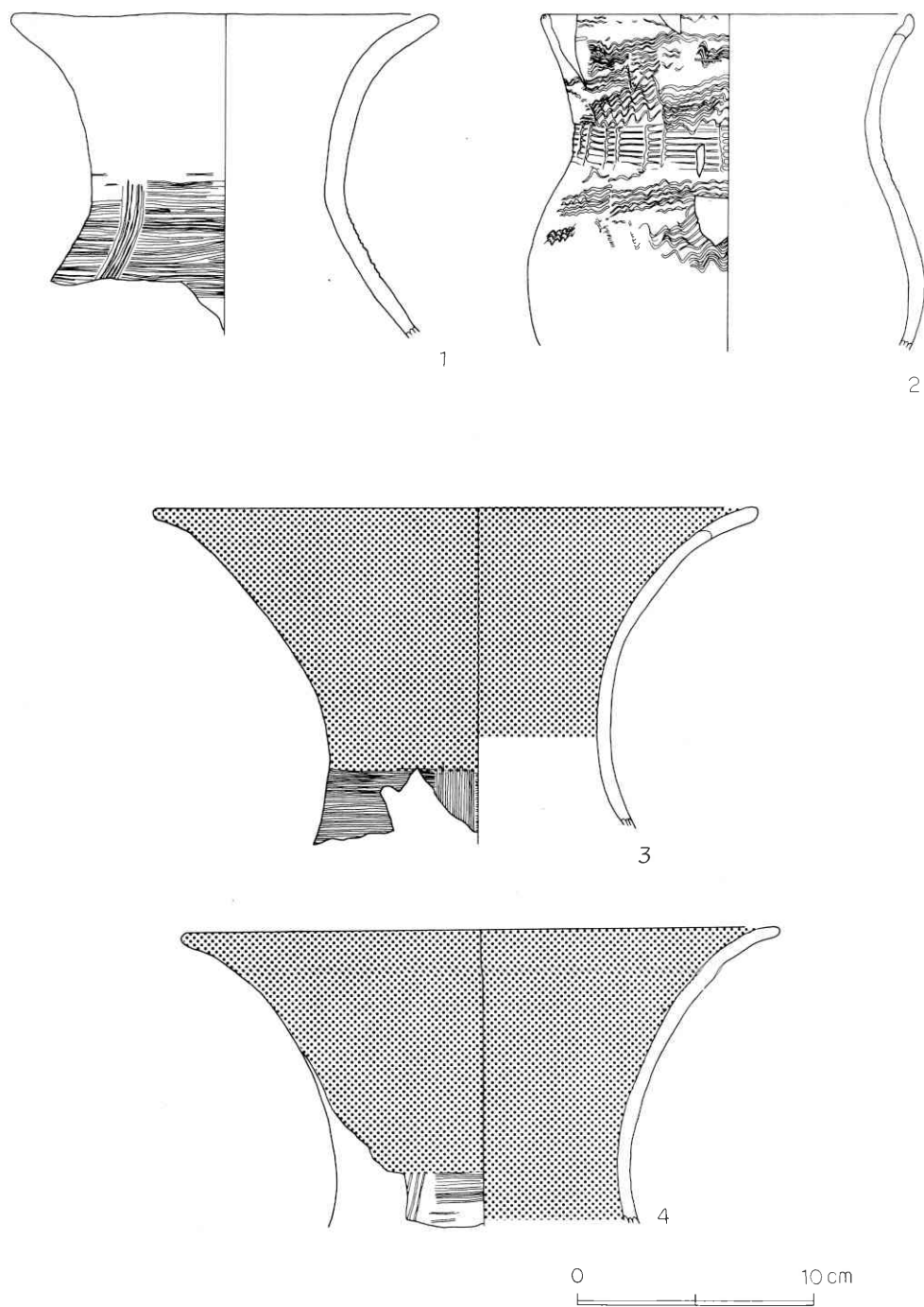


第4図 第8号住居址・第12号住居址出土遺物実測図

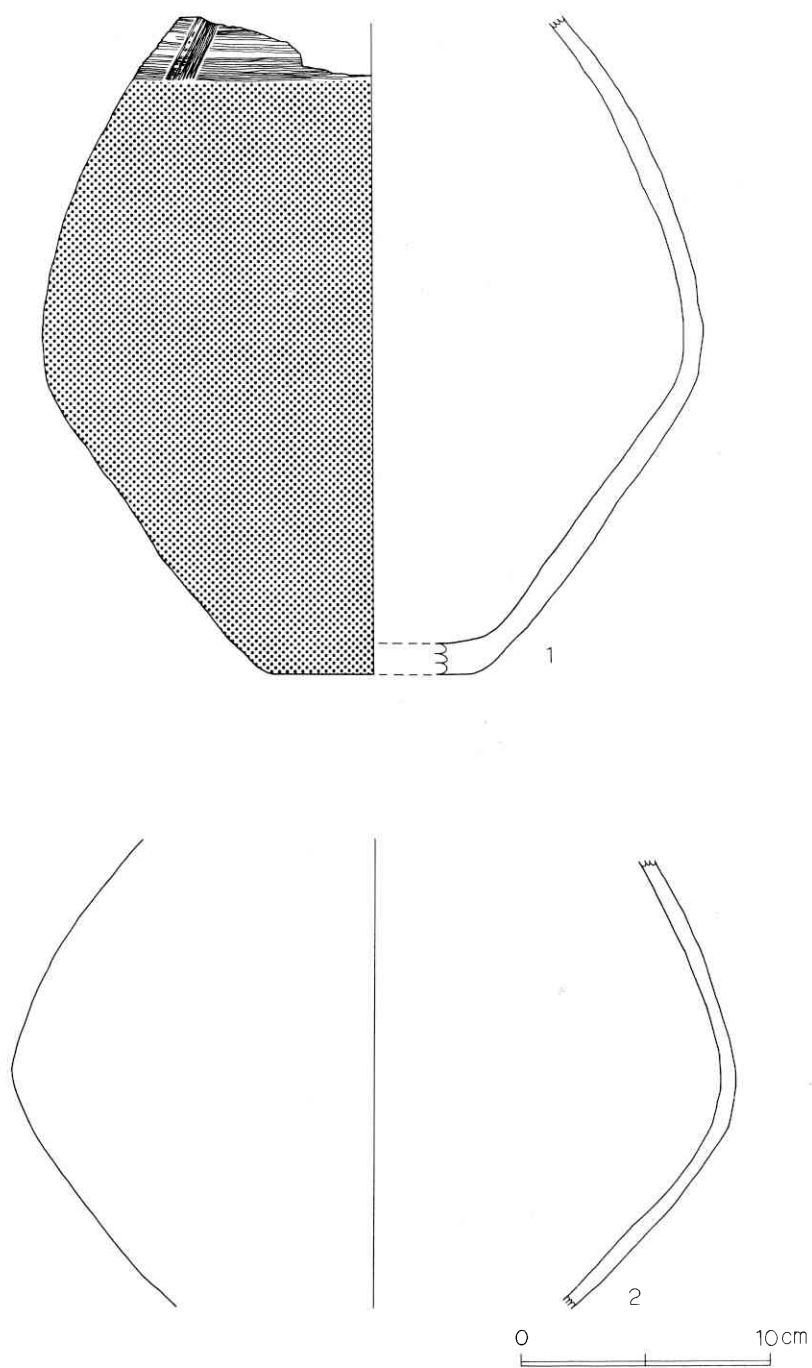




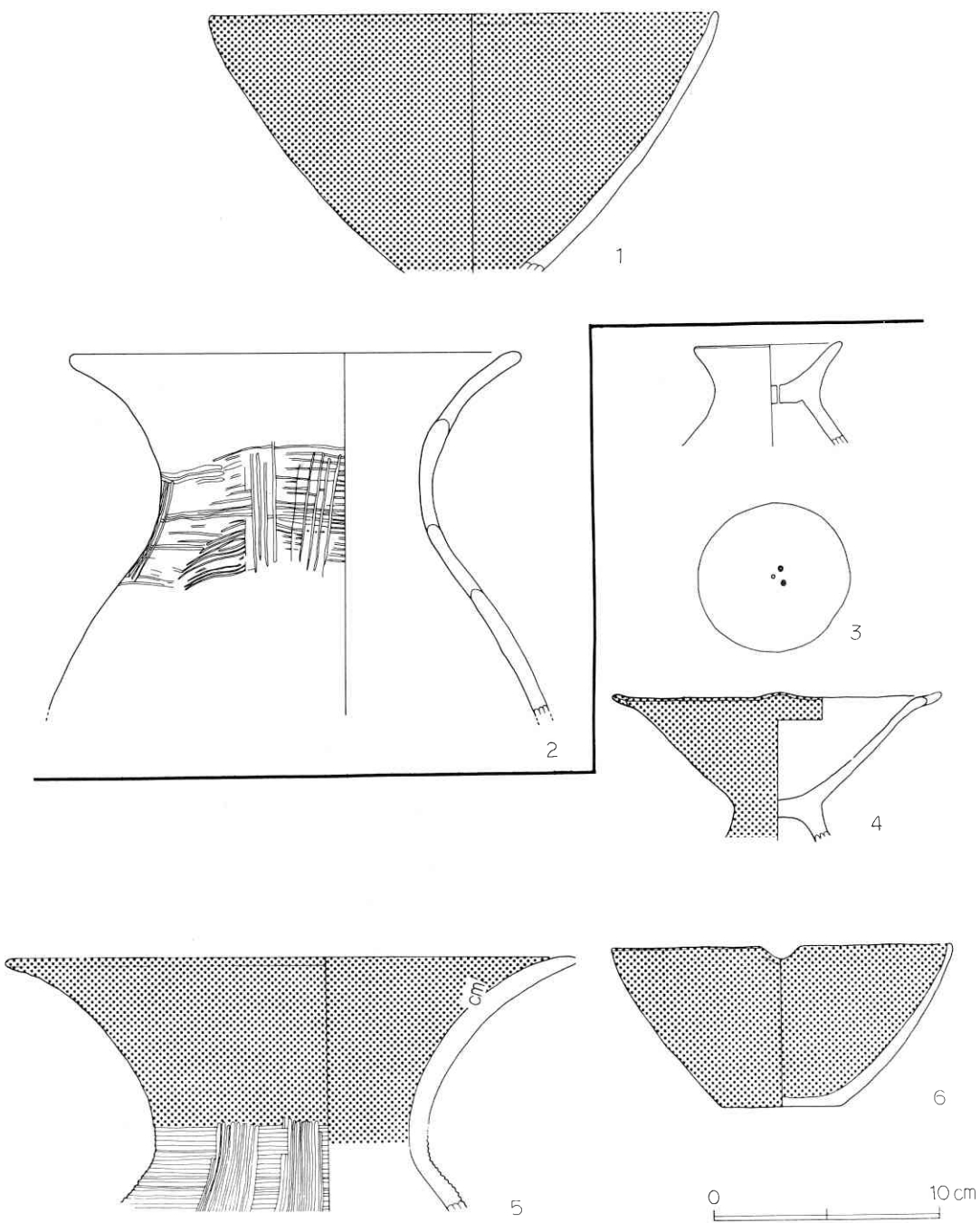
第5図 第12号住居址・第20号住居址出土遺物実測図



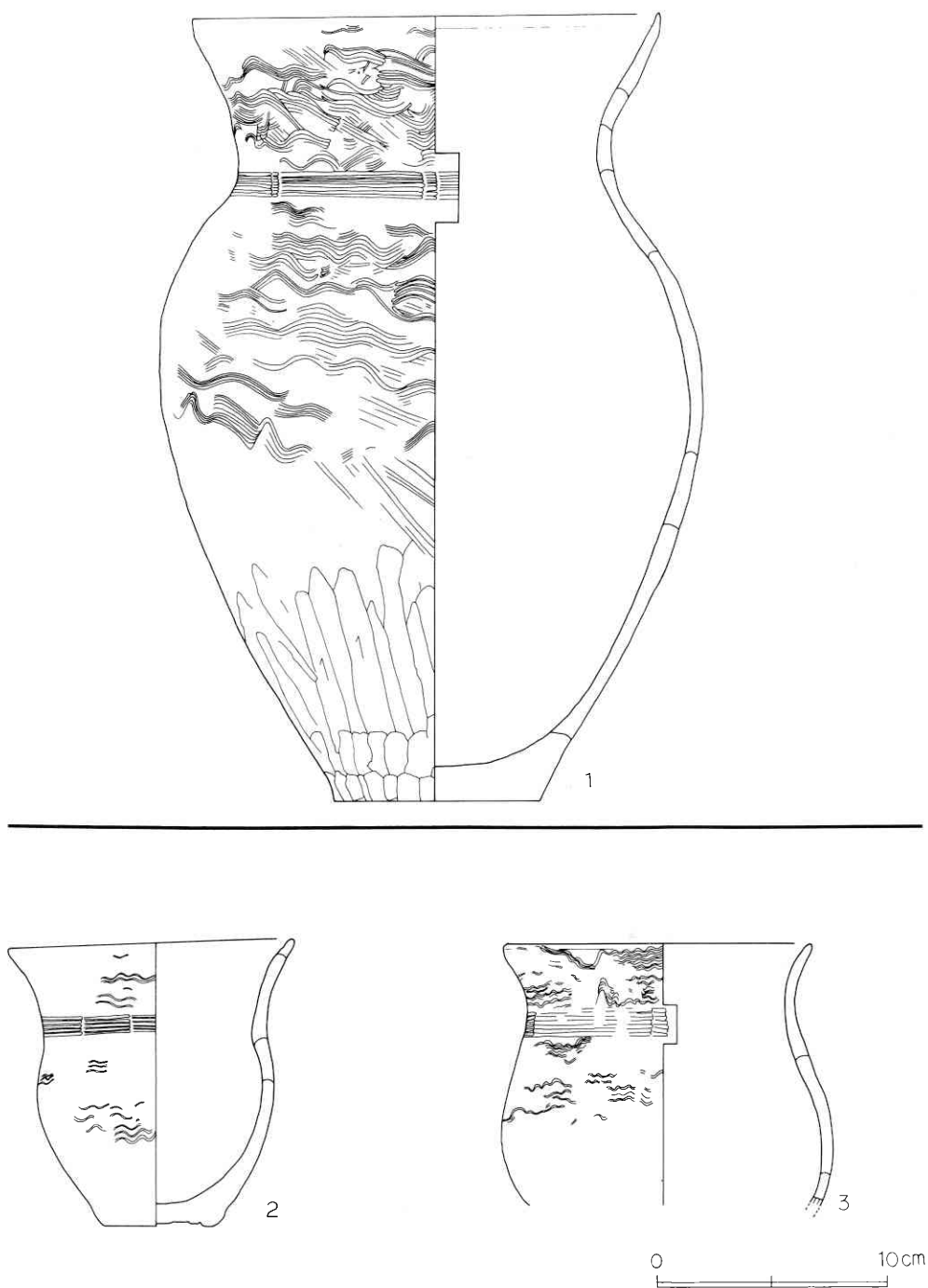
第6図 第20号住居址出土遺物実測図



第7図 第20号住居址出土遺物実測図

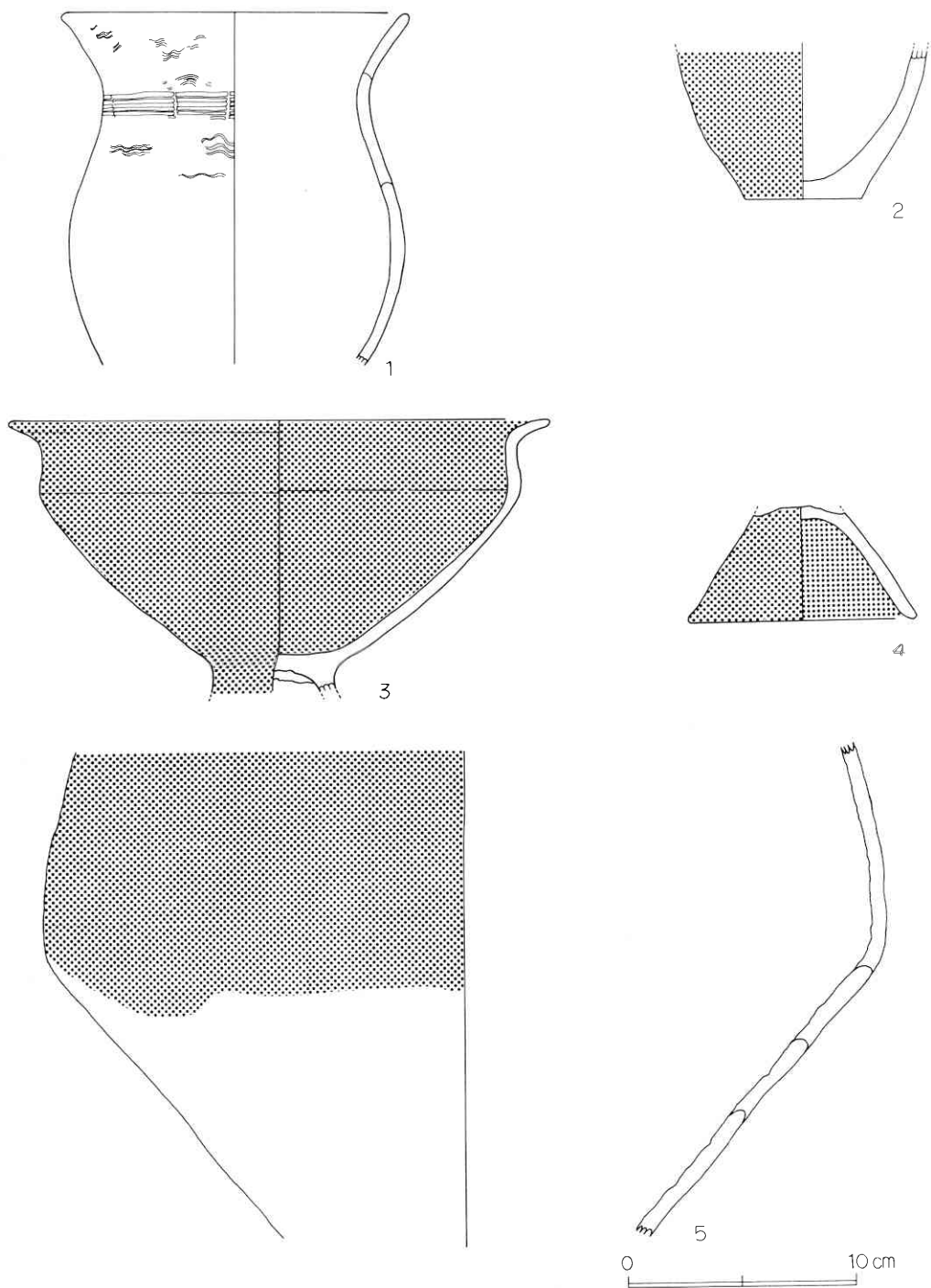


第8図 第33号住居址・第40号住居址出土遺物実測図



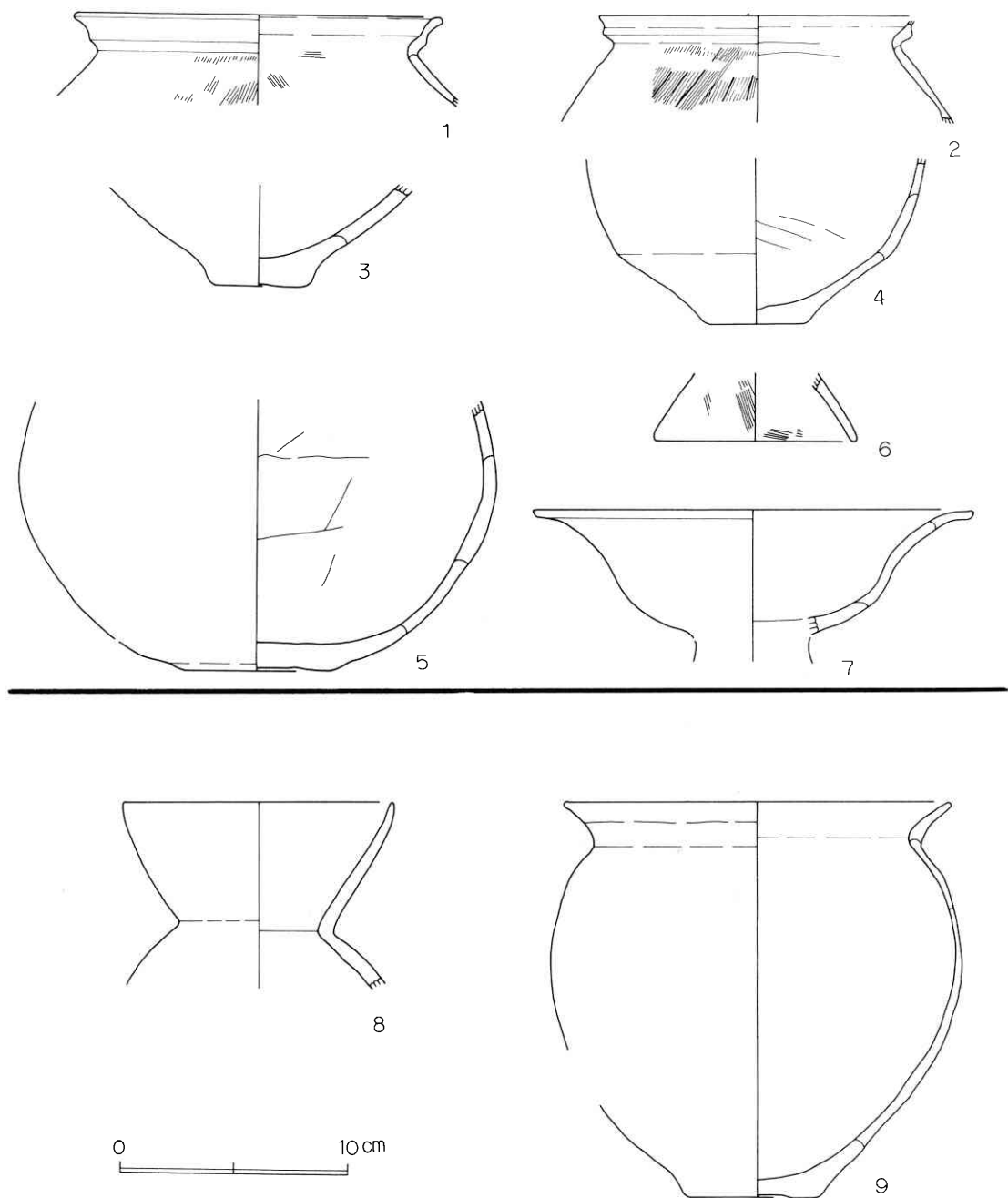
第9図 第40号住居址・第48号住居址出土遺物実測図



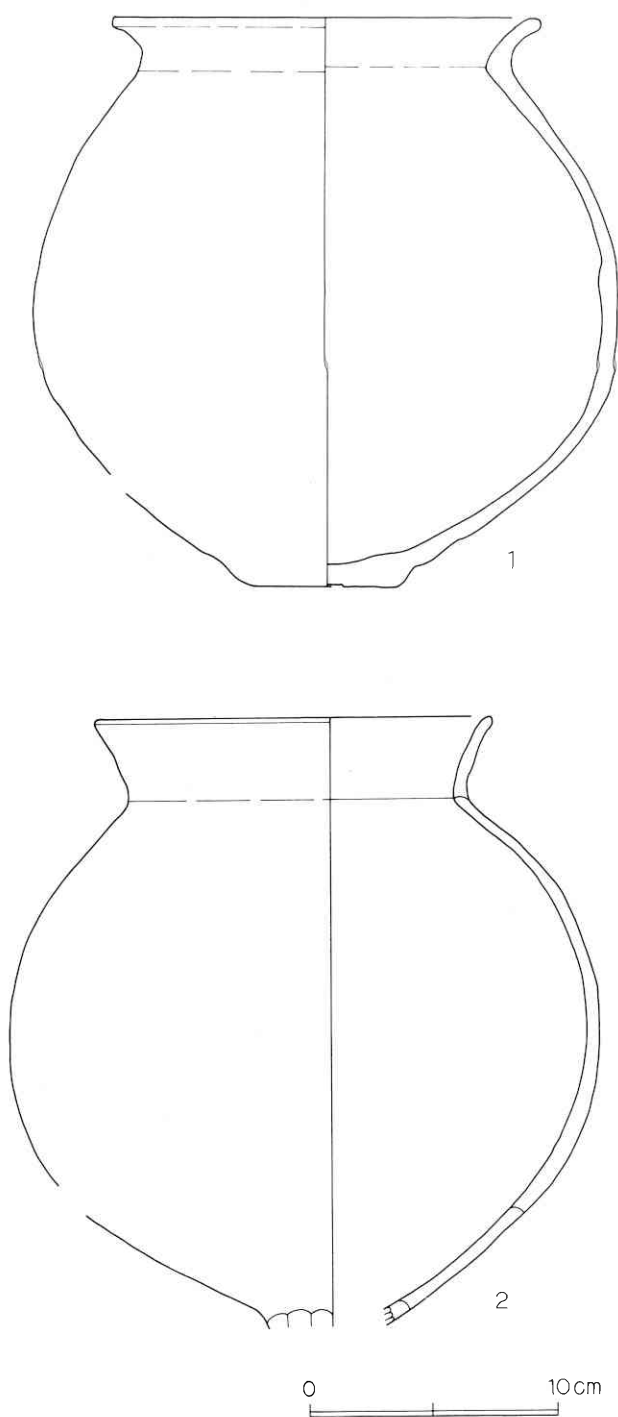


第10図 第48号住居址出土遺物実測図

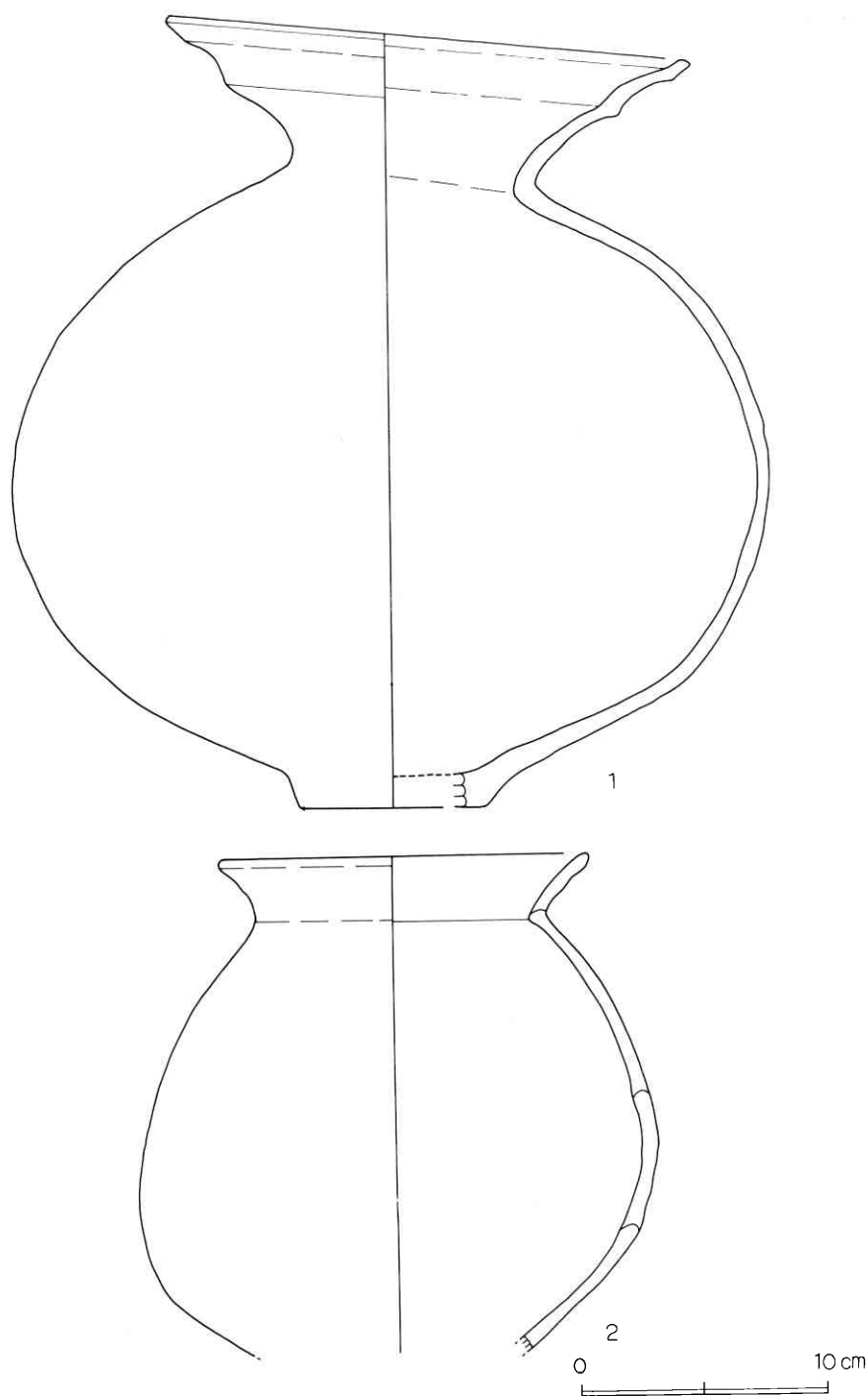
### (3) 古墳時代



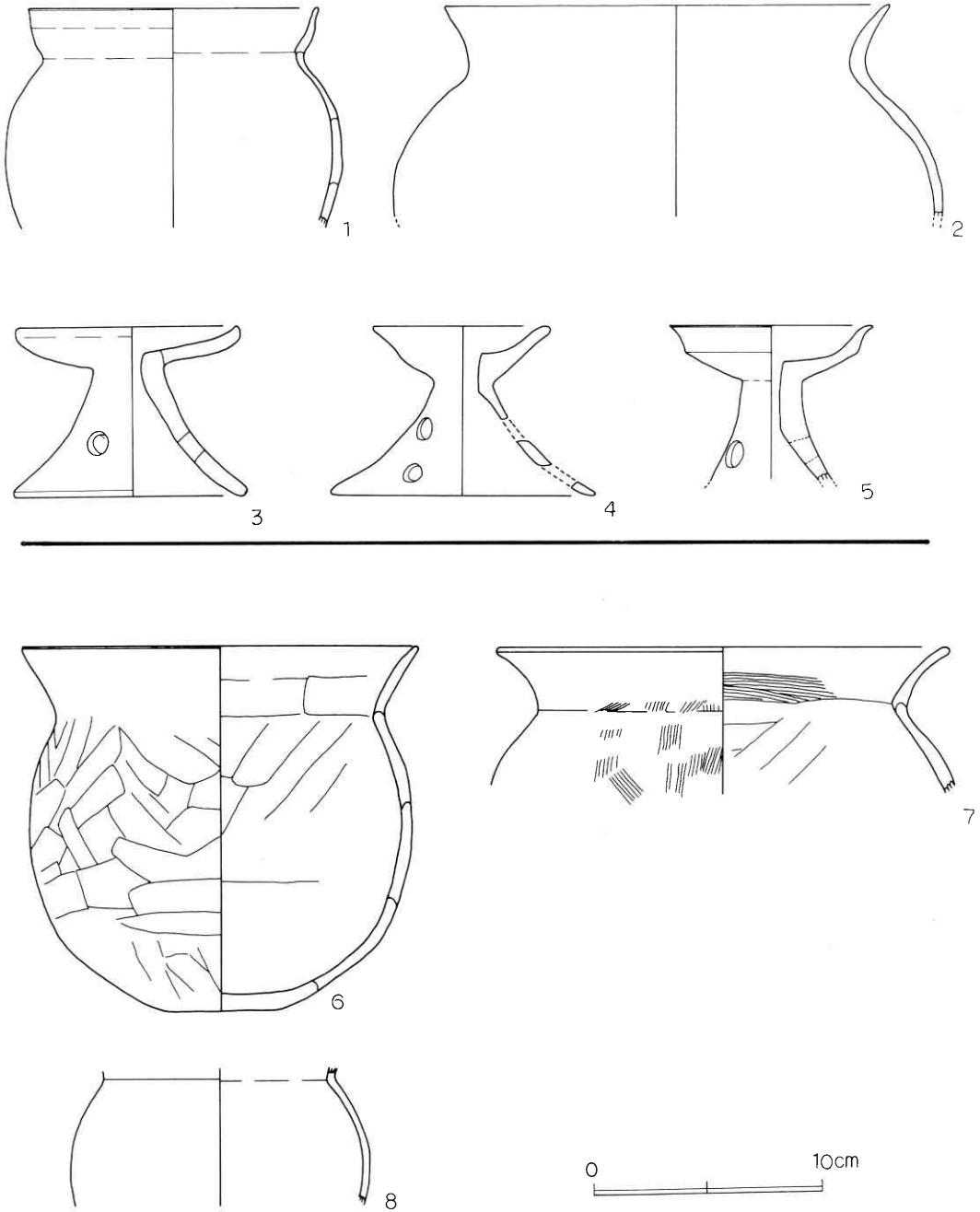
第 1 1 図 第 1 号住居址・第 1 4 号住居址出土遺物実測図



第12図 第14号住居址出土遺物実測図

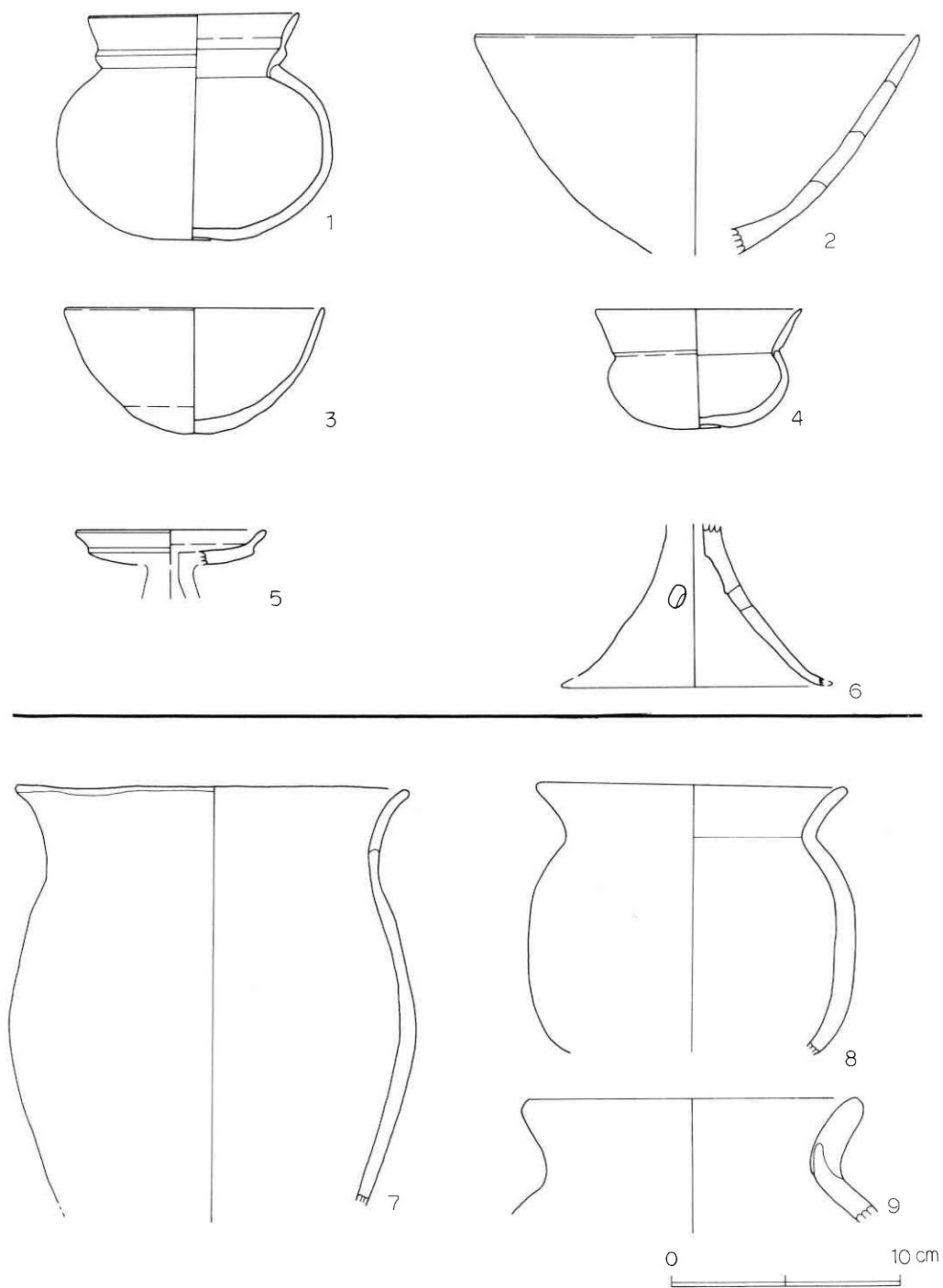


第 1 3 図 第 1 4 号住居址出土遺物実測図

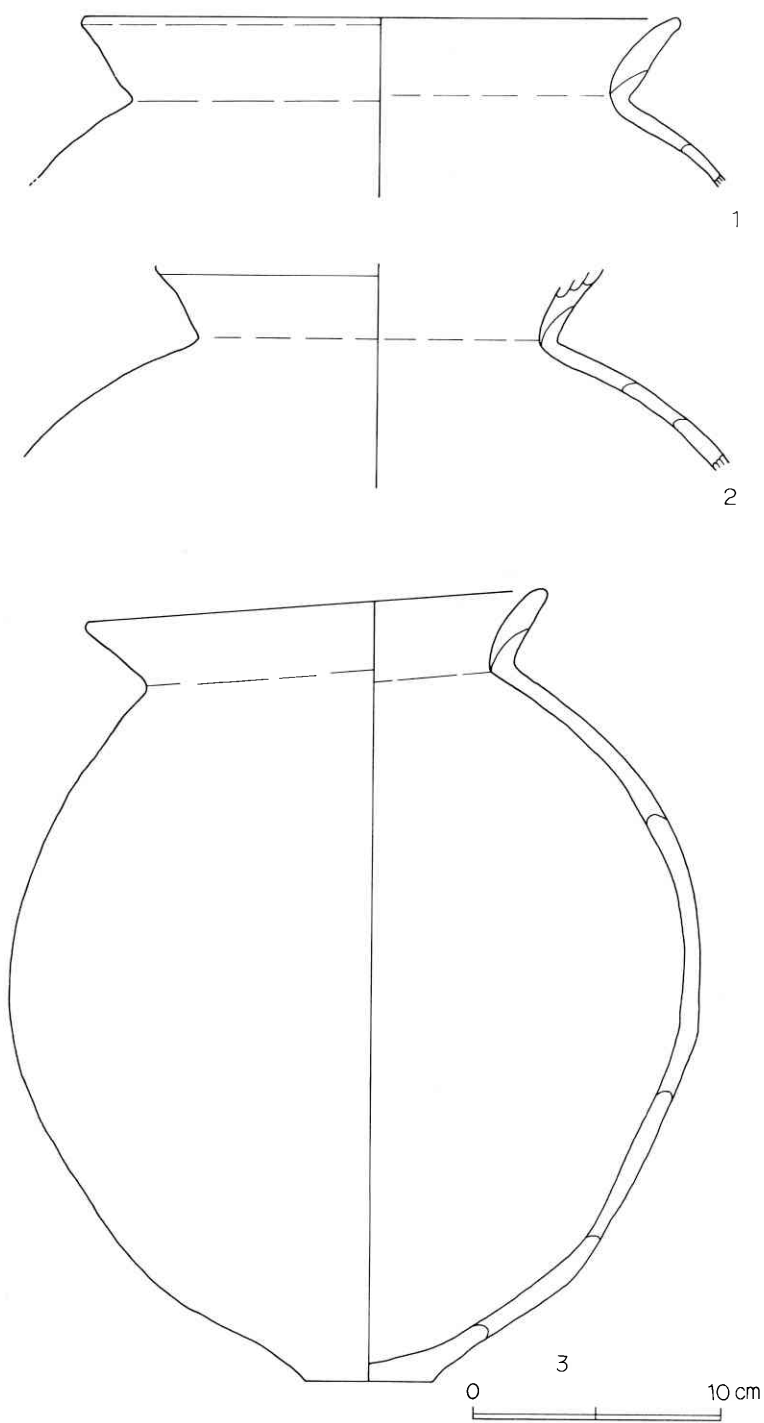


第14図 第14号住居址・第53号住居址出土遺物実測図

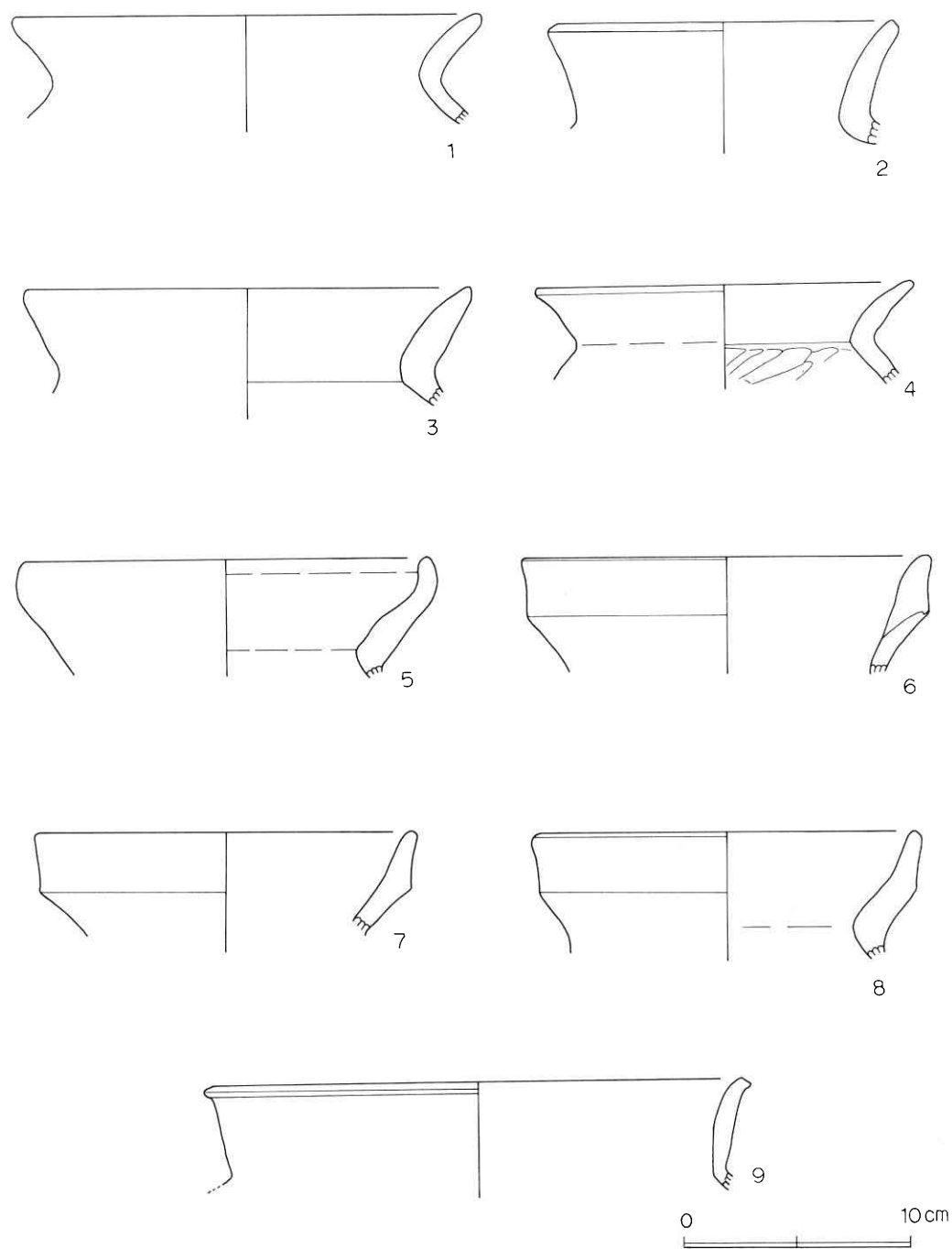




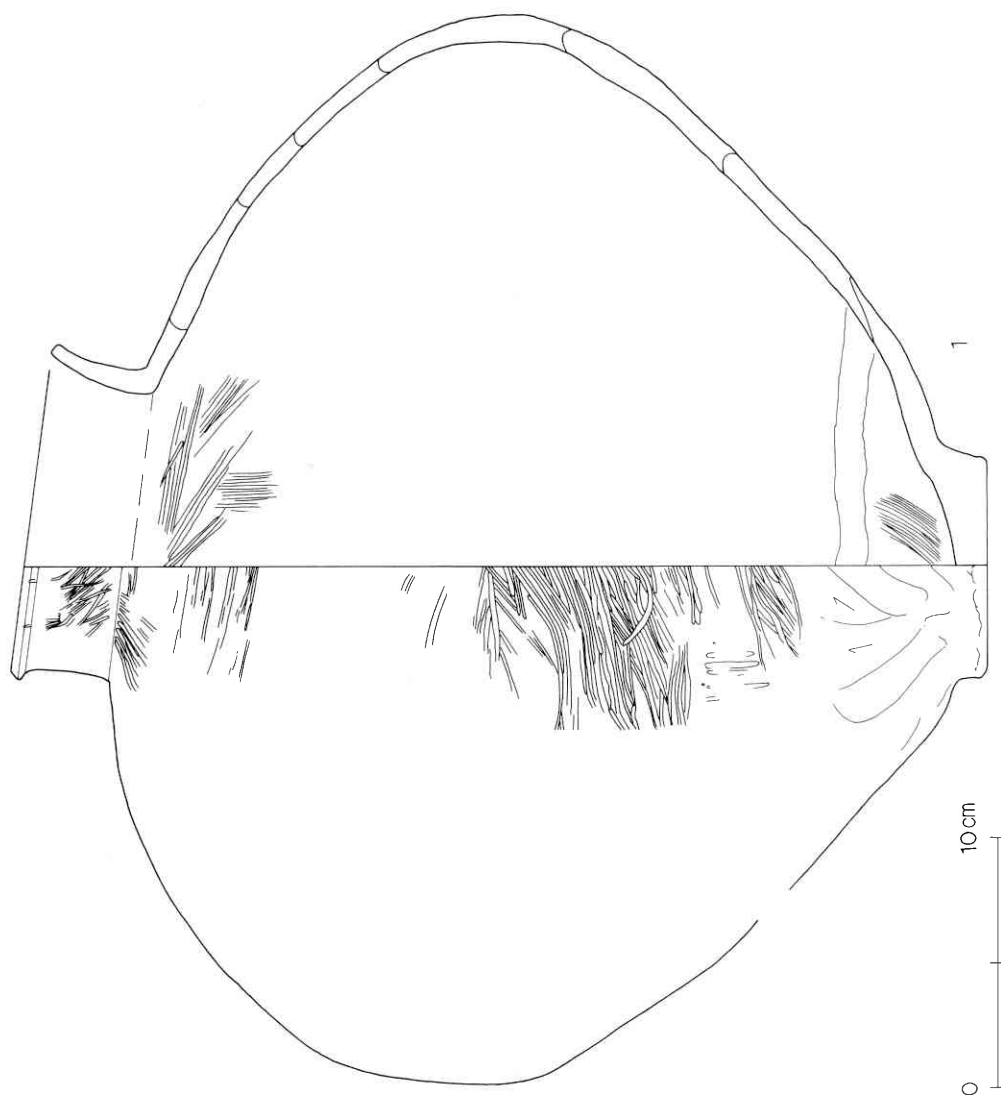
第15図 第53号住居址・第13号住居址出土遺物実測図



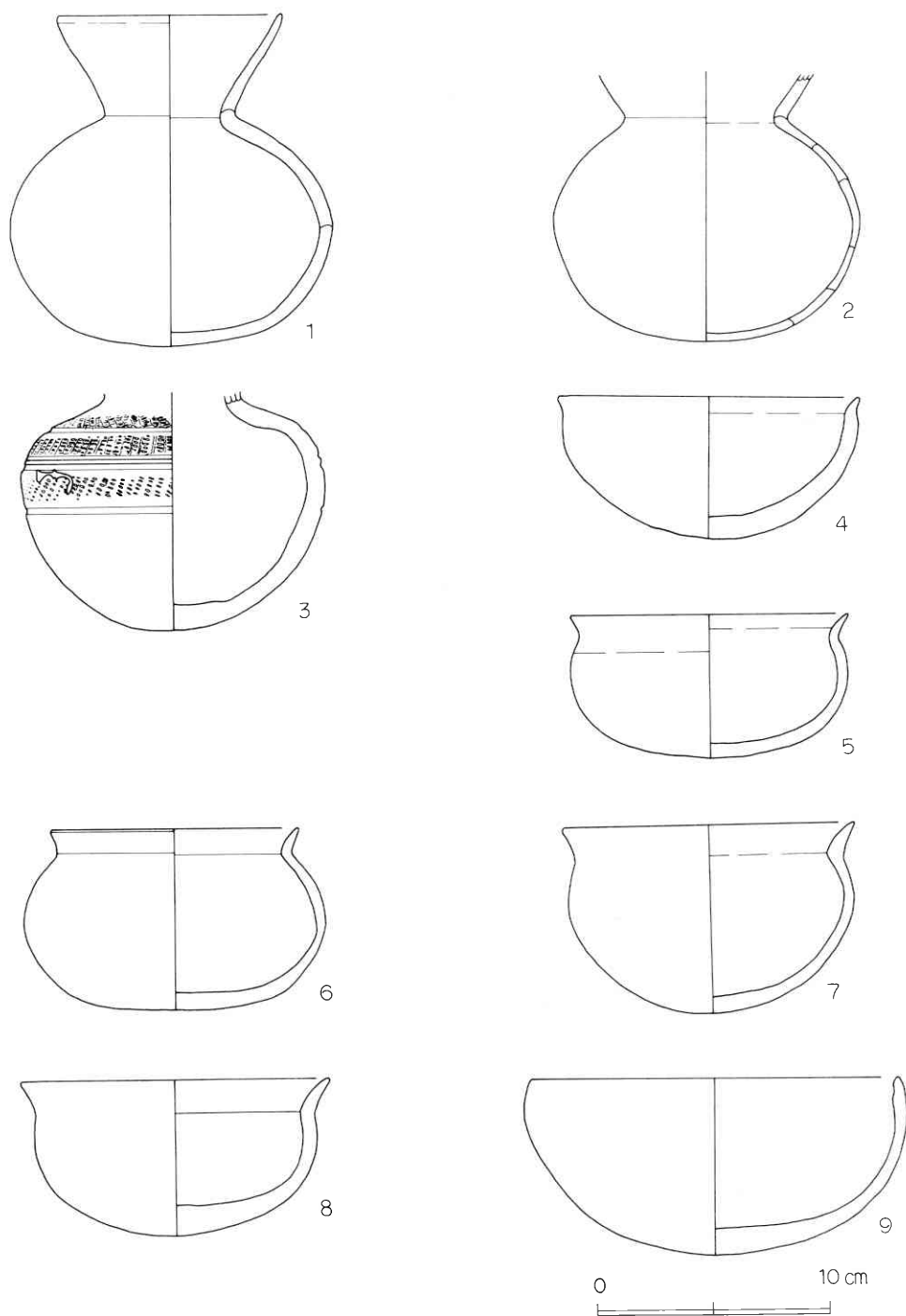
第16図 第13号住居址出土遺物実測図



第 17 図 第 13 号住居址出土遺物実測図

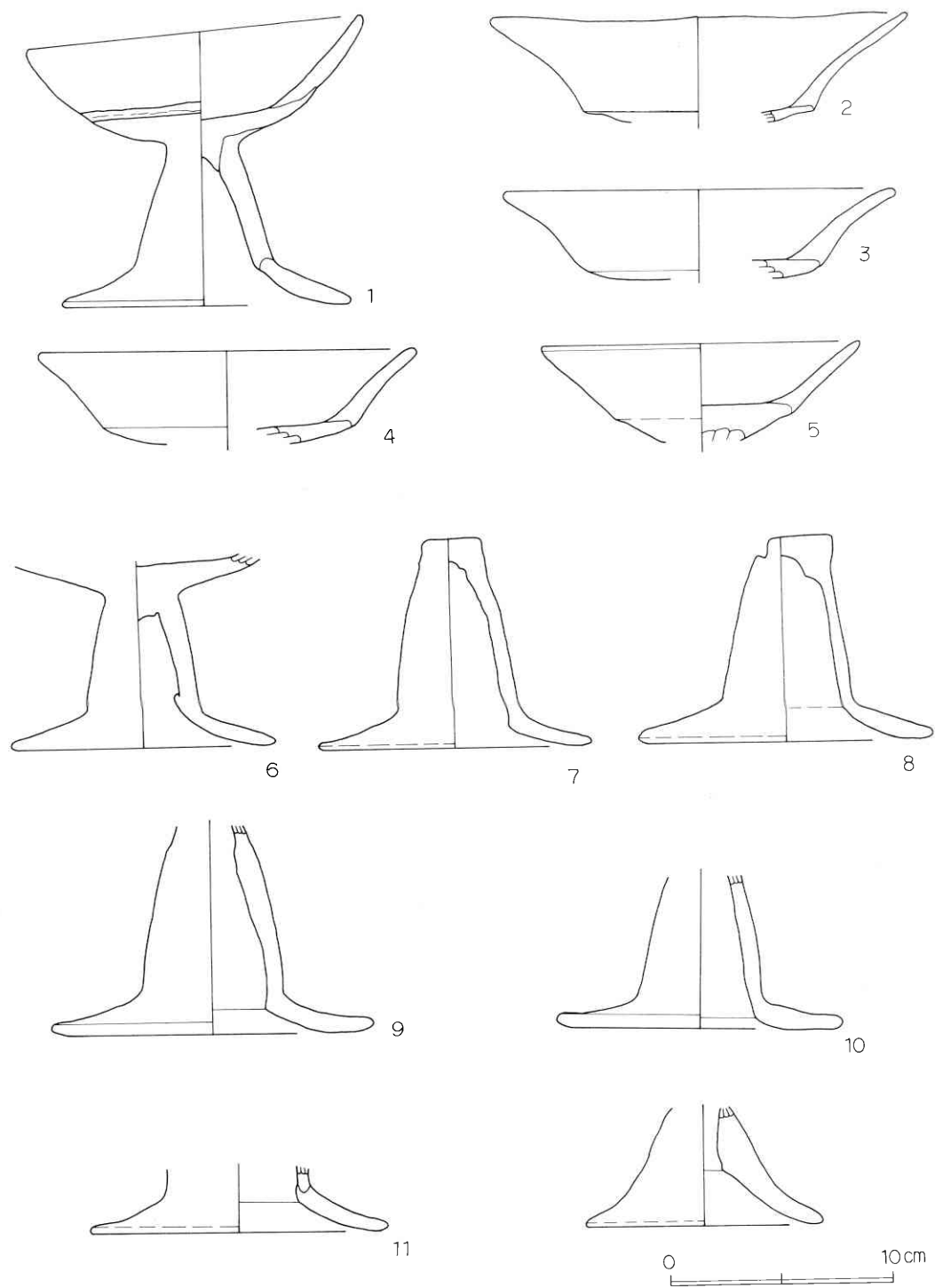


第18図 第13号住居址出土遺物実測図

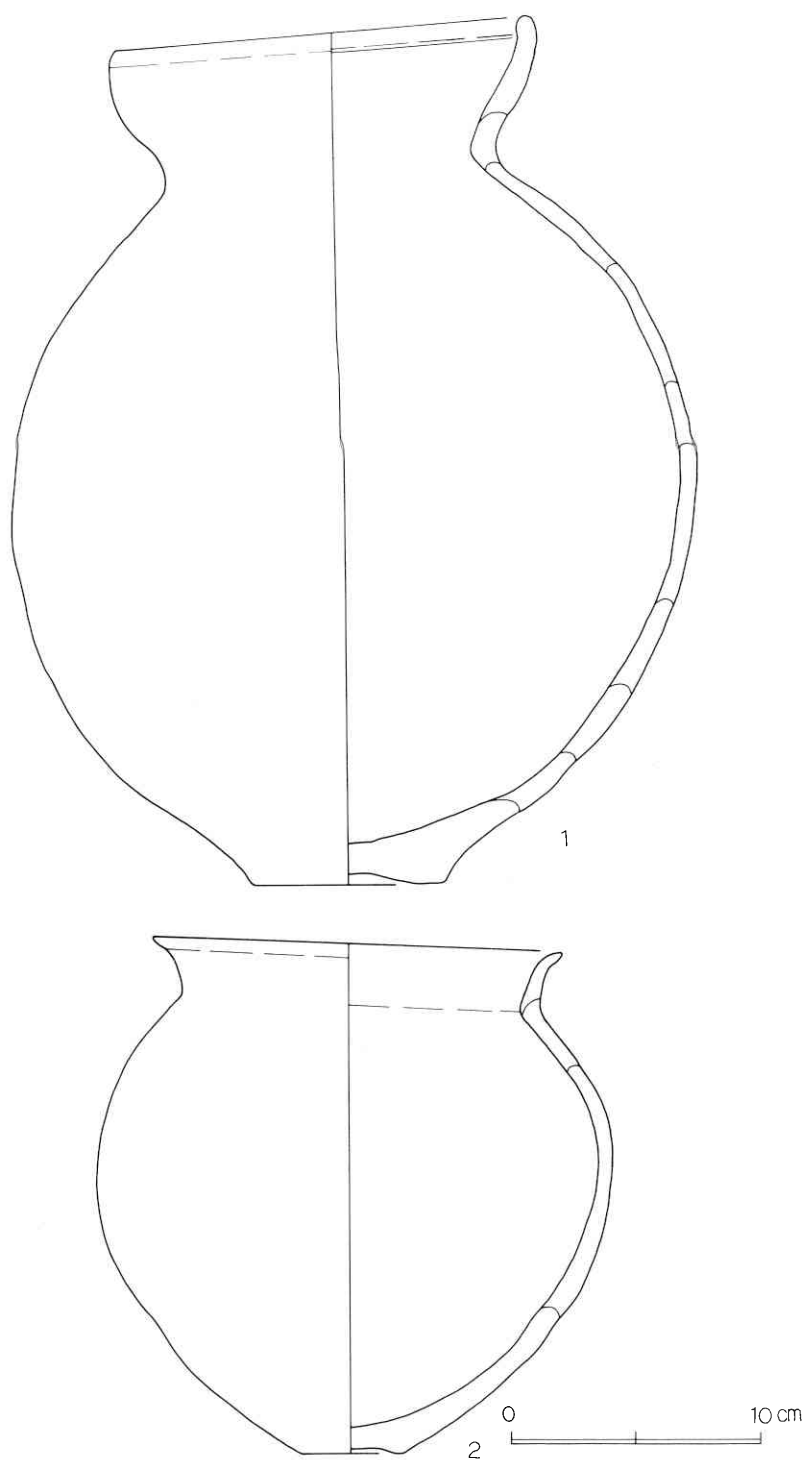


第 19 図 第 13 号住居址出土遺物実測図

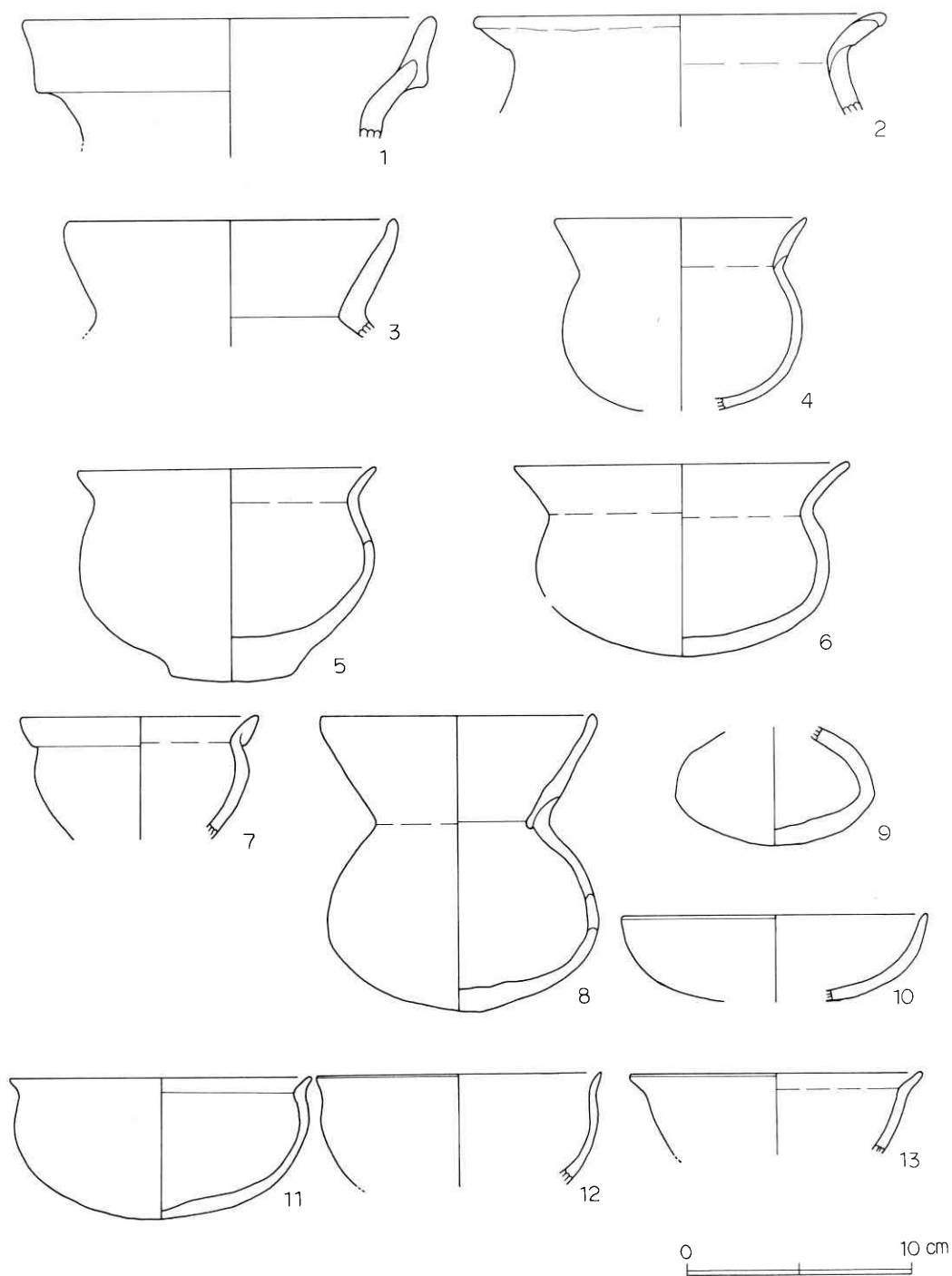




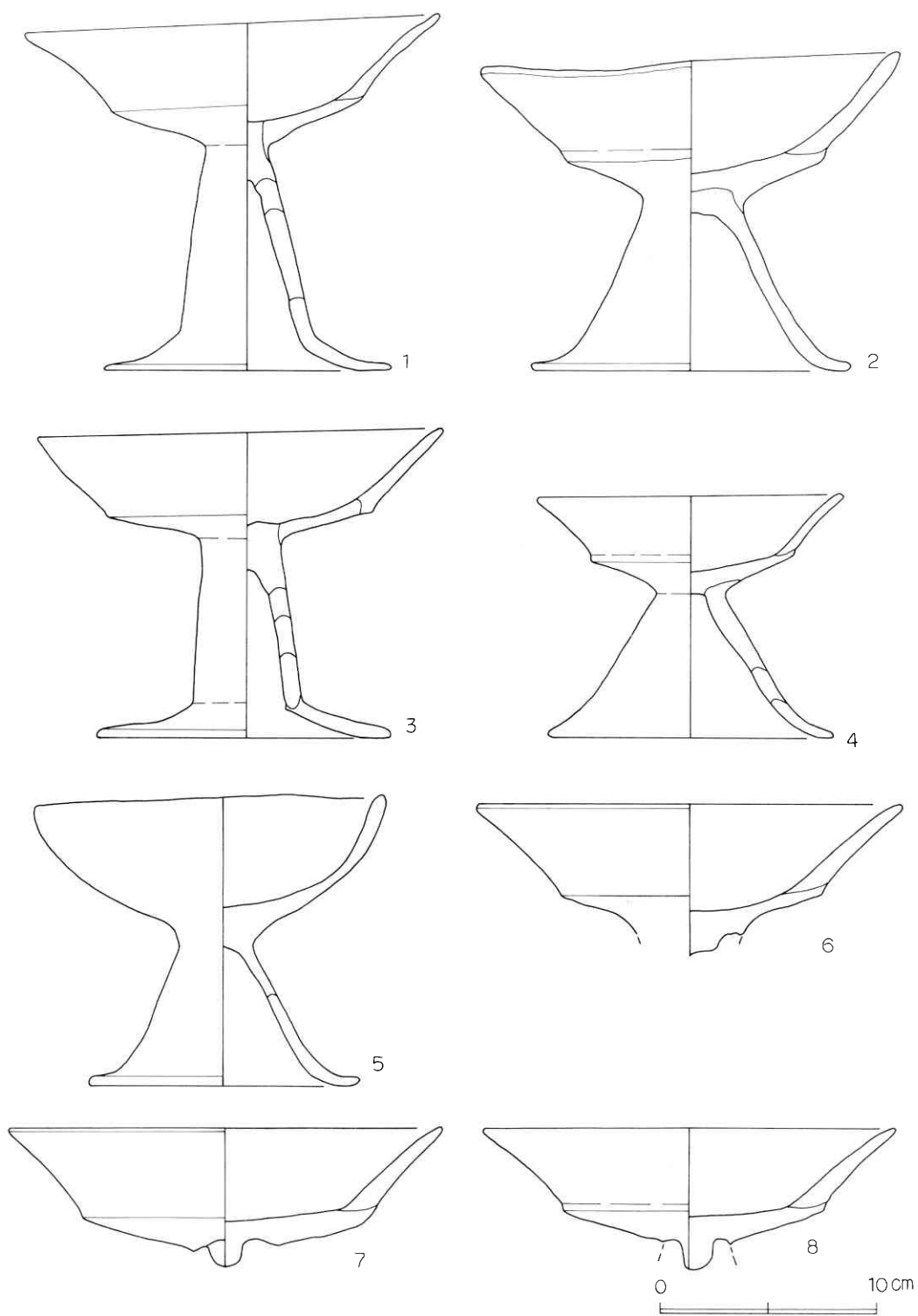
第20図 第13号住居址出土遺物実測図



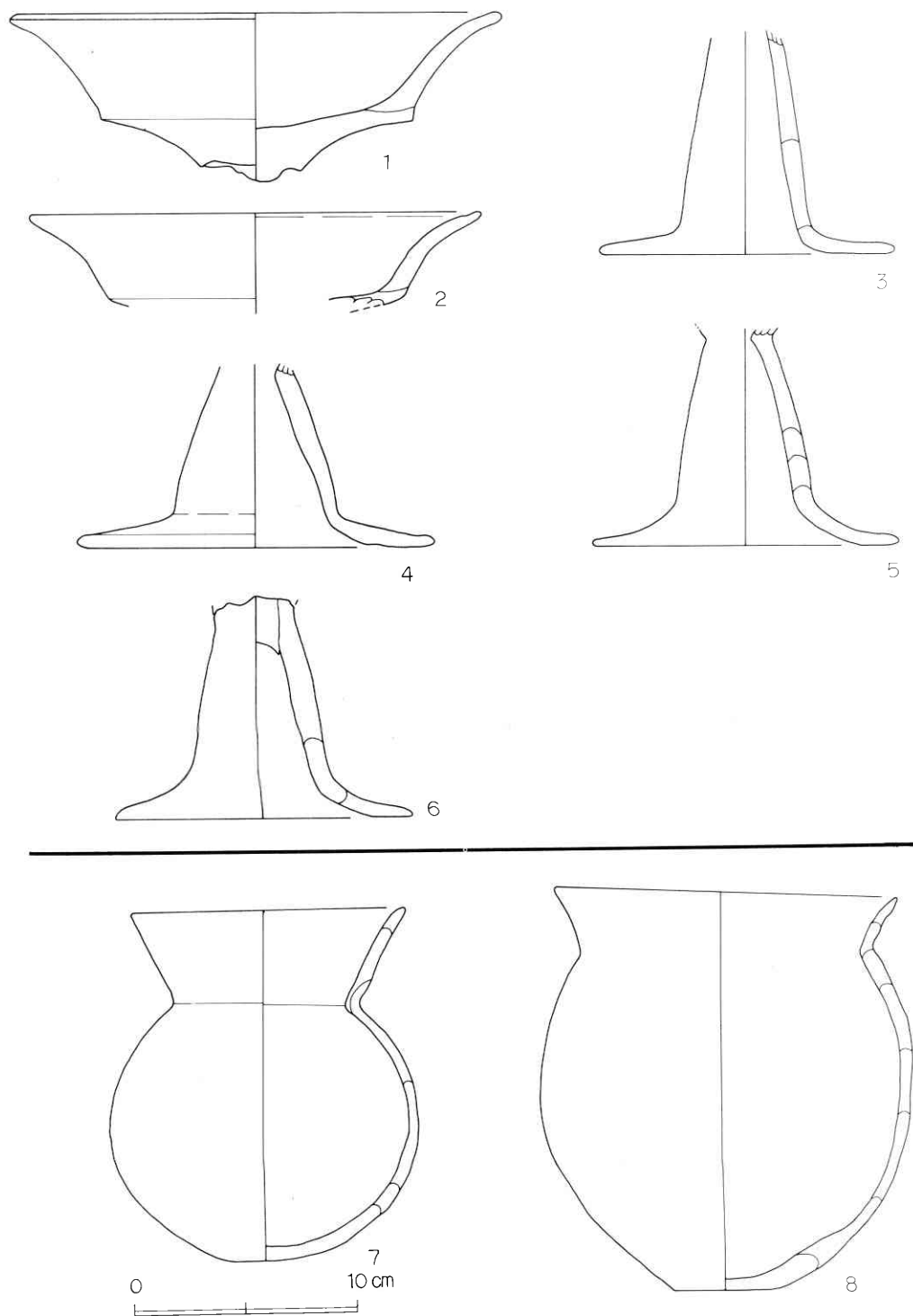
第 2 1 図 第 4 4 号住居址出土遺物実測図



第 2 2 図 第 4 4 号住居址出土遺物実測図

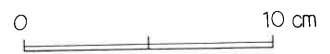
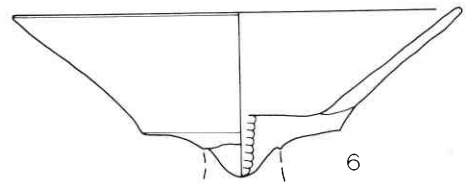
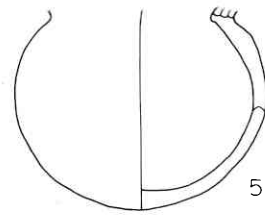
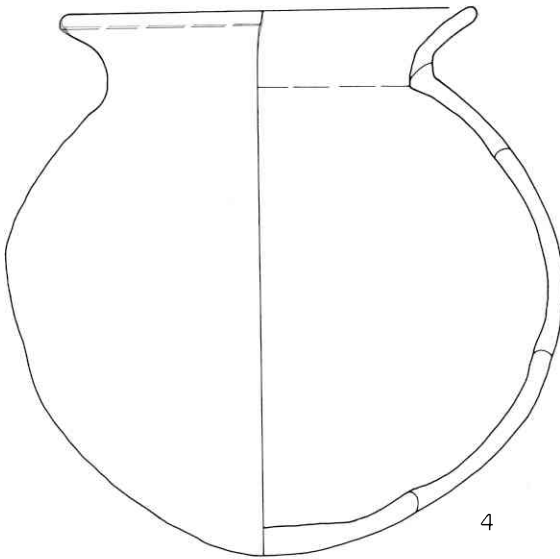
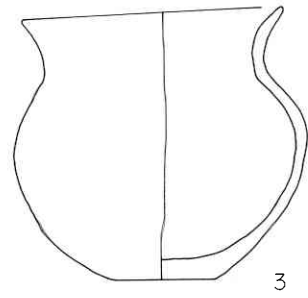
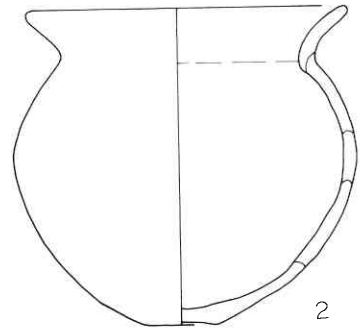
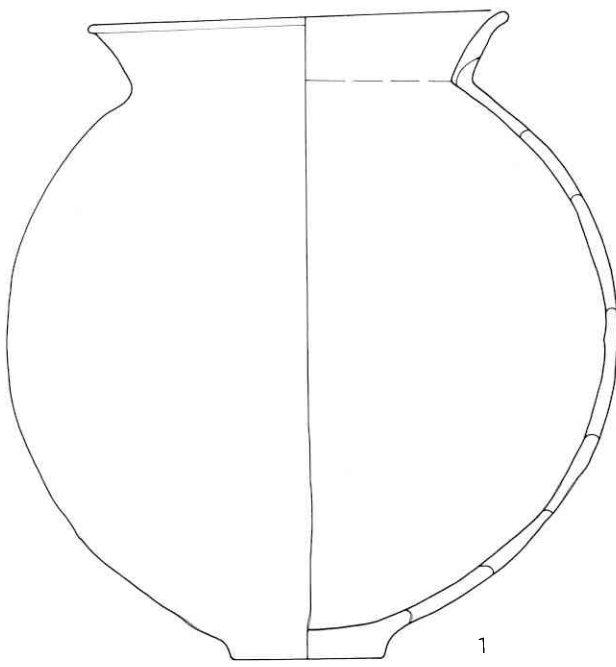


第23図 第44号住居址出土遺物実測図

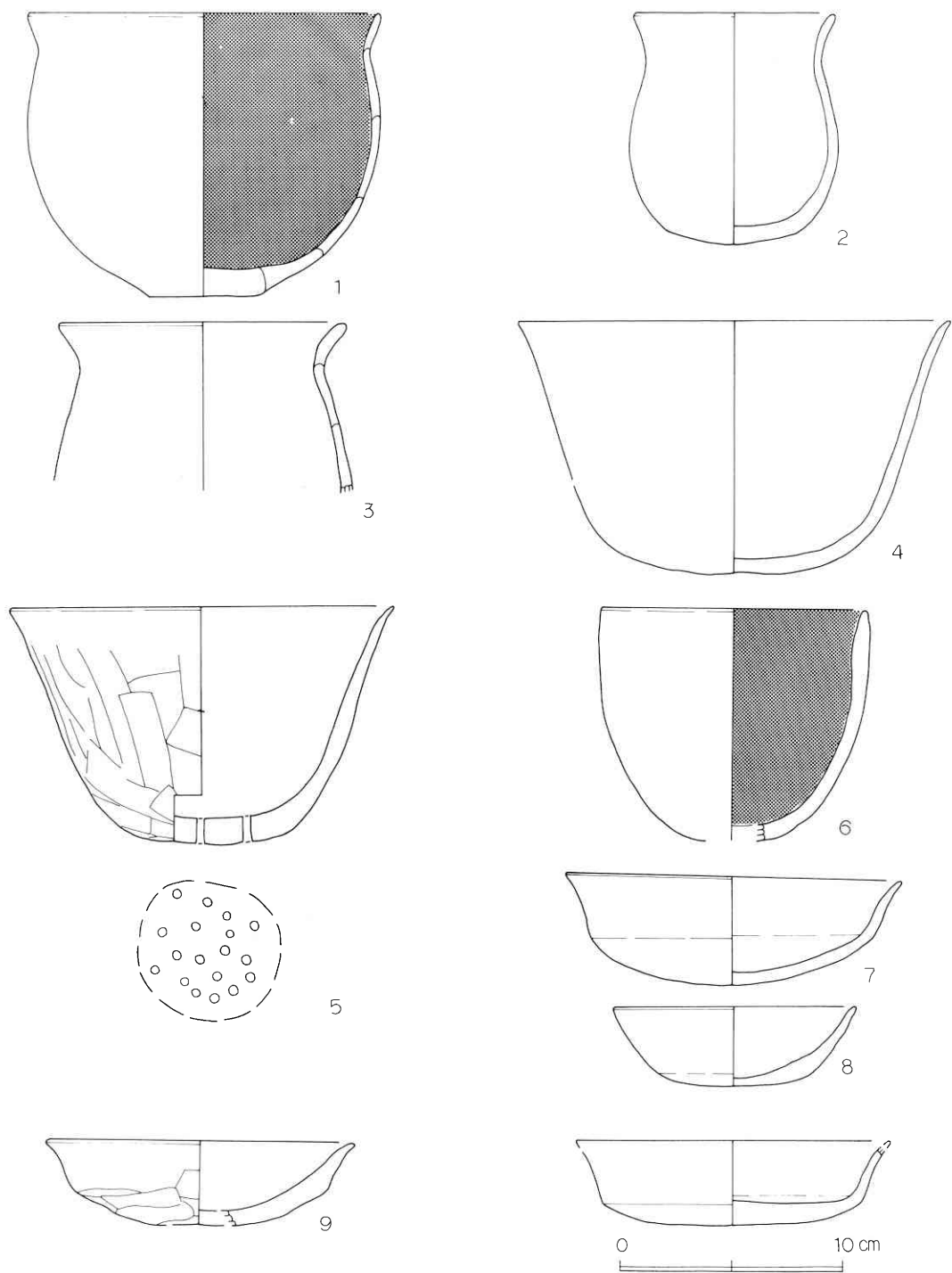


第24図 第44号住居址・第45号住居址出土遺物実測図

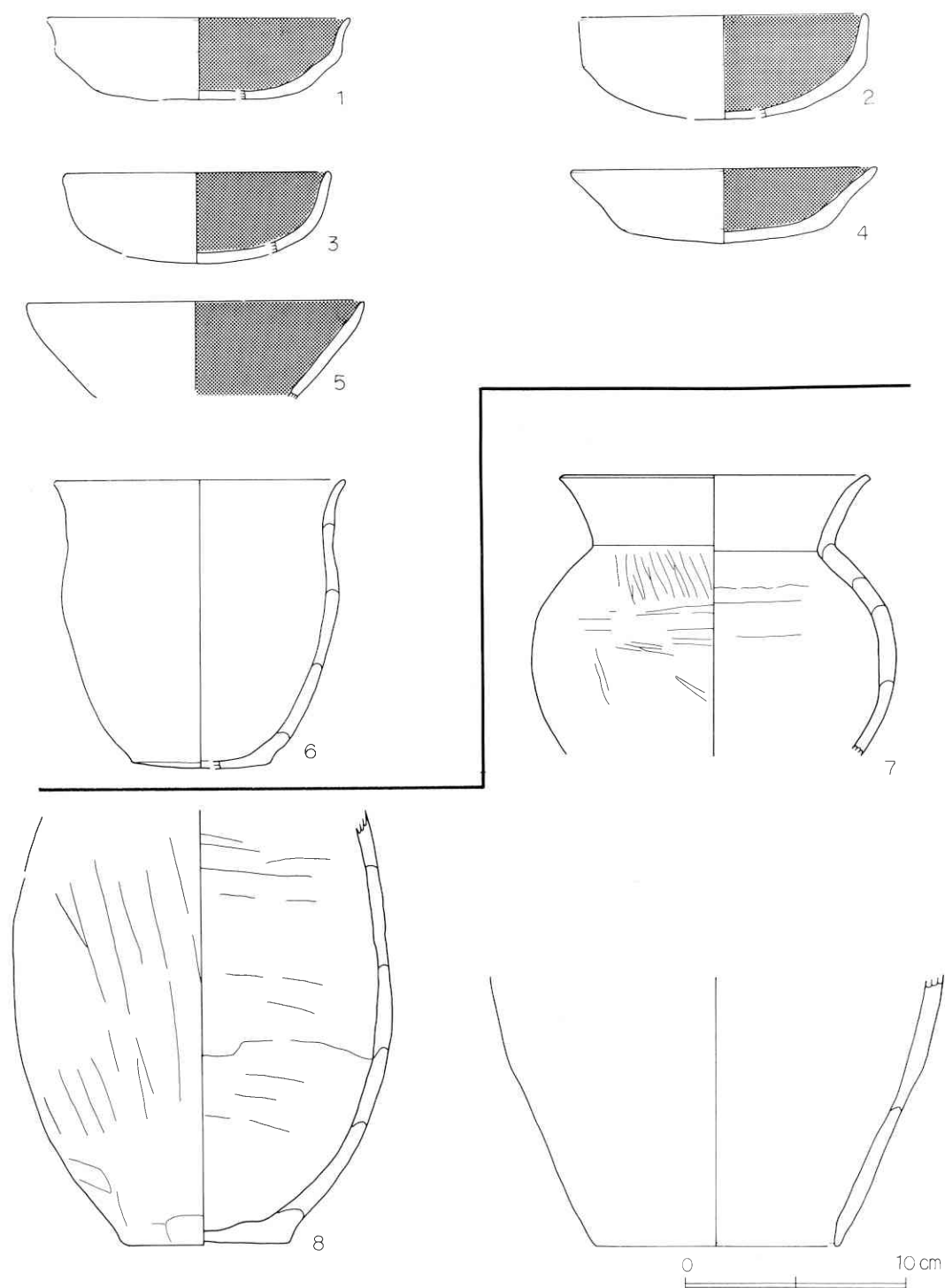




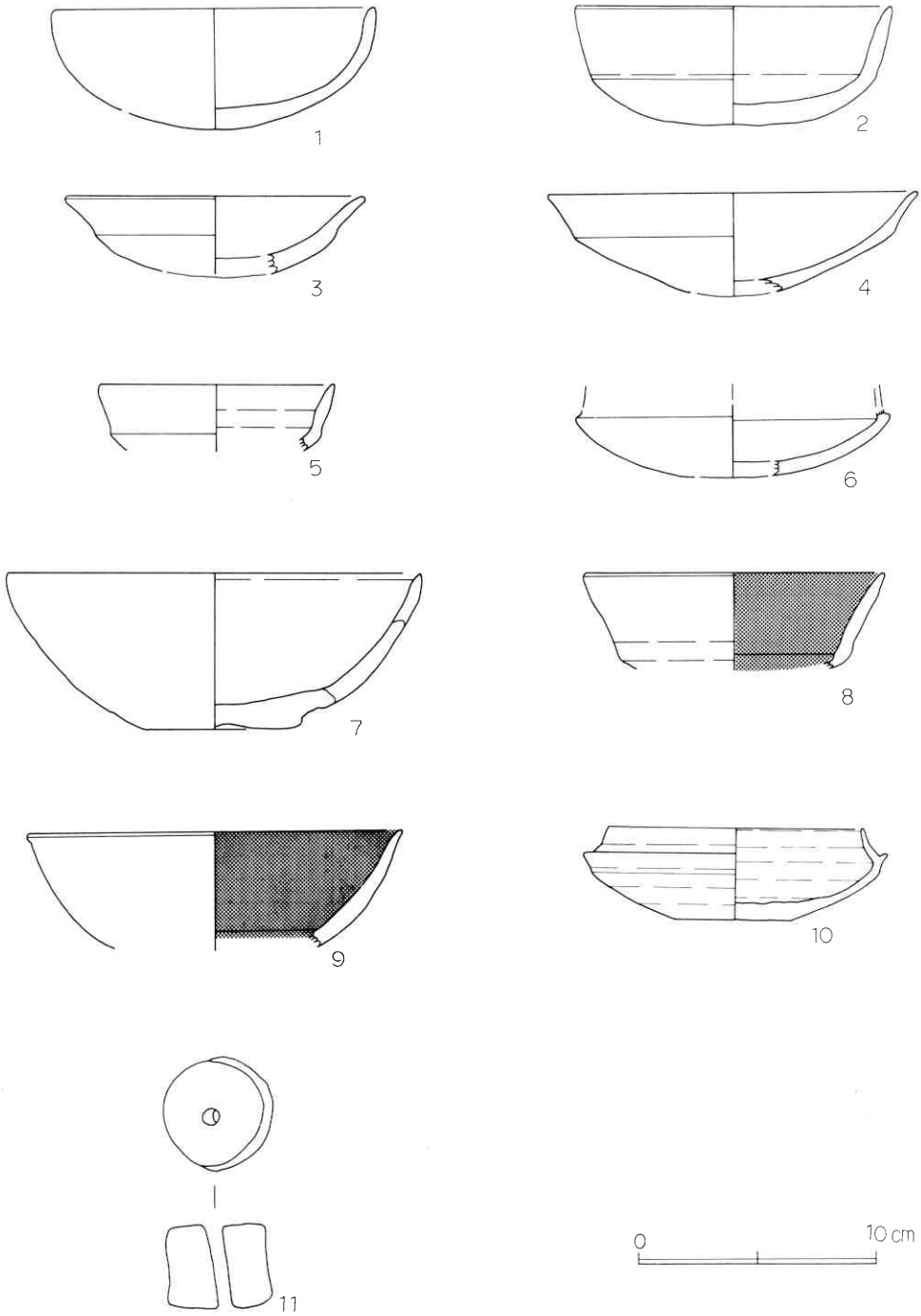
第 2 5 図 第 4 5 号住居址出土遺物実測図



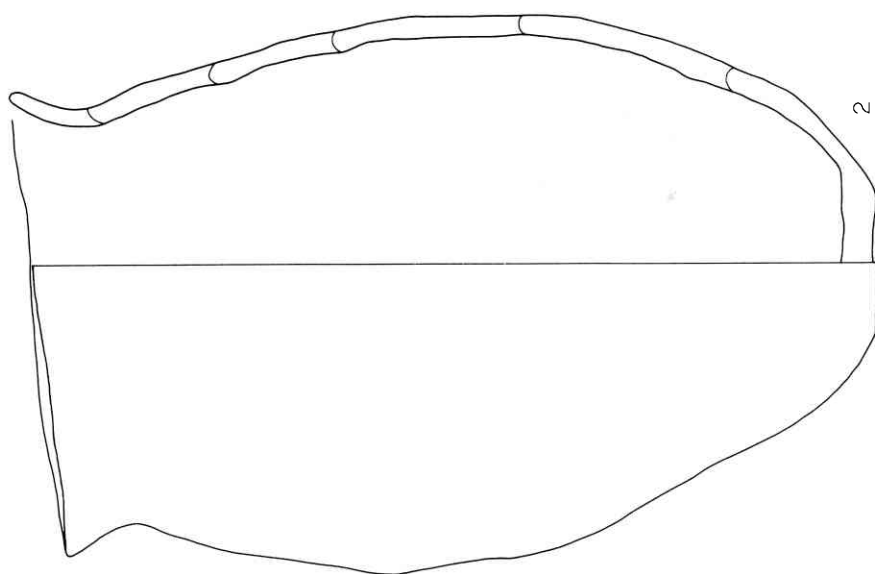
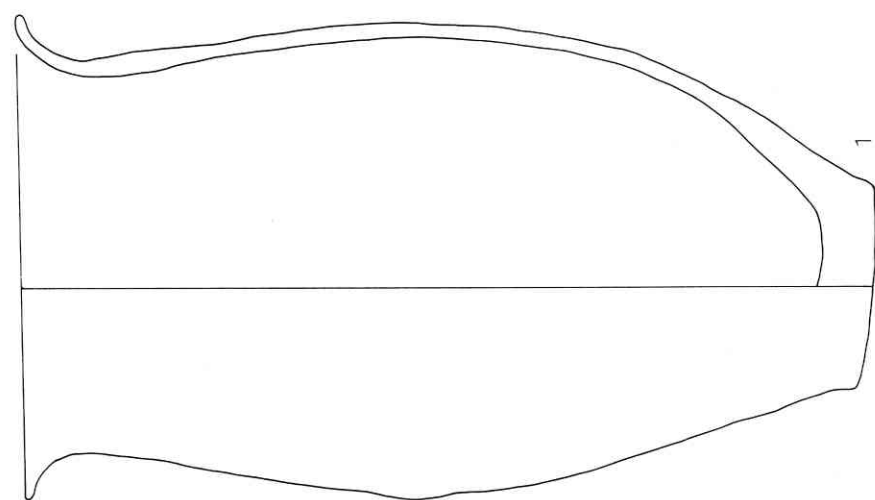
第26図 第4号住居址出土遺物実測図



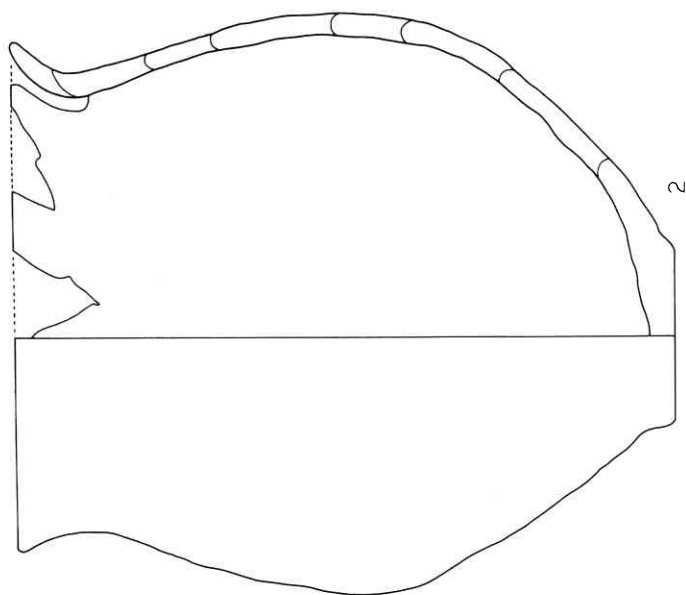
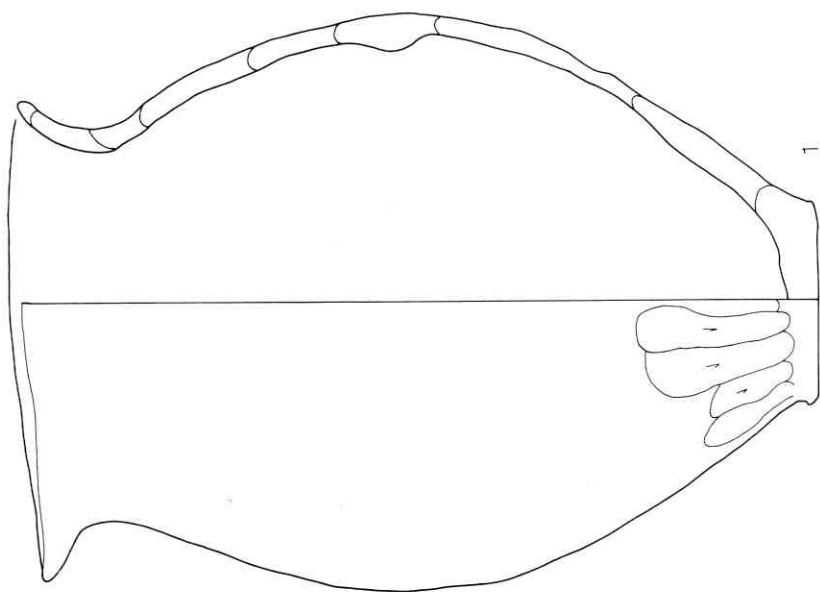
第27図 第4号住居址・第23号住居址出土遺物実測図



第 2 8 図 第 2 3 号住居址出土遺物実測図

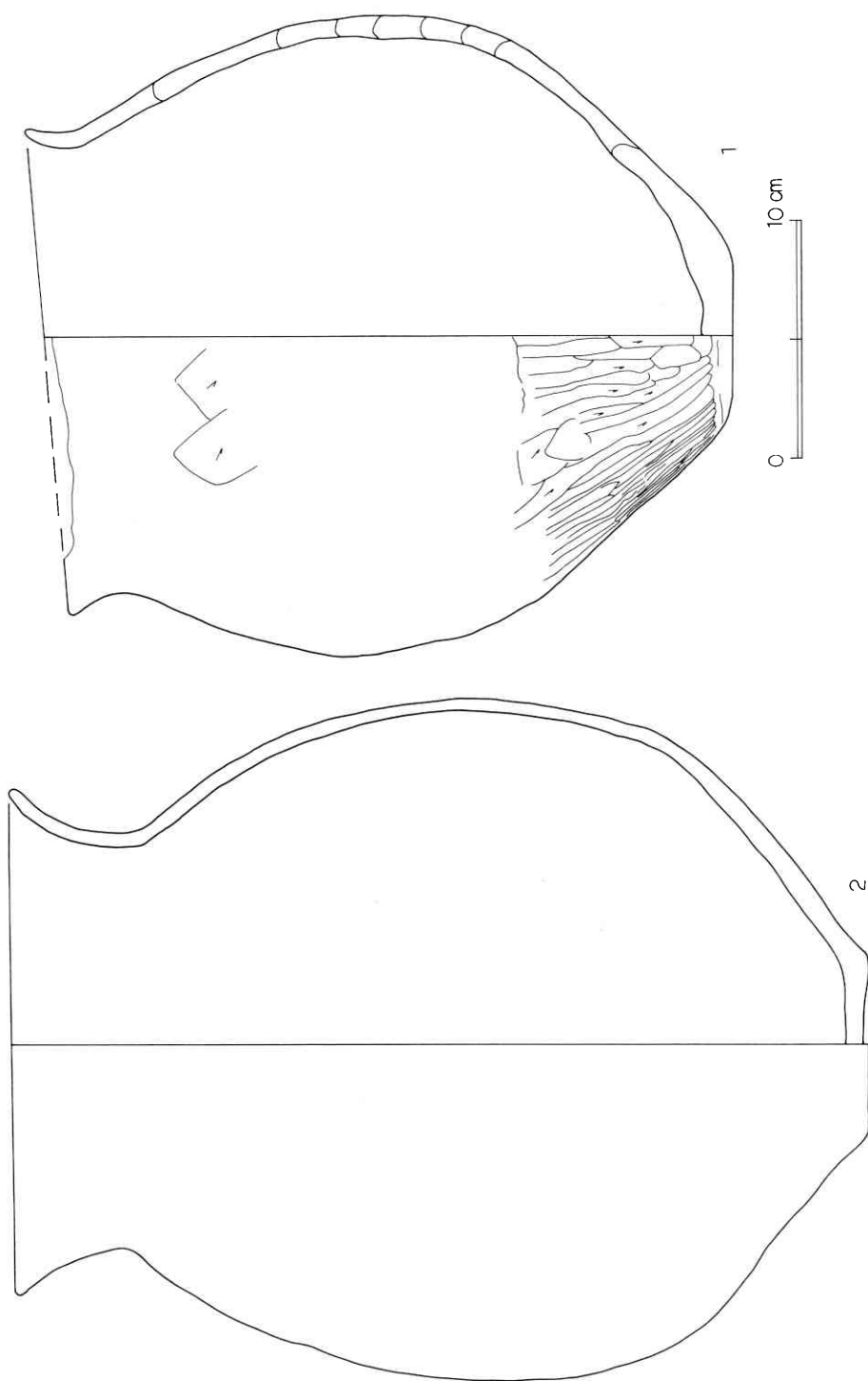


第 2 9 図 第 2 9 号住居址出土遺物実測図

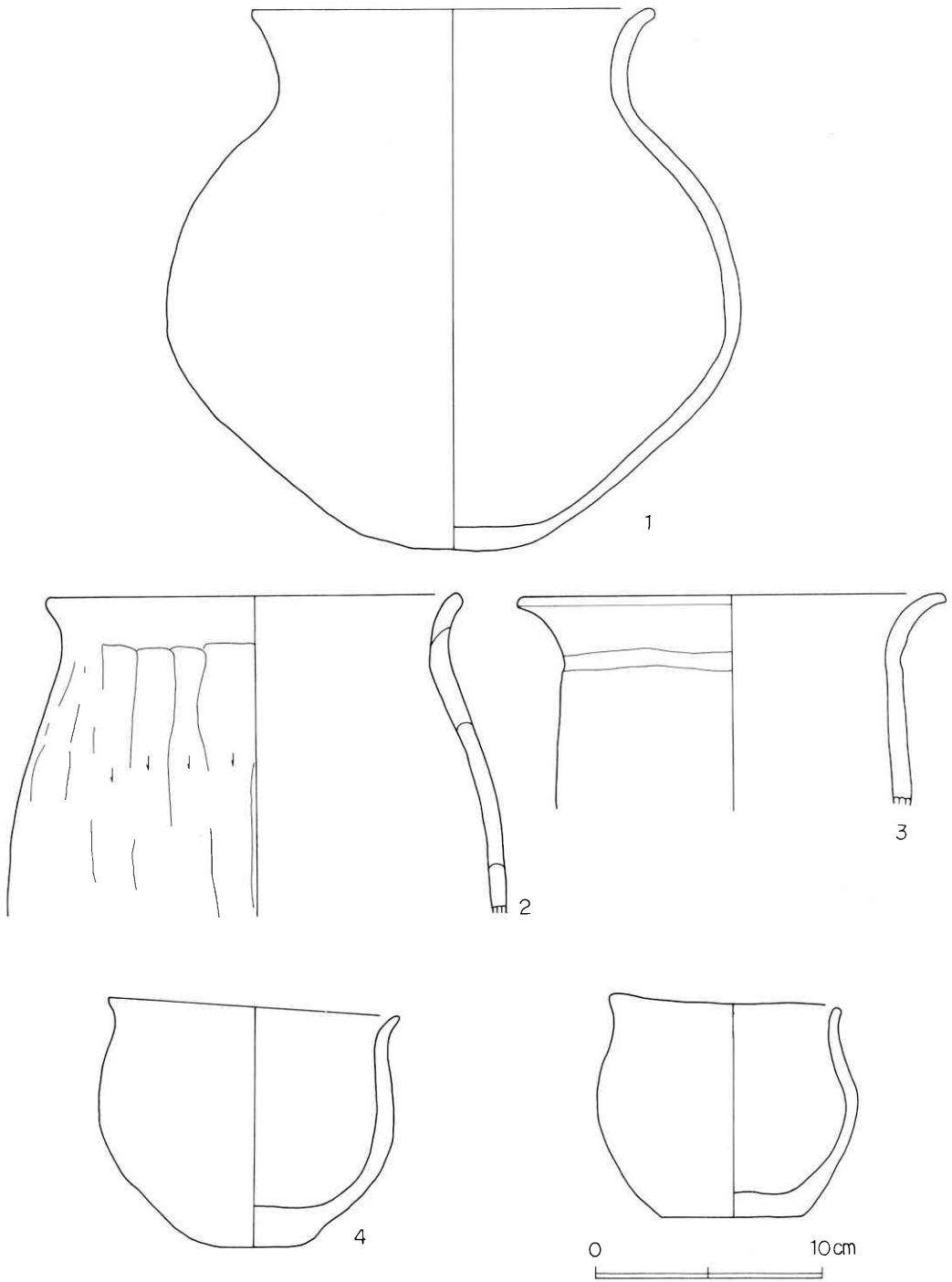


第30図 第29号住居址出土遺物実測図

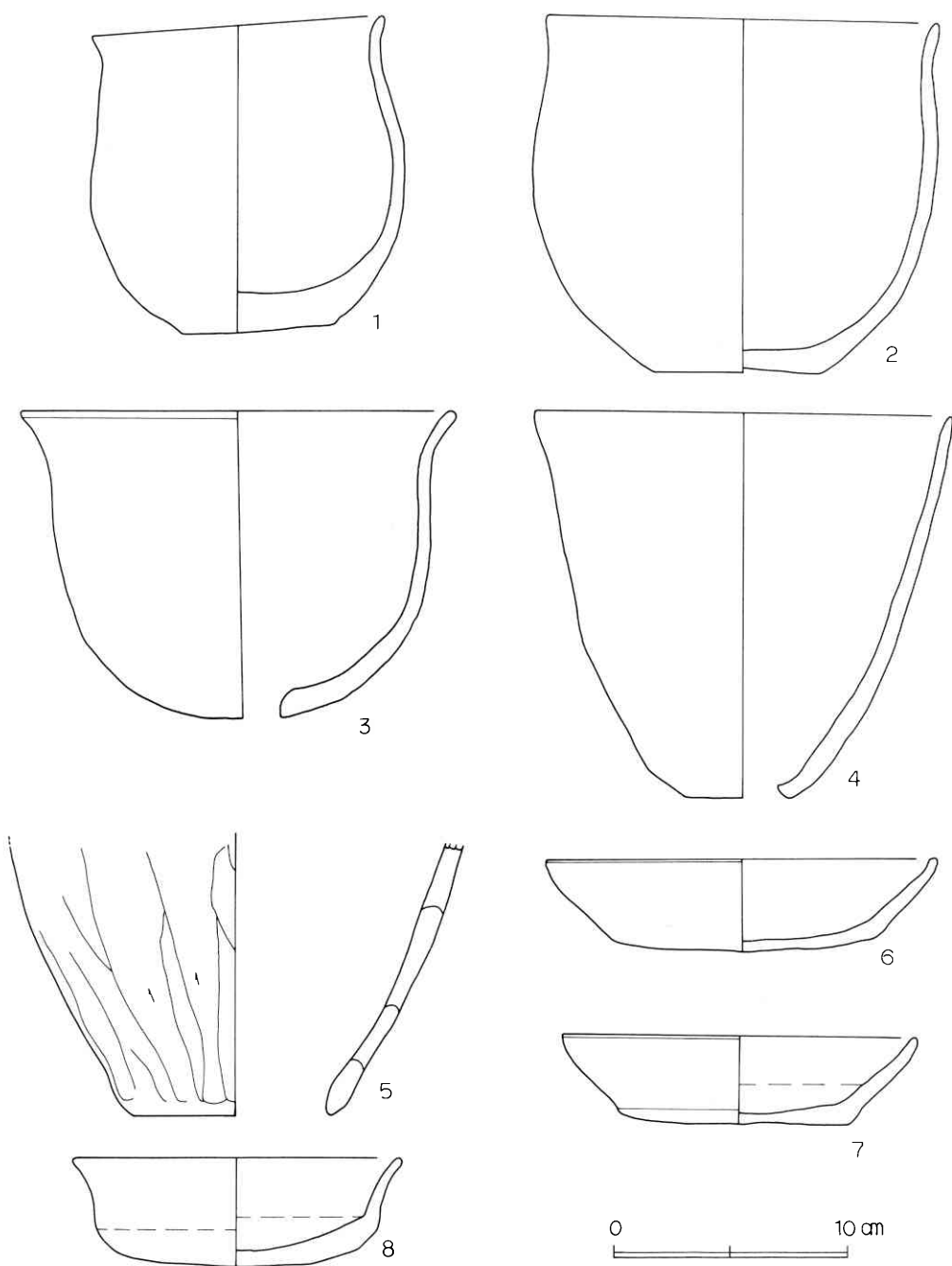




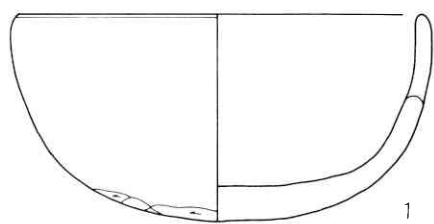
第 3 1 図 第 2 9 号住居址出土遺物実測図



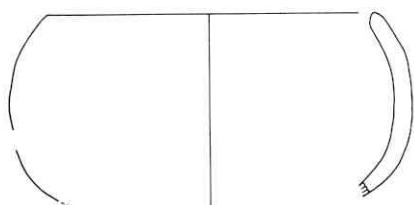
第32図 第29号住居址出土遺物実測図



第33図 第29号住居址出土遺物実測図

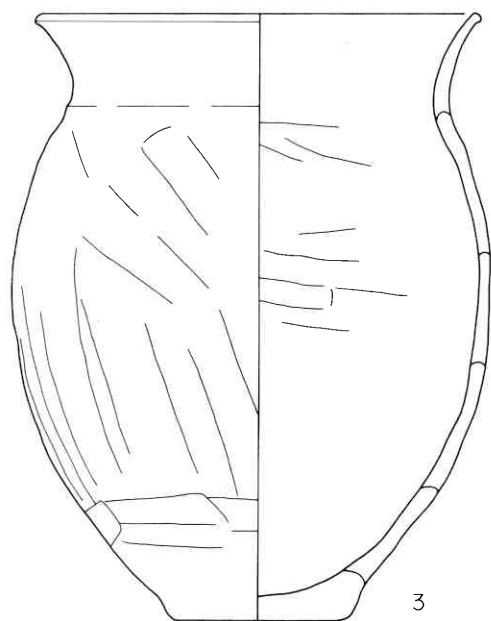


1

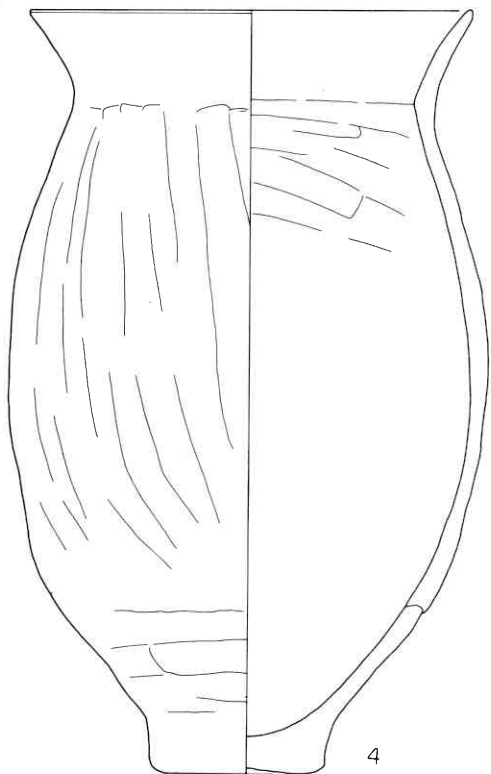


2

第  
34  
図



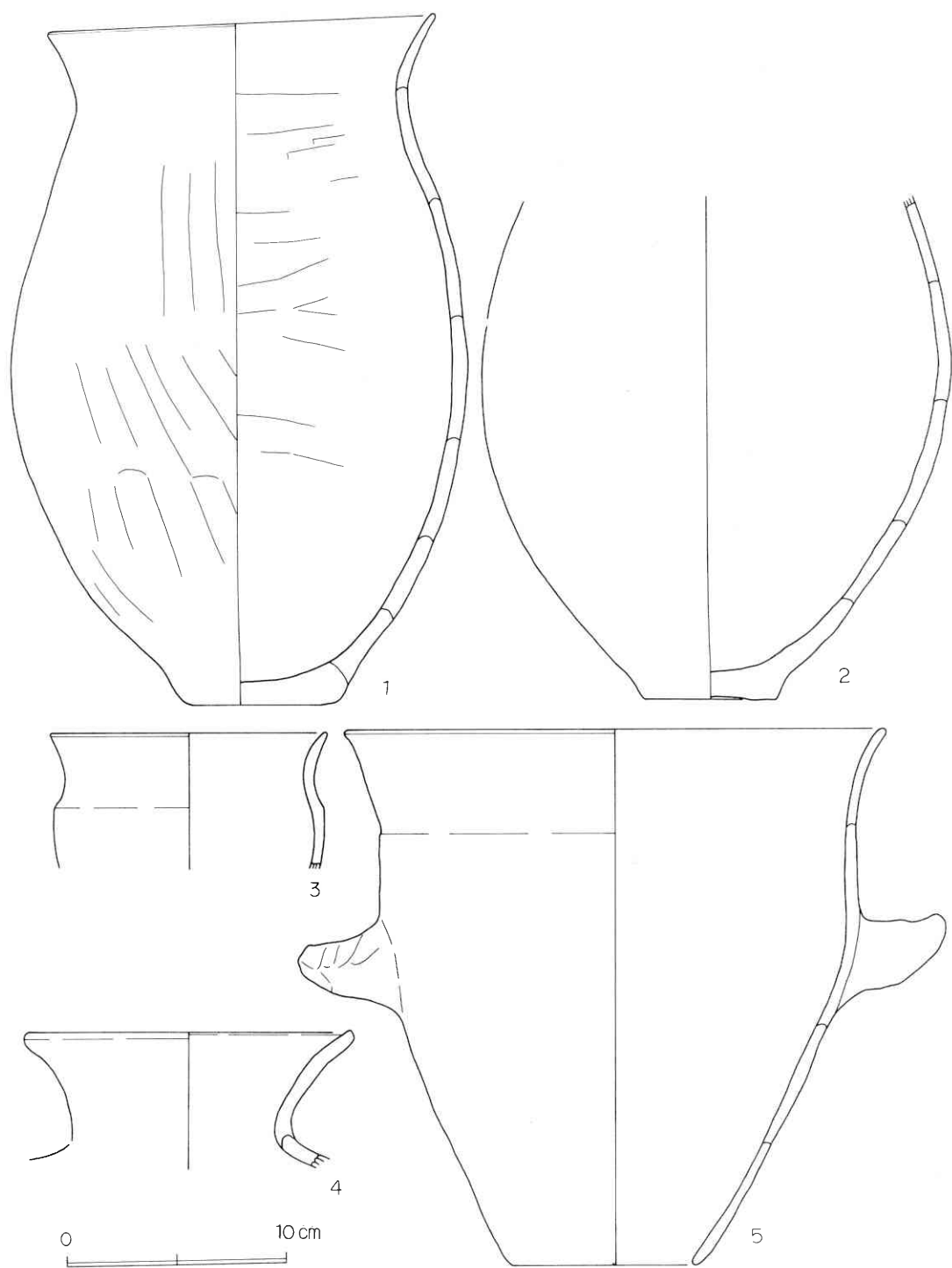
3



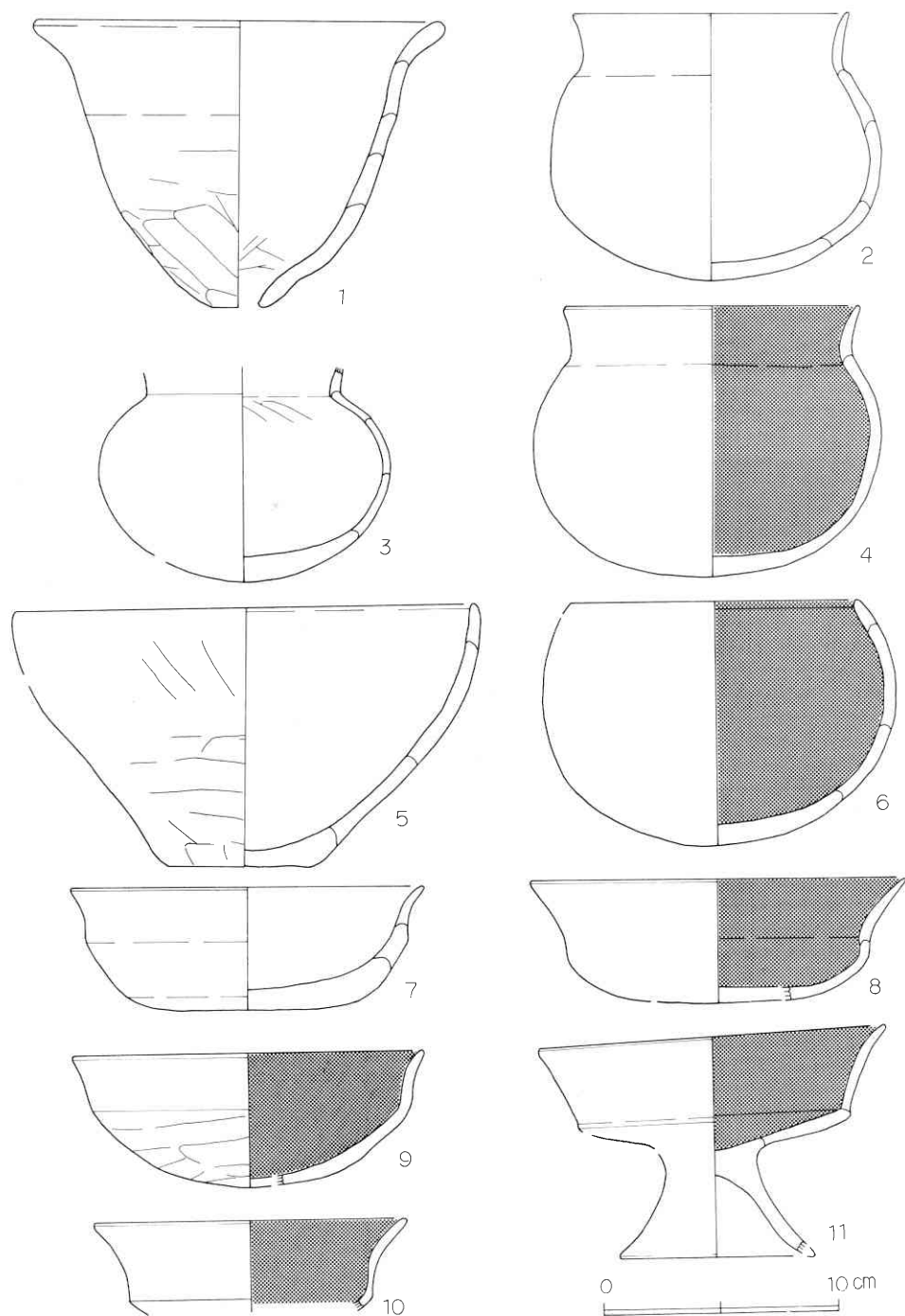
4

0 10 cm

第 3 4 図 第 2 9 号住居址・第 3 0 号住居址住居址出土遺物実測図

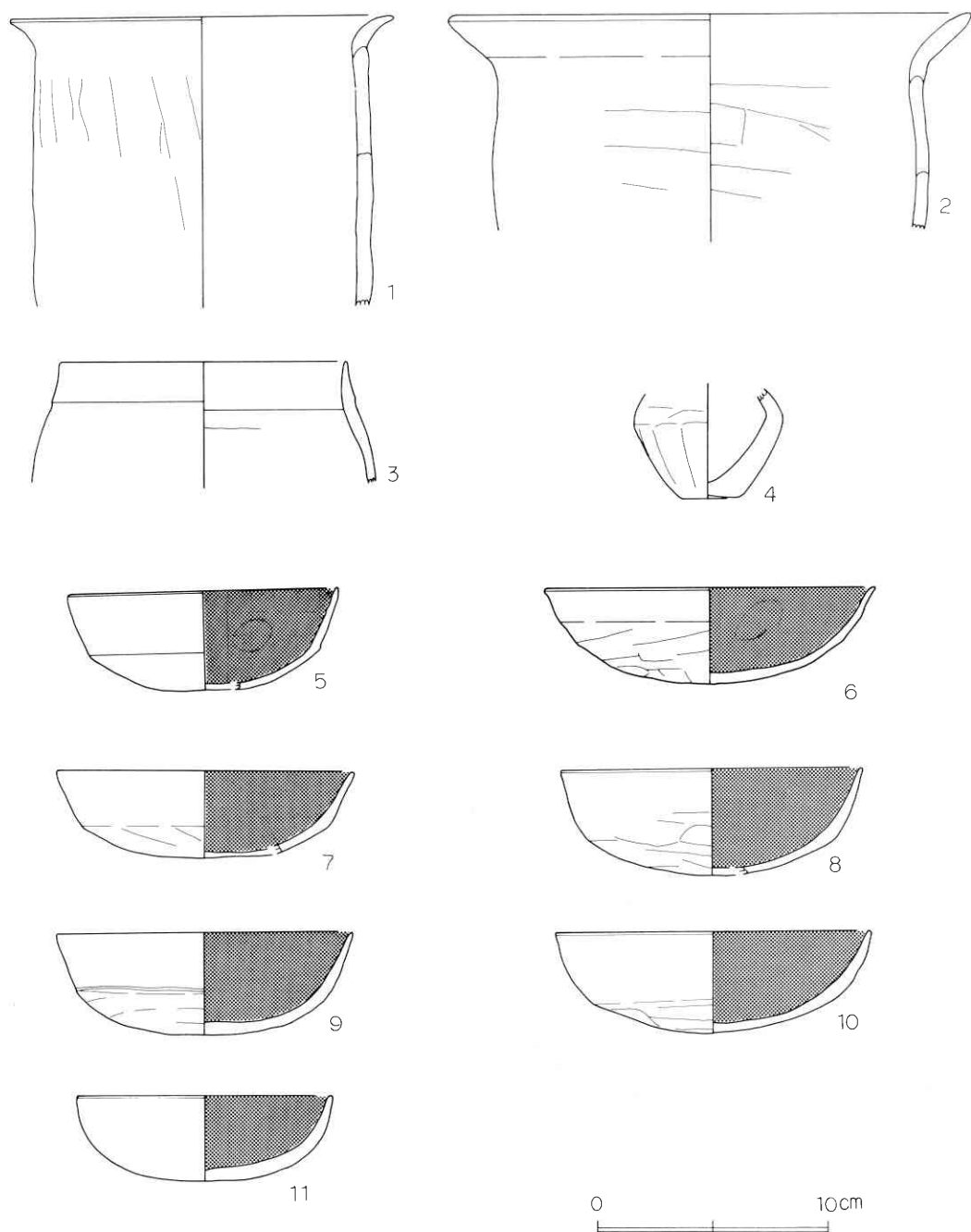


第35図 第30号住居址出土遺物実測図

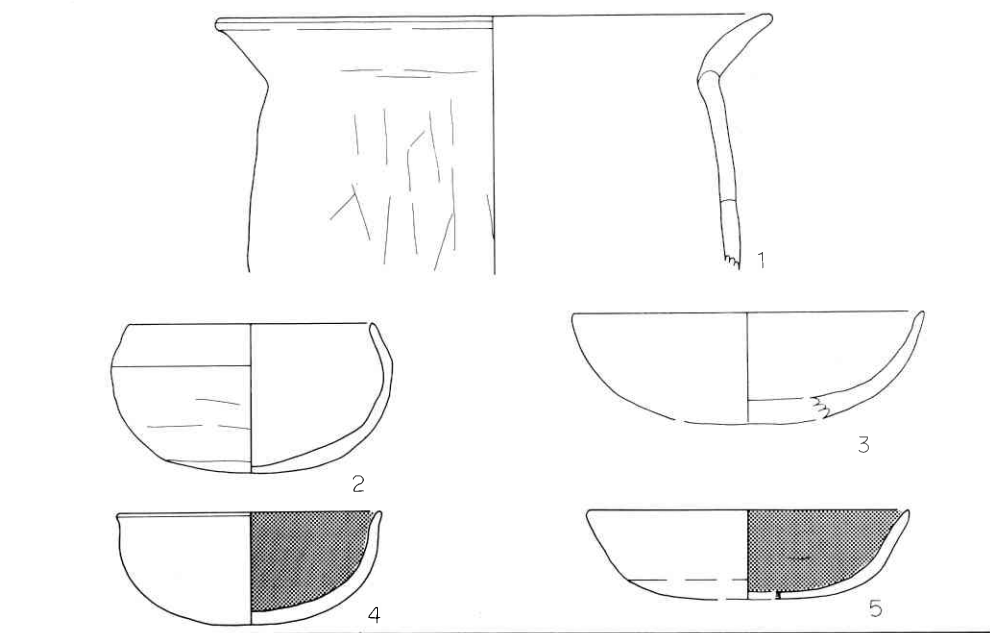


第36図 第30号住居址出土遺物実測図

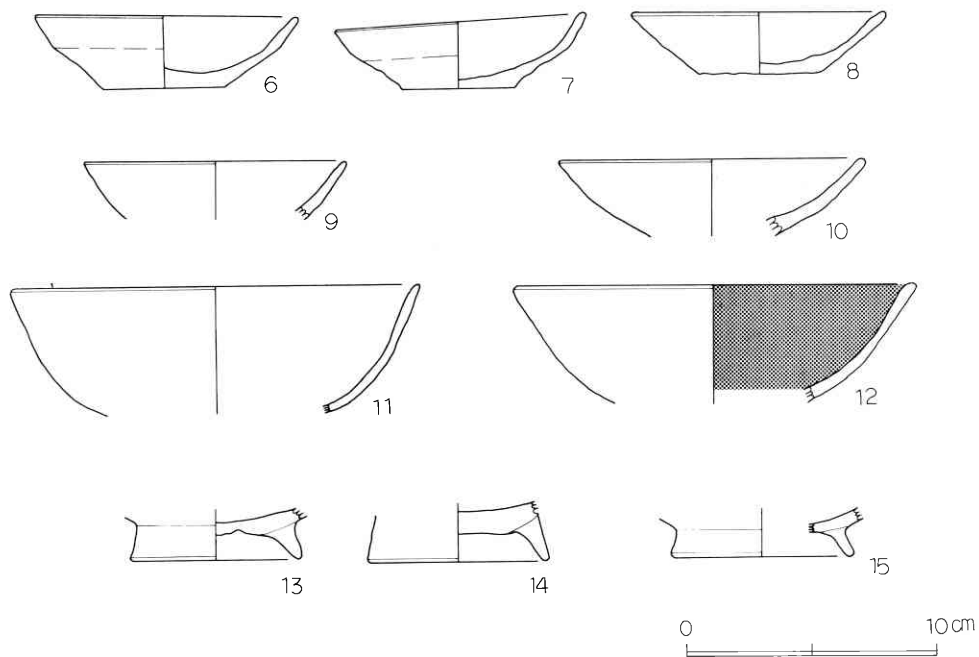




第 3 7 図 第 4 7 号住居址出土遺物実測図



(4) 平安時代

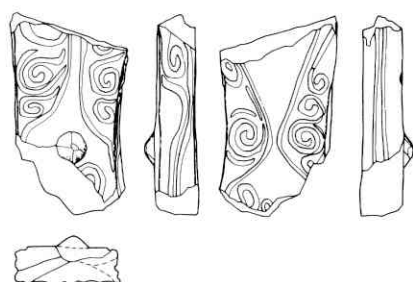


第38図 第51号住居址・第42号住居址出土遺物実測図

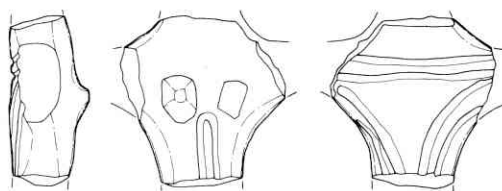
## 2 遺構外出土遺物



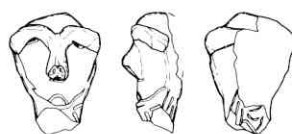
1



2



3



4



第39図 遺構外出土遺物実測図

第3表 第8号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
4 - 1	縄文・浅鉢	ほぼ完存	19.8 9.2 6.5	口縁部の内側に段を由する。底部は網代底。	外面は無文。口唇部に連続刺突文。4条と2条の沈線文。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色／暗褐色。
4 - 2	縄文・ミニチュア	口縁部から胴部	9.1	頸部「く」の字状に屈曲し、口縁部内湾する。		胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。
4 - 3	縄文・ミニチュア	ほぼ完存	2.8 3.6 3.0			胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。
4 - 4	縄文・ミニチュア	ほぼ完存	3.8 4.5 3.4	平底の底部から直立して立ち上がる。	ナデ	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：黄褐色。
4 - 5	縄文・蓋	ほぼ完存	— 10.0	一对2孔を有する。		胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：淡褐色。

第4表 第12号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
4 - 6	弥生・壺	胴下半部 ほぼ完存	6.8	僅かに外反しながら立ち上がり、緩やかに上半部へ移行する。	胴外面横へラ磨き。底外面縦へラ磨き。内面不明。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：暗茶褐色。 *外面赤彩。
4 - 7	弥生・鉢	1/2	(6.6) 7.3 4.4	上げ底ぎみの底部より内湾して開き、口縁部ですばまる。	外面縦へラ磨き。底面・内面へラ磨き。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗茶褐色。 *外面赤彩。
4 - 8	弥生・甕	ほぼ完存	19.0 25.8 7.1	口縁部は弓状に外反し胴部中位で緩く張る。	外面は刷毛調整+簾状文+波状文+へラ磨き。内面へラ磨き。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：黒褐色／暗橙色。
5 - 1	弥生・高坏	坏部 3/7 接合部完存 裾部欠損	(24.6) (18.9) (13.6)	坏部内湾して開き、口縁部で緩やかに外反する。脚部はラッパ状を呈し、三角形透かし孔を有する(4ヶ所)。	口縁部横ナデ。外面縦へラ磨き。坏内面横へラ磨き。脚内面斜め・横刷毛調整。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。 *外面・坏内面赤彩。
5 - 2	弥生・高坏	坏部 ほぼ完存	27.6	外面に稜を持って屈曲し、口縁部は大きく外反する。口唇部に山形突起を有する。	口縁部横へラ磨き。外面縦へラ磨き。内面横へラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色／暗褐色。 *外内面赤彩。

第5表 第20号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
5 - 3	弥生・甕	ほぼ完存	9.1 8.1 4.2	口縁部、僅かに内湾する。	簾状文は5本1単位。内面はナデ。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：橙褐色。
5 - 4	弥生・甕	口縁部から胴部	11.8		簾状文は11本1組で櫛描文は9本1組。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。
6 - 1	弥生・壺	口縁部から頸部	18.3	口縁部短く外反する。	T字文は6本1単位。内面は口縁部ヨコナデ。頸部以下刷毛調整。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：淡褐色。
6 - 2	弥生・甕	口縁部から胴部	15.9	口唇部受け口状を呈する。	簾状文は7本1単位、櫛描文は8本1単位。内面は口縁部ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。
6 - 3	弥生・壺	口縁部から頸部	25.8		外面赤色塗彩。	胎土：細砂粒、石英含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。
6 - 4	弥生・壺	口縁部	25.5		T字文。赤色塗彩。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。
7 - 1	弥生・壺	胴部			T字文8本1単位。内面刷毛調整とナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。
7 - 2	弥生・壺	胴部2/3		胴部中位で緩く張る。頸部にT字文を有する。	外面へラ磨き。内面刷毛調整。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。

第6表 第33号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
8 - 1	弥生・鉢	1/3	22.7	僅かに内湾して開き、 口唇部は内面に肥厚する。	外内面へラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：暗赤褐色。
8 - 2	弥生・壺	口縁部から 胴部上位	20.0	口縁部短く外反する。	口縁部横ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：淡黄褐色。

第7表 第40号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
8 - 3	弥生・蓋	摘み部		摘み中央部に3孔を有する。	横ナデ。	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：褐色。
8 - 4	弥生・高坏	坏部1/2	13.4	内湾して開き、口縁部 で水平に外反する。山 形突起を4か所持つ。		胎土：細礫を含む。 焼成：やや軟弱。 色調：暗赤褐色。
8 - 5	弥生・壺	口縁部から 頸部	25.5	口縁部短く強く外反する。	T字文は9本1単位と 10本1単位の2種類が ある。赤色塗彩。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：やや軟弱。 色調：暗褐色。
8 - 6	弥生・片口 鉢	ほぼ完存	14.2 7.2 5.1	内湾して開く。	赤色塗彩	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：にぶい褐色。
9 - 1	弥生・甕	ほぼ完存	20.7 34.0 8.9	肩部で弱く張り、頸部 で弓状に外反する。口 縁部は内湾する。	外面刷毛調整+簾状文 +波文。内面へラ磨 き、刷毛調整	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。

第8表 第48号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
9 - 2	弥生・甕	ほぼ完存	12.4 12.3 4.8	口縁部に最大径を有する。 胴部僅かに張る。	5本1単位の簾状文と 7本1単位の櫛描文。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：暗赤褐色。
9 - 3	弥生・甕	口縁部から 胴部	13.5	口縁部はやや長円形を 呈する。	7本1単位の簾状文。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。色調：暗褐色 から暗赤褐色。
10-1	弥生・甕	口縁部から 胴部	15.5	胴部中位で弱く張る。	胴部上半に櫛描文。簾 状文は6本1単位。内 面ナデ。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：淡灰褐色。
10-2	弥生・深鉢	胴部から底 部	5.2		外面へラ磨き。赤色塗 彩。	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗茶褐色。
10-3	弥生・高坏	坏部3/4	24.0	坏部中位で屈曲して口 縁部は大きく外反する。	外内面へラ磨き。赤色 塗彩。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。
10-4	弥生・高坏	脚部	10.2	直線的に開く。	内面よりベニガラ塊が 検出された。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。
10-5	弥生・壺	胴部		胴部の最内径37.3cmを 測る。		胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：にぶい褐色。

第9表 第1号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
11-1	土師・甕	1/4	(14.0)	口縁部S字状に屈曲外 反する。	口縁部横ナデ。胴外面 斜め刷毛調整。頸内面 横削り・指頭押圧。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明褐色／明黄褐色。
11-2	土師・甕	口縁部 1/4 胴部僅少	(16.2)	口縁部S字状に屈曲外 反する。口唇内面に面 取りを施す。	口縁部横ナデ。胴外内 面斜め刷毛調整。頸内 面横刷毛調整。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：淡橙褐色／明灰色。
11-3	土師・甕	1/4	(9.0)	脚台部内湾して開く。	外面斜め刷毛調整。内 面へラ削り+横刷毛調 整。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明褐色／明灰褐色。
11-4	土師・甕	胴部 1/2 底部完存	4.6	胴部球形を呈し、下半 部でこける。	外面へラ削り。内面斜 めへラ削り。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：暗褐色 ／明黄褐色*外面煤付着。

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
11-5	土師・甕	胴部 1/4 底部完存	6.5	胴部球形に張る。	外面縦ヘラ削り。内面 斜めヘラ削り+ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：明茶褐色 ／明灰褐色。
11-6	土師・壺	胴下部 1/2 底部完存	4.6	胴部大きく張る。底部 僅かに上げ底となる。	外面縦ヘラ磨き。内面 ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：明橙褐色。
11-7	土師・高坏	1/2	(19.6)	内湾して開き、口縁部 にかけて大きく外反する。 口唇部面取り。	口縁部横ナデ。外面縦 刷毛調整+ヘラ磨き。 内面ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。色調：明褐色。

第10表 第14号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
11-8	土師・罌	口縁部から 胴部上位	12.0	口縁部僅かに内湾して 延びる。	外内面ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：濃褐色 ／青灰色。
11-9	土師・甕	1/3	17.2 17.4 5.5	口縁部「く」の字状に 強く外反する。	口縁部横ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。色調：暗褐色 ／灰褐色。
12-1	土師・甕		17.2 22.7 5.8	口縁部「く」の字状に 強く外反する。胴部は やや下膨れとなる。	外面口縁部横ナデ。胴 部中位は斜位のヘラ削 り。内面刷毛調整。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：灰褐色 ／にぶい黄褐色。
12-2	土師・甕	台部欠損	16.0	胴部は張りが強く、口 縁部は「く」の字状に 外反する。	外面口縁部横ナデ、胴 部細かい刷毛調整。内 面胴部上位に刷毛調整	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。色調：褐色。
13-1	土師・壺	ほぼ完存	21.5 32.4 7.6	球形に大きく張る体部 から強く屈曲して二重 口縁となる。	外面横ナデ、胴部ヘラ 削り、荒い刷毛調整。 内面ヘラ削り。	胎土：細礫を多く含む。焼 成：良好。色調：にぶい 橙色／黒色。
13-2	土師・甕	口縁部から 胴部	15.1	口縁部「く」の字状に 強く外反する。	外面口縁部横ナデ、胴 部斜位の刷毛調整。内 面胴部刷毛調整、ヘラ	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：にぶい 茶褐色。
14-1	土師・甕	口縁部から 胴部	12.7	口縁部は屈曲して外傾 し、受け口状を呈す る。	内面一部斜位の刷毛調 整。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。色調：浅黄 褐色。
14-2	土師・甕	口縁部から 胴部上位	19.4	口縁部「く」の字状に 強く外反する。	外面ヘラ削り+刷毛調 整。口縁部横ナデ。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：黄褐 色／黒灰色。
14-3	土師・器台	完形	9.8 7.4 10.3	器受部端部につまみ上 げを有し、貫通孔と脚 部に透かし孔を持つ。	受部外面にナデ。脚部 内面にナデ。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：にぶい 赤褐色。
14-4	土師・器台	受部から脚 部	7.7 8.3 11.0	脚部に6孔を有する。		胎土：砂粒を多く含む。 焼成：やや軟弱。色調：明 淡橙褐色。
14-5	土師・器台	裾部欠損	8.9	器受部後を持って外反 する。脚部に3孔を有 する。	口縁部横位のナデ。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：黄褐 色。

第11表 第53号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
14-6	土師・甕	口縁部 1/3 胴部 1/4 底部完存	(17.4) 15.9 5.2	口縁部「く」の字状に 外傾し、胴部は球形に 張る。最大径を口縁部 に有する。	口縁部横ナデ。胴外面 斜め・横ヘラ削り。内 面横・斜めヘラ削り・ ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：暗茶 褐色 *外面に煤付着。
14-7	土師・甕	1/2	(19.8)	口縁部「く」の字状に 外反し、胴部は球形に 張る。	口縁部横ナデ。胴外面 縦・斜め刷毛調整。内 面横・斜めヘラ削り。 頸内面横刷毛調整。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：暗灰 褐色／明褐色。 *外面に煤付着。
14-8	土師・罌?	7/8		口縁部外反し、体部は 球形を呈する。	体外面横ヘラ磨き。内 面ナデ?。	胎土：赤褐色粒子を多く含 む。焼成：やや不良。色 調：淡茶褐色。
15-1	土師・壺	完存	9.4 10.0 —	鋭い二重口縁を呈し、 体部は球形に張る。底 部は僅かに上げ底とな る。	口縁部横ナデ。体外面 ヘラ磨き。内面横ヘラ 削り+ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：淡橙 褐色。
15-2	土師・甕?	1/4	(19.6)	底部から口縁部につま み上げて僅かに内湾して 大きく開く。	口縁部横ナデ。体外面 不明。内面斜めヘラ磨 き。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：やや不良。色調：明 褐色。



挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
15-3	土師・鉢	完存	11.5 5.8 —	口縁部内湾して長く伸びる。底部は僅かに突出する。丸底。	外面縦ヘラ磨き。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明橙色。*外内面赤彩。
15-4	土師・埴	ほぼ完存	9.0 5.3 —	口縁部僅かに有段状となり外反する。体部は偏球形を呈し、底部に僅かな凹部を有する。	口縁部横ナデ。体外内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：淡褐色。
15-5	土師・器台	1/4	(8.4)	器受部皿状を呈し、端部屈曲外反する。	口縁部横ナデ。外内面ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明橙色。
15-6	土師・器台	器受部・端部欠損	(12.0)	脚部大きく開き、貫通孔と、3ヶ所の円形透かし孔を有する。	外面縦刷毛調整+ヘラ磨き。内面横刷毛調整？。裾部横ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明橙褐色。

第12表 第13住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
15-7	土師・甕	口縁部から胴部	17.2	口縁部緩く外反する。	外面縦ヘラ削り、内面横ヘラ削りの後ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色。
15-8	土師・甕	口縁部から胴部	13.7	口縁部「く」の字状に外反する。胴部は球形に張る。	外面ヘラ削り。内面は巾の広いヘラで押えている。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：赤褐色。
15-9	土師・甕	口縁部1/3	15.0	口縁部短く外反する。	ナデ。	胎土：石英、金雲母を含む。焼成：良好。色調：橙色。
16-1	土師・甕	口縁部1/4	24.1	口縁部「く」の字状に外反する。胴部は球形に張る。	外面刷毛調整。内面ヘラ磨き。	胎土：細礫を多く含む。焼成：良好。色調：橙色/明赤褐色。
16-2	土師・甕	頸部から胴部		口縁部「く」の字状に外反する。胴部は球形に張る。	内面口縁部ナデの後縦のヘラ磨き。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：橙色。
16-3	土師・甕	完存	18.7 31.9 5.1	口縁部「く」の字状に外反する。胴部は球形に大きく張る。	外面胴部上位は横の刷毛調整、篋ナデ。内面は篋ナデ、刷毛調整	胎土：細砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明赤褐色/にぶい橙色。*煤付着
17-1	土師・甕	口縁部1/3	20.6	口縁部「く」の字状に外反する。	外面ナデ。内面指頭圧痕。	胎土：小細礫を含む。焼成：良好。色調：橙色。
17-2	土師・甕	口縁部1/2	15.4	口縁部「く」の字状に外反する。口唇部面取り。	外面ナデ+縦のヘラ磨き。内面ナデ。	胎土：細礫、金雲母を含む。焼成：良好。色調：橙色。
17-3	土師・甕	口縁部1/3	19.6	口縁部「く」の字状に外反する。	刷毛調整。	胎土：細砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色。
17-4	土師・甕	口縁部1/3	16.6	口縁部「く」の字状に外反する。	ナデ。	胎土：金雲母含む。焼成：良好。色調：暗褐色。
17-5	土師・壺	口縁部1/3	17.1	口縁部内湾して受け口状を呈する。	横ナデ+ヘラ削り	胎土：細礫を含む。焼成：やや軟弱。色調：暗褐色。
17-6	土師・壺	口縁部	18.0	口縁部屈曲して立上がり、僅かに外反する。	外内面横ナデ。	胎土：細礫、石英を含む。焼成：良好。色調：明赤褐色。
17-7	土師・壺	口縁部1/4	15.0	口縁部外面に稜を持って上方へ立上がり、受け口状を呈する。	刷毛調整。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色/褐色。
17-8	土師・壺	口縁部1/3	16.3	口縁部外面に稜を持って上方へ立上がり、受け口状を呈する。	横ナデ。	胎土：細礫、石英を含む。焼成：良好。色調：明赤褐色/灰赤色。
17-9	土師・甕	口縁部1/3	24.0	口縁部「く」の字状に外反する。口唇部に面取り。	外面ナデ+ヘラ磨き。内面ナデ。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：暗褐色。
18-1	土師・壺	完存	13.6 9.4 8.3	体部大きく張り、口縁部は短く直立気味に立上がる。口唇部面取り	外面口縁部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。内面胴部刷毛調整。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：明黄褐色/明褐色。

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
19-1	土師・埴	ほぼ完存	9.7 4.3 —	体部は偏球形を呈し、 口縁部は僅かに内湾し 口唇部は受口状に直立	外面縦への磨き。内 面口縁部への磨き、体 部斜めの削り。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明橙色。
19-2	土師・埴	口縁部欠損	—	口縁部は内湾し、体部 の器肉は薄い。	外面縦への磨き。内面 口縁部への磨き、体部 は斜め削り。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明橙色。
19-3	須恵・甕?	口縁部欠損	—	丸底	外面胴部上位4本の平 行沈線間に刺突文。内 面横のナデ。	胎土：細礫含む。 焼成：良好。 色調：灰黄色/灰色。
19-4	土師・坏	ほぼ完形	13.1 6.2 —	口縁部短く僅かに外反 する。底部丸底。	外面口縁部横ナデ、体 部への磨き。内面への 磨き。	胎土：細砂粒含む。 焼成：良好。 色調：暗橙色。
19-5	土師・椀	ほぼ完形	12.0 6.1 —	体部は深く内湾し、僅 かな稜を経て外反する 口縁に至る。	外面口縁部横ナデ、体 部への磨き。内面ナ デ。	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明橙色。
19-6	土師・椀	2/3	10.5 7.8 —	体部は深く内湾し、口 縁部短く「く」の字状 に外反する。	外面縦への磨き、内面 放射状への磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明橙色/明褐色。
19-7	土師・椀	ほぼ完存	12.6 8.1 —	体部は深く内湾し、口 縁部短く「く」の字状 に外反する。	外面縦への磨き、体部 下位への磨き+ナデ。 内面横刷毛、への磨き	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。色調：暗赤褐 色/明赤褐色。
19-8	土師・椀	1/2	13.3 6.7 —	体部は深く内湾し、口 縁部短く「く」の字状 に外反する。	外面口縁部横ナデ、体 部刷毛調整。内面ナ デ。	胎土：微砂粒を含む。焼成 ：良好。色調：明黄色。 * 器面化粧土状に剥落。
19-9	土師・椀	4/5	15.8 7.6 —	体部は内湾する。	外面口縁部横ナデ、へ う削り。内面への削 り。	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
20-1	土師・高坏	1/2	15.4 13.0 13.1	坏部碗状に内湾し、脚 部は柱状を呈して、裾 部で大きく開く。	外面坏部横ナデ+縦へ う磨き、裾部横ナデ+ 放射状への磨き。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
20-2	土師・高坏	坏部1/2	18.9	坏部、屈曲して立上が り、外反しながら広がる。	不定方向にナデ。	胎土：細礫を含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
20-3	土師・高坏	1/2	17.8	坏部、屈曲して立上が り、外反しながら広がる。	外面横ナデ+への磨 き。内面横ナデ+への 磨き。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：赤橙色。
20-4	土師・高坏	1/2	17.2	坏部、屈曲して立上が り、外反しながら広がる。	外面ナデ+斜めへの磨 き。内面ナデ+放射状 への磨き。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。色調：赤褐色 /にぶい橙色。
20-5	土師・高坏	坏部	14.4	坏部、屈曲して立上が り、外反しながら広がる。	外内面ナデ+への磨 き。	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙/橙色。
20-6	土師・高坏	脚部	12.0	脚部、柱状を呈し、裾 部で屈曲して大きく開 く。	外面縦への磨き、裾部 で+への磨き。内面へ う磨き+ナデ。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明赤褐色。
20-7	土師・高坏	脚部	12.4	脚部、柱状を呈し、裾 部で屈曲して大きく開 く。	外面縦への磨き、裾部 ナデ+放射状への磨き 内面への削り、ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：赤褐色。
20-8	土師・高坏	脚部	13.3	脚部、柱状を呈し、裾 部で屈曲して大きく開 く。	外面縦への磨き。内面 への磨き、裾部ナデ。	胎土：小礫を含む。 焼成：良好。 色調：赤褐色/赤黒色。
20-9	土師・高坏	脚部	14.1	脚部、柱状を呈し、裾 部で屈曲して大きく開 く。	外面横ナデ+放射状に への磨き。内面ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：橙褐色。
20-10	土師・高坏	脚部1/2	12.9	脚部、短い柱状を呈 し、裾部で屈曲して大 きく開く。	外面ナデ。内面への削 り、裾部ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：黄褐色。
20-11	土師・高坏	裾部	13.5	脚部、柱状を呈し、裾 部で屈曲して大きく開 く。	外面裾部放射状への磨 き、脚部縦への削り。 内面ナデ、への削り。	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：橙色。
20-12	土師・高坏	脚部	10.7	脚部、ラッパ状に開 く。	外面細かいが難なへの 磨き。内面刷毛調整。 裾部ナデ。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。

第13表 第4 4住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
2 1 - 1	土師・壺	完存	16.5 34.8 7.7	体部、球形に大きく張り、口縁部は受け口状を呈する。	外面口辺部刷毛調整、口縁部横ナデ、ヘラ削り+ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：茶褐色／暗褐色。
2 1 - 2	土師・甕	ほぼ完存	16.5 20.8 4.2	体部球形に張り、口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部横ナデ、胴部細・太2種類の刷毛調整。	胎土：細砂粒、雲母を含む。焼成：良好。色調：暗褐色。
2 2 - 1	土師・壺	口縁部1/5	18.4	口縁部外面に稜を持って外反する。	外面口縁部横ナデ。内面刷毛調整。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：明赤褐色。
2 2 - 2	土師・甕	口縁部1/2	18.3	口縁部「く」の字状に外反する。	外面縦のヘラ削り。内面斜め刷毛調整。	胎土：細礫、雲母、砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：赤褐色。
2 2 - 3	土師・甕	口縁部1/3	14.8	口縁部やや内湾する。	外面口縁部横ナデ。	胎土：細砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗赤褐色。
2 2 - 4	土師・鉢	3/5	11.2 8.9 —	丸底で球形の体部から口縁部が短く屈曲外反する。	外面口縁部横ナデ。	胎土：細礫を多く含む。焼成：良好。色調：橙色／黒褐色。
2 2 - 5	土師・鉢	完存	13.2 9.5 5.3	口縁部短く外反する。	外面指頭による押え。内面ヘラ削り、刷毛調整。	胎土：砂粒、金雲母を含む。焼成：良好。色調：にぶい赤褐色。
2 2 - 6	土師・鉢	完存	14.9 8.6 —	偏球形の体部から口縁部が短く外反する。	外内面口縁部横ナデ、指頭によるナデ。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色。
2 2 - 7	土師・鉢	口縁部から胴部	10.6	口縁部折り返す。	外面口縁部指頭による押え痕、ナデ。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色。
2 2 - 8	土師・埴	完存	12.3 13.1 —	やや偏平な体部と内湾する口縁部を持つ。	外面口縁部横ナデ、胴部指頭による押圧。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色／橙色。
2 2 - 9	土師・埴	口縁部欠損	—	偏平な体部を有する。	外面ナデ、底部左回りのヘラ削り。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色。
2 2 - 10	土師・坏	2/5	13.6 —	体部内湾する。	外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	胎土：細砂粒を含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色／黒色。
2 2 - 11	土師・坏	5/6	13.4 —	体部内湾し、口縁部で短く外反する。	外内面ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：明褐色。
2 2 - 12	土師・坏	1/2	12.6	口縁部僅かに外反する。	—	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：橙色。
2 2 - 13	土師・鉢	1/2	13.1	体部内湾し、口縁部で短く外反する。	外内面ナデ。	胎土：細砂粒を含む。焼成：良好。色調：橙色。
2 3 - 1	土師・高坏	ほぼ完存	19.1 16.4 13.2	坏部屈曲して開き、脚部は柱状を呈し、裾部で大きく開く。	口縁部横ナデ、裾部横ナデ+縦ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：淡白灰色／淡白褐色。
2 3 - 2	土師・高坏	完存	19.2 14.3 14.8	坏部屈曲して開き、脚部はラッパ状に大きく開く。	外内面斜め刷毛調整、外面裾部ナデ。	胎土：細砂粒を含む。焼成：やや軟弱。色調：淡橙褐色。
2 3 - 3	土師・高坏	ほぼ完存	18.6 14.3 13.5	坏部屈曲して開き、脚部は柱状を呈し、裾部で大きく開く。	坏部外面横ナデ、裾部横ナデ、脚部ヘラ磨き。坏部内面刷毛調整。	胎土：細砂粒を含む。焼成：良好。色調：淡褐色。
2 3 - 4	土師・高坏	完存	14.1 11.2 13.2	坏部屈曲して開き、脚部はラッパ状に大きく開く。	外面口縁部横ナデ、坏・脚部縦ヘラ磨き。内面坏部ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：橙色。
2 3 - 5	土師・高坏	ほぼ完存	16.2 13.4 12.4	坏部内湾して開き、脚部はラッパ状に大きく開く。	外面坏部は横・縦の刷毛調整。内面坏部ヘラ磨き、脚部ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明褐色。
2 3 - 6	土師・高坏	坏部	19.6	坏部、屈曲して立上がり、外反しながら大きく開く。	外面ナデ+ヘラ削り。内面ナデ。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：明褐色。

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
2 3 - 7	土師・高坏	坏部2/3	20.0	坏部、屈曲して立ち上り、外反して長く伸びる。	外面横ナデ+斜めヘラ磨き。内面ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
2 3 - 8	土師・高坏	坏部	19.2	坏部、屈曲して立ち上り、外反して長く伸びる。	外面斜めヘラ磨き。内面ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：橙色／にぶい橙色。
2 4 - 1	土師・高坏	坏部	22.0	坏部、強く屈曲して立ち上り、外反して長く伸びる。	外面口縁部横ナデ+ヘラ磨き。内面斜めヘラ磨き。	胎土：細礫を含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
2 4 - 2	土師・高坏	坏部	20.3	坏部、屈曲して立ち上り、強く外反して開く。	外面ナデ+七面ヘラ磨き。内面ヘラ磨き+ナデ。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：明茶褐色／にぶい橙色。
2 4 - 3	土師・高坏	脚部	13.2	脚部、柱状を呈し、裾部で水平近くまで開く。	外面縦刷毛調整。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：橙色。
2 4 - 4	土師・高坏	脚部	16.2	脚部、柱状を呈し、裾部で屈曲して大きく開く。	外内面ヘラ磨き、ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：黒褐色／暗灰色。
2 4 - 5	土師・高坏	脚部	13.7	脚部、柱状を呈し、裾部で屈曲して大きく開く。	外面縦ヘラ磨き、裾部ナデ。内面横ヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：橙色。
2 4 - 6	土師・高坏	脚部	14.3	脚部、柱状を呈し、裾部で屈曲して大きく開く。	外面ヘラ削り、裾部横ナデ。内面横ヘラ削り。	胎土：細礫を含む。 焼成：良好。 色調：橙色。

第13表 第45住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
2 4 - 7	土師・埴	ほぼ完存	12.3 15.6 —	体部は球形を呈し、口縁部は外反気味に開く。	外内面口縁部横ナデ、口縁から体部2種類の刷毛調整。	胎土：細礫、石英を多く含む。焼成：良好。 色調：暗褐色。
2 4 - 8	土師・甕	ほぼ完存	15.3 13.0 4.8	やや縦長な胴部から口縁部が「く」の字状に外反する。	外内面斜め刷毛調整。	胎土：細礫を含む。 焼成：良好。色調：にぶい橙色／にぶい褐色。
2 5 - 1	土師・甕	完存	17.0 20.8 6.0	頸部強く「く」の字状に外反。口縁部に大きな歪あり。煤付着	外面口縁部横ナデ、頸部刷毛調整、胴部削り内面ヘラ削り。	胎土：細礫を含む。 焼成：良好。 色調：暗赤褐色。
2 5 - 2	土師・甕	ほぼ完存	19.0 17.0 2.8	球形に張る体部から口縁部が短く外反する。底部は僅かな平底。	外面ヘラ削りとヘラナデ／刷毛調整。内面ヘラ削り、刷毛調整。	胎土：小礫を含む。 焼成：良好。色調：明赤褐色／暗赤褐色。
2 5 - 3	土師・甕	ほぼ完存	10.6 10.8 4.2	口縁部緩く外反する。	外面ヘラ削り。内面斜めヘラ磨き。	胎土：小礫を含む。 焼成：良好。 色調：暗赤色／灰赤色。
2 5 - 4	土師・甕	ほぼ完存	16.7 22.0 —	球形に張る体部から口縁部が緩く外反する。	外面口縁部横ナデ、胴部上位ナデ、下位刷毛調整。	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。色調：暗茶褐色～黄茶褐色。
2 5 - 5	土師・埴	口縁部欠損	—	体部、球形を呈する。	外面刷毛調整。内面刷毛調整。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。色調：にぶい橙色／灰褐色。
2 5 - 6	土師・高坏	坏部1/2	15.2	坏部、屈曲して立ち上り、外反して長く伸びる。	外面ヘラ磨き、坏部下位は刷毛調整。内面ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：にぶい赤褐／にぶい橙色。

第14表 第4号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
2 6 - 1	土師・甕	1/4	(16.0) 12.8 ( 5.0)	口縁部緩く直立気味に外反する。	口縁部横ヘラ磨き。胴外面斜めヘラ磨き。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色／黒色。
2 6 - 2	土師・甕	上半部 1/2 下半部完存	( 9.0) 10.4 —	口縁部緩く外反する。胴部は下膨れの球形を呈し、丸底。	口縁部横ナデ。胴外面ヘラ削り。内面横ヘラ削り・ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：暗赤褐色／暗黒褐色。
2 6 - 3	土師・甕	1/6	(13.0)	口縁部緩やかに外反する。	口縁部横ナデ。胴外面縦ヘラ削り。内面横ヘラ削り+ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。色調：明褐色／明灰褐色。

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
26-4	土師・鉢	上半部 1/4 下半部完存	(19.6) (11.4) —	扁平な丸底の底部から直線的に立上がり、口縁部僅かに外反する。	口縁部横ナデ。体外面横・斜めヘラ磨き。内面横ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を含む。焼成：やや不良。色調：暗灰褐色／暗橙褐色。
26-5	土師・甌	完存 (口縁部一部欠損)～	18.4～ 16.4 10.7 —	口縁部僅かに外反。丸底の底部に18の小孔を有する。口縁はやや歪む。	口縁部横ナデ。体外面縦。斜めヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明橙褐色／明灰褐色。＊内面黒色研磨の可能性あり。
26-6	土師・甌？	口縁部僅少 体部 1/3	(11.8) (10.5) —	口縁部直立し、素口縁を呈する。丸底。	口縁部横ナデ。体外面ヘラ削り。内面横ヘラ削り＋横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：明灰褐色／黒色。
26-7	土師・坏	ほぼ完存	15.2 5.9 —	体部内外面に鈍い稜を有し、口縁部は外反する。丸底。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面ヘラ磨き？。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：不良。色調：明橙褐色。
26-8	土師・坏	1/4	(11.0) 3.6 —	浅い丸底の底部外面に鈍い稜を有し、口縁部は僅かに外反する。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：明黄褐色／明橙褐色。
26-9	土師・坏	1/2	(14.0) (3.8) —	浅い丸底の底部外面に鈍い稜を有し、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明橙褐色。
26-10	土師・坏	口縁部僅少 底部 1/2	(14.2) (3.8) —	浅い丸底の底部に稜を有し、口縁部は外反して立上がる。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き？。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：不良。色調：明灰褐色／明橙褐色。
27-1	土師・坏	1/3	(13.8) 3.7 —	体部外面に稜を有し、口縁部は外反する。丸底。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明橙褐色／黒色。
27-2	土師・坏	1/2	13.2 (4.7) —	体部外面に鈍い稜を有し、口縁部は直立気味に外反する。丸底。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：やや不良。色調：淡褐色／黒色。
27-3	土師・坏	1/6	(12.2) (4.1) —	体部緩やかに内湾し、口縁部は僅かに外反する。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：淡橙褐色／暗灰褐色。
27-4	土師・坏	1/4	(14.0) 3.4 —	浅い丸底の底部外面に鈍い稜を有し、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：淡橙褐色／黒色。
27-5	土師・ 高坏？	1/6	(15.4)	内面見込み部に段を有し、口縁部僅かに内湾する。	口縁部横ナデ。外面ヘラ磨き？。内面縦ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：淡褐色／黒色。

第15表 第23号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
27-6	土師・甕	1/2	13.2 13.1 6.3	口縁部直立気味に外反する。	口縁部横ナデ。体外面不明。内面横・斜めヘラ削り。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗赤褐色／暗黒褐色。
27-7	土師・壺	口縁部 2/3 体部 1/4	14.2	口縁部「く」の字状に外反し、体部は球形を呈する。	口縁部横ナデ。体外面斜め・横ヘラ磨き。内面横ヘラ削り。	胎土：細砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗灰褐色／暗橙褐色。
27-8	土師・甕	胴部 3/4 底部完存	7.6	胴部僅かに張る。	外面縦ヘラ削り。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ削り。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：暗褐色／暗灰褐色。＊外面煤付着
27-9	土師・甌	1/2	(11.0)	筒抜けの底部を呈する。	外面縦ヘラ削り。内面横ヘラ削り。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明橙褐色。
28-1	土師・坏	1/3	(13.4) 5.1 —	底部から口縁部にかけて内湾する。丸底。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面不明。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明黄灰褐色。
28-2	土師・坏	1/3	(13.4) 5.0 —	浅い丸底の底部から稜を有して口縁部外傾する。	口縁部横ナデ。底外面ヘラ削り。内面不明。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明黄灰褐色。
28-3	土師・坏	1/5	(12.8) (3.4) —	体部外面に鈍い稜を有し、口縁部は外反する。丸底。	口縁部横ナデ。底外面ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：細砂粒を含む。焼成：やや不良。色調：黒褐色。

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
28-4	土師・坏	1/6	(15.6) (4.4) —	僅かに外反して立上がり、外面に鈍い稜を有して口縁部外反する。	口縁部横ナデ。底外面へラ削り。内面ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：暗褐色／暗茶褐色。
28-5	土師・坏	1/8	(10.0)	浅い丸底の底部に稜を有し、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明橙色。
28-6	土師・坏	1/4	—	体部外面に鈍い受部を有し、口縁部は内傾する。丸底。	底外面へラ削り。内面ナデ？。	胎土：微砂粒を含む。焼成：やや不良。色調：明橙色。
28-7	土師・鉢	坏部 3/4 底部完存	17.4 6.6 7.1	底部から口縁部にかけて内湾する。口唇部は鋒状を呈する。	口縁部横ナデ。体外面へラ削り？。内面ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：暗黄褐色／明灰褐色。 *底部に木葉痕あり。
28-8	土師・坏	1/7	(12.8)	内面見込み部に段を有し、口縁部は僅かに外反する。	口縁部横ナデ。内面横へラ磨き。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗黄褐色／黒色。
28-9	土師・坏	1/6	(15.8)	内湾して立上がり、口縁部で僅かに外反する。内面見込部に段を有する。	口縁部横ナデ。底外面横へラ削り。内面横へラ磨き。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗橙色／黒色。
28-10	須恵・坏	1/4	(10.7) 3.9 4.9	受部は比較的鋭く上方に伸び、口縁部は内傾する。平底を呈する。	外内面ロクロナデ。	胎土：精良。焼成：良好。色調：明灰色。*底部外面に濃緑色の自然袖掛かり、3本のへラ描き沈線あり。

第16表 第29号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
29-1	土師・甕	2/3	19.5 34.6 8.2	口縁部緩く外反する。底部は平底。	外面口縁部横ナデ、胴部へラ削り、内面口縁部へラナデ。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：暗褐色／褐色。
29-2	土師・甕	完存	18.8 34.8 5.7	口縁部緩く外反する。底部は平底。	外面縦へラ削り、縦刷毛調整。内面口縁部横ナデ。	胎土：細礫微を含む。焼成：良好。色調：濃茶～褐色／淡褐色。
30-1	土師・甕	ほぼ完存	19.3 32.7 7.8	口縁部「く」の字状に外反し大きく歪む。胴部中位でやや張る。	外面胴部上位は刷毛調整。下位は縦削り。内面削り、刷毛調整。	胎土：小礫を含む。焼成：良好。色調：にぶい橙色。
30-2	土師・甕	ほぼ完存	20.5 26.3 6.8	体部張り、口縁部短く外反する。	外面口縁部横ナデ、胴部へラ削り。輪積み痕が明瞭に残る。	胎土：小礫を含む。焼成：良好。色調：濃茶色。
31-1	土師・甕	ほぼ完存	20.6 28.2 6.6		外面口縁部横ナデ、胴部へラ削り、内面胴部上位にへラ磨き。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：橙色／灰褐色。
31-2	土師・甕	ほぼ完存	21.4 36.3 7.5	下膨れの体部から口縁部緩く外反する。	外面口縁部横ナデ、頸部へラ磨き、胴部へラ削り。内面へラ磨き。	胎土：細砂粒を含む。焼成：良好。色調：褐灰～黒色。
32-1	土師・	1/2	17.8 23.7 3.6	胴部中位で強く張る。	外内面ナデ。	胎土：石英、粗砂粒含む。焼成：良好。色調：明橙褐色／灰褐色。
32-2	土師・甕	口縁部～胴部	18.4	口縁部僅かに外反する。	外面口縁部横ナデ、へラ削り。内部刷毛調整。煤付着。	胎土：細礫を含む。焼成：良好。色調：赤褐色。
32-3	土師・甕	1/3	19.0	口唇部面取りが施される。	口縁部横ナデ、頸部に篋上工具による沈線。	胎土：細砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：にぶい赤褐色／橙色。
32-4	土師・甕	ほぼ完存	12.8 10.9 3.7	口縁部緩く外反し、胴部やや球形を呈する。底部は丸底に近い。	外面口縁部横ナデ、口辺部つなぎ目跡あり。内面へラナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明茶褐色。
32-5	土師・甕	ほぼ完存	11.5 9.8 6.1	成形後、口縁の一部をつまみ出す。	外面ナデ。内面胴部下位刷毛調整。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗赤色／赤黒色。
33-1	土師・甕	ほぼ完存	12.4 13.5 6.3	口縁部僅かに外反する。	口辺部ナデ、胴部下位ナデ。	胎土：石英、粗砂粒を含む。焼成：良好。色調：赤褐色／暗褐色。

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
33-2	土師・甕	ほぼ完存	16.6 15.1 6.8	口縁部僅かに外反する。	外内面ヘラ削り。口辺部横ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：暗黄褐色／明褐色。
33-3	土師・甕	ほぼ完存	18.6 13.2 —	口縁部僅かに外反し体部は砲弾状を呈する。底部に一孔を有する。	外面口辺部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面ヘラナデ。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：暗褐色。
33-4	土師・甕	ほぼ完存	17.8 16.4 —	口縁部僅かに外反し体部は砲弾状を呈する。底部に一孔を有する。	外面口辺部横ナデ。内面ヘラ磨き。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：橙褐色／赤褐色。
33-5	土師・甕	胴部1/4	8.4	筒抜けの底部を有する。	外内面ヘラ削り。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。色調：灰～浅黄色／浅褐色。
33-6	土師・坏	1/3	16.7 3.9 —	浅い丸底の底部から内湾して開く。	外面ナデ。内面口縁部ナデ、体部ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：橙褐色／にぶい赤褐色。
33-7	土師・坏	ほぼ完存	15.1 3.7 —	浅い丸底の底部から内面に稜をもって立上がり内湾して開く。	外面横ナデ。内面指頭による横の押え及びナデ。	胎土：細砂粒を含む。 焼成：良好。色調：にぶい赤褐色／淡赤褐色。
33-8	土師・坏	1/2	14.0 4.6 —	浅い丸底の底部から稜をもって立上がり口縁部外反する。	外面口縁部ナデ。体部ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：明褐色／にぶい赤褐色。
34-1	土師・碗	ほぼ完存	16.2 8.3 —	体部内湾して半球状を呈す。底部丸底。	外面ヘラ削り。内面ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：橙色／にぶい橙色。
34-2	土師・碗	1/3	13.1	体部大きく内湾して球状を呈す。	外面ヘラ削り。内面ナデ。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色／橙色。

第17表 第30号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
34-3	土師・甕	ほぼ完存	18.0 24.5 6.8	最大径を胴部中位に有し、口縁部は緩く外反する。	口縁部横ナデ。胴外面斜め・縦・横ヘラ削り。内面横ヘラ削り。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：明茶褐色／暗茶褐色。*胴下半部煤付着。外面黒斑あり。
34-4	土師・甕	ほぼ完存	18.0 30.6 7.0	最大径を胴部中位に有し、口縁部は緩く外反する。	口縁部横ナデ。胴外面縦・横ヘラ削り。内面横ヘラ削り。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：明灰茶褐色。*外面煤付着。
35-1	土師・甕	口縁部 2/3 胴部～底部 ほぼ完存	17.7 31.2 7.2	最大径を胴部中位に有し、口縁部は緩く外反する。	口縁部横ナデ。胴外面縦・斜めヘラ削り。内面横ヘラ削り。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明灰茶褐色。*下半部煤付着。外面黒斑あり。
35-2	土師・甕	胴部 3/4 底部完存	6.4	最大径を胴部中位に有する。	胴外面縦ヘラ削り＋ナデ。内面横ヘラ削り＋ナデ。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色／明灰褐色。 *外面黒斑あり。
35-3	土師・甕	1/3	(12.7)	胴部筒状を呈し、口縁部緩やかに外反する。	口縁部横ナデ。胴外面縦ヘラ削り＋ナデ。内面横ヘラ削り。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。色調：明灰褐色／明橙褐色。
35-4	土師・壺	ほぼ完存	15.2	口縁部「く」の字状に外反し、長く伸びる。口唇部内面僅かに肥厚する。	口縁部横ナデ。外面縦ヘラ磨き？。内面横ヘラ磨き。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：暗茶褐色。
35-5	土師・甕	ほぼ完存	25.2 24.5 8.5	筒抜けの底部から口縁部にかけて緩やかに開き、体部中位に一对の把手を有する。	口縁部横ナデ。体外面斜めヘラ削り＋ナデ。内面横ヘラ削り＋ナデ。把手手づね。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色／明橙褐色。 *外面黒斑あり。
36-1	土師・甕	完形	17.5 12.2 —	口縁部外反し、体部は砲弾状を呈する。底部に1孔を有する。	口縁部横ナデ。体外面横・斜めヘラ削り＋ナデ。内面ヘラ削り＋ナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明褐色。
36-2	土師・壺	ほぼ完存	11.7 11.3 —	体部偏球形を呈し、口縁部直立気味に外反する。丸底。	口縁部横ナデ。体外面横ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：やや不良。色調：淡褐色。*外面黒斑あり。



補図番号	器種	遺存度	法量	器形の特徴	調整・施文	備考
37-1	土師・壺	3/4	(16.6)	口縁部短く外反し、胴部は筒状を呈する。	胎土：小礫・微砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗黄褐色。*外面に煤付着。	
37-2	土師・壺	1/4	(22.8)	口縁部緩く外傾。胴部は筒状を呈する。	胎土：微砂粒を含む。焼成：やや不良。色調：明褐色。*外面に煤付着。	
37-3	土師・壺?	1/8	(12.4)	体内内湾し、口縁部僅かに外反して、直立する。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：淡褐色。	
37-4	土師・手づくね	図示部完存	2.9	肩部に最大径を有し、強く張る。屈曲して立ち上がる口縁部を持つ。	胎土：小砂粒を含む。焼成：良好。色調：暗黄褐色/黒灰色。	
37-5	土師・杯	1/3	(11.8) (4.3)	浅い丸底の底部外面に鈍い稜を有し、口縁部は僅かに内湾する。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明褐色/黒色。	
37-6	土師・杯	口縁部僅少 底部1/2	(14.4) (4.2)	丸底の底部外面に鈍い稜を有し、口縁部は短く外反する。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明黄白色/黒色。	
37-7	土師・杯	1/4	(13.0) (3.9)	浅い丸底の底部外面に鈍い稜を有し、口縁部は僅かに内湾する。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明黄褐色/黒色。	
37-8	土師・杯	1/3	(13.2) (4.6)	丸底の底部外面に鈍い稜を有し、口縁部は僅かに内湾する。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明灰色/黒色。	
37-9	土師・杯	1/2	12.9 4.5	丸底の底部外面に一条の沈溝を有し、口縁部は僅かに内湾する。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明褐色/黒色。	
37-10	土師・杯	ほぼ完存	13.8 4.4	浅い丸底の底部外面に鈍い稜を有し、口縁部は僅かに内湾する。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明黄褐色/黒色。	
37-11	土師・杯	1/6	(11.1) 3.7	底部から口縁部にかけ磨き。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：黄灰褐色/黒色。	

第18表 第47号住居址出土土器一覽表

36-3	土師・壺?	頭部~体部 上半1/3 底部完存	12.7 11.5	体部偏球形を呈し、口縁部直立気味に外反する。丸底。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：やや不良。色調：明黄白色。*外面黒斑あり。	
36-4	土師・壺	完形	12.7	体部偏球形を呈し、口縁部直立気味に外反する。丸底。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明黄褐色/黒色。	
36-5	土師・鉢	口縁部1/2 底部完存	(19.4) 11.0 6.4	僅かに外反しなから立ち上がり、口縁部内湾する。丸底。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：暗灰褐色/明茶褐色。	
36-6	土師・壺	ほぼ完存	12.0 10.4	体部球形を呈し、口縁部は面取りされる。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明黄褐色/黒色。	
36-7	土師・杯	体部1/4 底部3.4	(15.0) 5.2	体部外面に鈍い稜を有し、口縁部外反する。平底に近い丸底。	胎土：小砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：暗茶褐色。	
36-8	土師・杯	1/4	(16.0) (5.3)	浅い丸底の体内内面に稜を持つて口縁部外反する。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明黄褐色/黒色。	
36-9	土師・杯	ほぼ完存	15.0 5.7	体部外面に鈍い稜を有し、口縁部外反する。丸底。	胎土：微砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：明灰褐色/黒色。	
36-10	土師・杯	1/8	(13.4)	体部外面に鈍い稜を有し、口縁部外反する。磨き。	胎土：微砂粒を含む。焼成：良好。色調：明灰白色/黒色。	
36-11	土師・高坏 椀部2/3欠 損	坏部1/2	14.8 9.4 (8.3)	坏部屈曲して直立気味に外反し、脚部は短く「ハ」の字状に開く。	胎土：細砂粒を多く含む。焼成：良好。色調：淡褐色/黒色。	

第19表 第51号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
38-1	土師・甕	1/3	(22.4)	口縁部「く」の字状に外反し、口唇部部分的に面取りされる。	口縁部横ナデ。胴外面縦ヘラ削り。内面横ヘラ削り+ナデ。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明黄褐色。
38-2	土師・坏	1/2	(10.0) 6.0 —	半球形の体部外面に鈍い稜を有し、口縁部外反しながら内傾する。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き？。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：不良。 色調：橙褐色／明灰色。
38-3	土師・坏	1/6	(14.2) (4.5) —	内湾して開き、口唇部は鋒状を呈する。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き+ナデ。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：淡橙色。
38-4	土師・坏	ほぼ完存	10.6 4.6 —	内湾して開き、口縁部で僅かに外反する。丸底。	口縁部横ナデ。底外面横ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：明灰色／黒色。
38-5	土師・坏	1/6	(13.0) 3.6 —	浅い丸底の底部外面に微かな稜を有し、口縁部外傾する。	口縁部横ナデ。底外面ヘラ削り。内面横ヘラ磨き。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：明黄褐色／黒色。

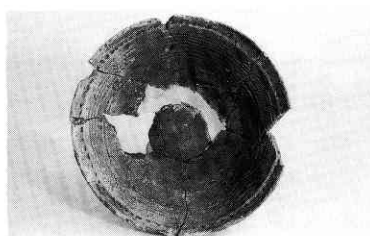
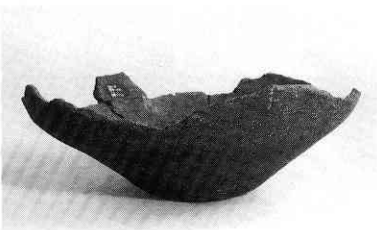
第20表 第42号住居址出土土器一覧表

挿図番号	器 種	遺 存 度	法 量	器 形 の 特 徴	調 整 ・ 施 文	備 考
38-6	土師・坏	3/5	10.6 3.1 4.8	底部から口縁部にかけて内湾する。	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。	胎土：細礫を含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
38-7	土師・坏	1/3	10.2 3.0 4.6	底部から口縁部にかけて内湾する。	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
38-8	土師・坏	1/2	10.3 2.6 4.8	底部から口縁部にかけて直線的に開く。	内外面ロクロナデ。底部回転系切りの後、ヘラ削り調整を加える。	胎土：細礫を多く含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
38-9	土師・坏	1/6	(10.6)		内外面ロクロナデ。	胎土：小砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：浅黄褐色。
38-10	土師・坏	1/6	(12.3)		内外面ロクロナデ。	胎土：細砂を含む。 焼成：良好。 色調：灰褐色。
38-11	土師・坏	1/6	(16.5)	体部内湾する。	外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙／黒色。
38-12	土師・坏	1/2	16.2	体部内湾する。	内面黒色処理。	胎土：微砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：黄灰色。
38-13	土師・坏	高台のみ	6.9	底部に高台を付ける。	底部に回転系切り痕残る。	胎土：微砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：橙色。
38-14	土師・坏	底部1/2	7.3	底部に高台を付ける。	底部に回転系切り痕残る。	胎土：細砂粒を多く含む。 焼成：良好。 色調：にぶい橙色。
38-15	土師・坏	底部1/3	7.3	底部に高台を付ける。	底部に回転系切り痕残る。	胎土：小砂粒を含む。 焼成：良好。 色調：褐灰色／橙色。

# 遺物写真図版



SB-12  
図版4-6



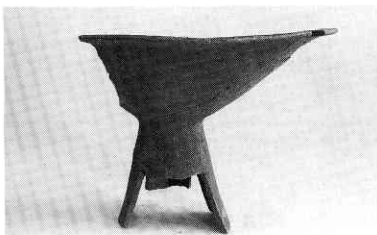
SB-12  
図版4-8



SB-08  
図版4-1



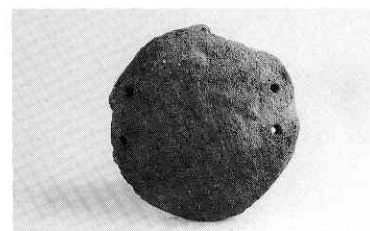
SB-12  
図版5-1



SB-08  
図版4-3



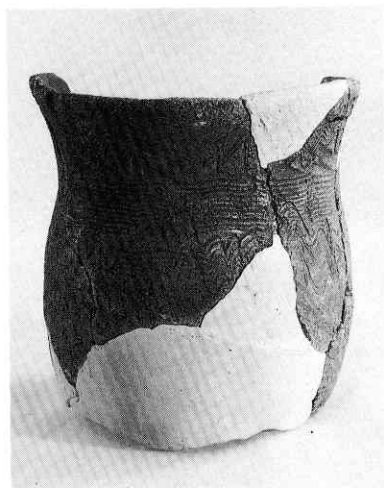
SB-20  
図版5-3



SB-08  
図版4-4



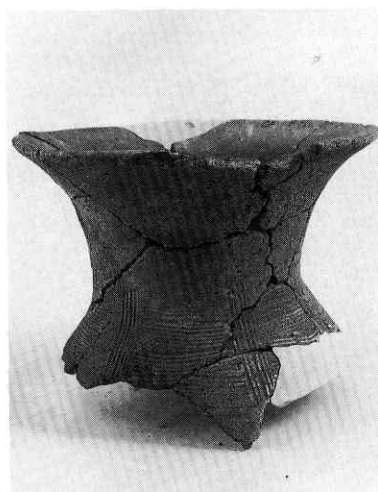
SB-08  
図版4-5



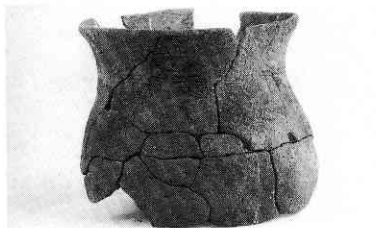
SB-48  
図版9-2



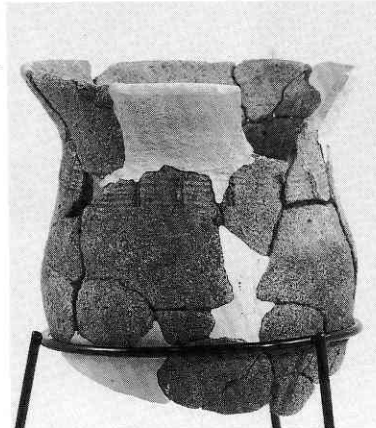
SB-20  
図版5-4



SB-48  
図版9-3



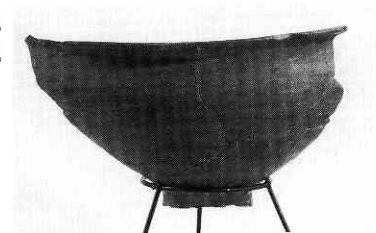
SB-48  
図版10-1



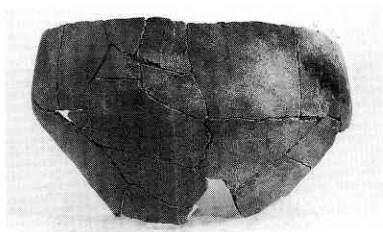
SB-20  
図版6-1



SB-48  
図版10-3



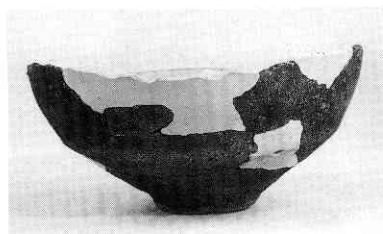
SB-20  
図版6-2



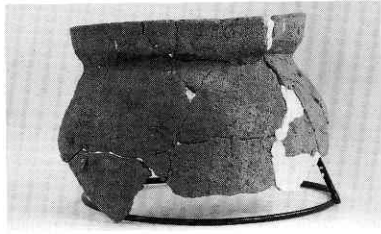
SB-14  
図版13-2



SB-48  
図版10-5



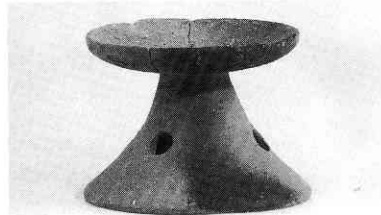
SB-14  
図版14-1



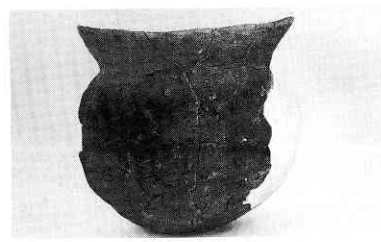
SB-01  
図版11-4



SB-14  
図版14-3



SB-53  
図版14-6



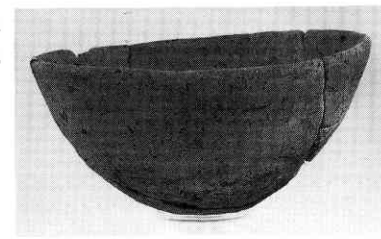
SB-14  
図版12-2



SB-53  
図版15-1



SB-53  
図版15-3



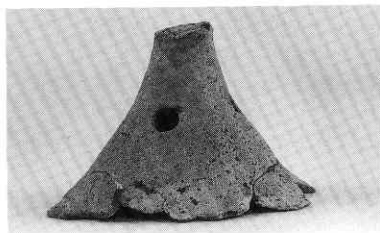
SB-14  
図版13-1



SB-13  
図版16-3

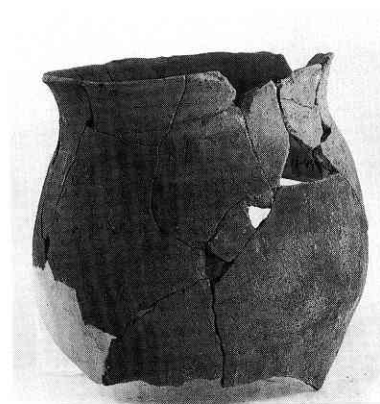


SB-53  
図版15-4



SB-53  
図版15-6

SB-13  
図版18-1



SB-13  
図版19-1



SB-13  
図版15-7

SB-13  
図版19-2



SB-13  
図版19-3

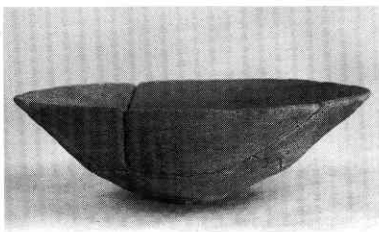


SB-13  
図版15-8





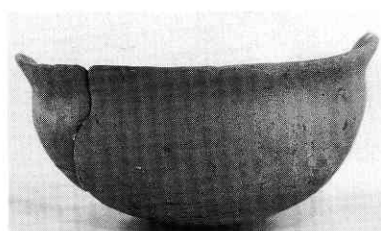
SB-13  
図版20-5



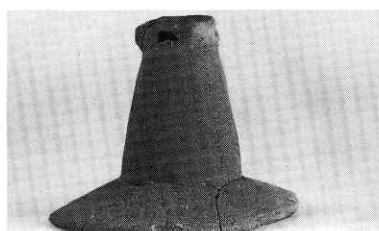
SB-13  
図版20-6



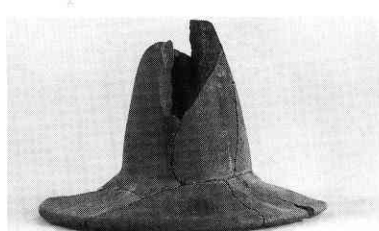
SB-13  
図版20-7



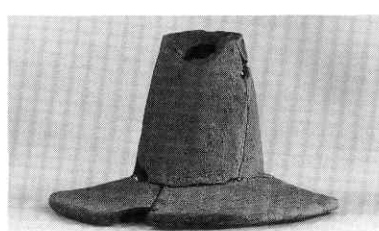
SB-13  
図版20-8



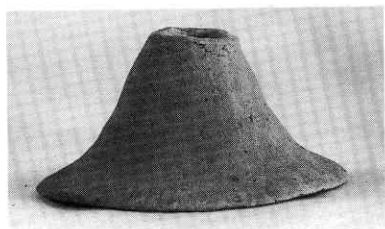
SB-13  
図版20-9



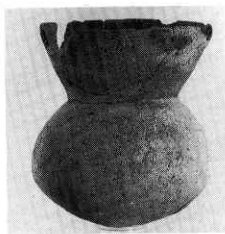
SB-13  
図版20-10



SB-13  
図版20-1



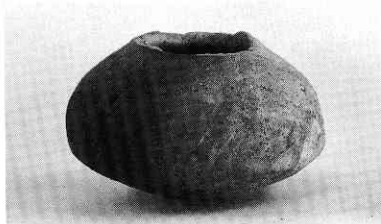
S B-4 4  
図版22-8



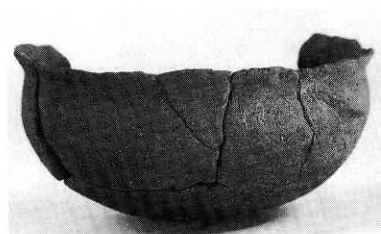
S B-1 3  
図版20-12



S B-4 4  
図版22-9



S B-4 4  
図版22-11



S B-4 4  
図版21-1



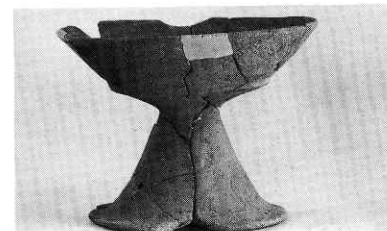
S B-4 4  
図版23-1



S B-4 4  
図版21-2



S B-4 4  
図版23-2



S B-4 4  
図版22-5



S B-4 4  
図版23-3



S B-4 4  
図版22-6



SB-44  
図版24-3



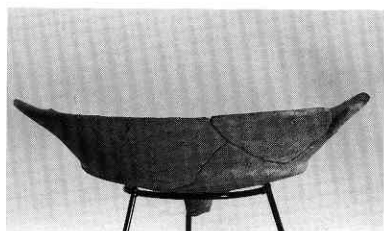
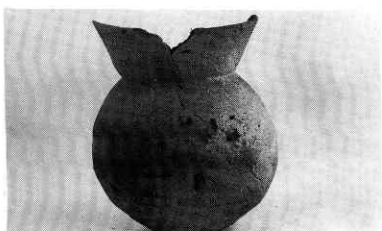
SB-44  
図版24-5



SB-44  
図版23-5



SB-44  
図版23-6



SB-45  
図版24-8



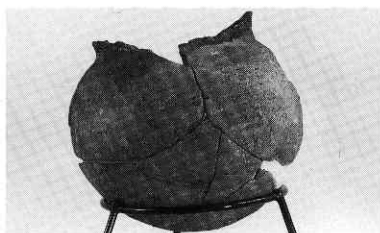
SB-44  
図版23-7

SB-44  
図版23-8

SB-44  
図版24-1



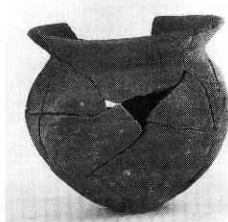
SB-45  
図版25-5



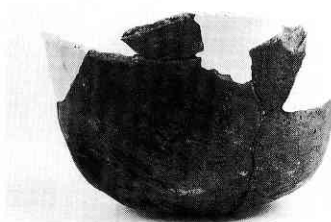
SB-04  
図版26-2



SB-45  
図版25-1



SB-04  
図版26-4



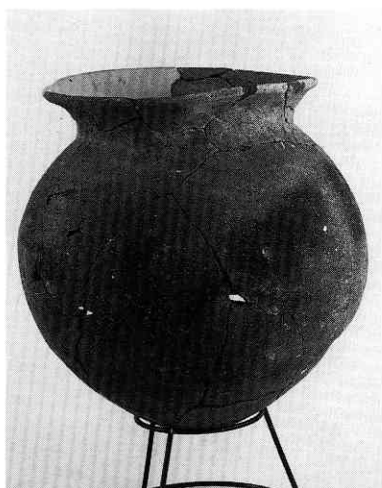
SB-45  
図版25-2



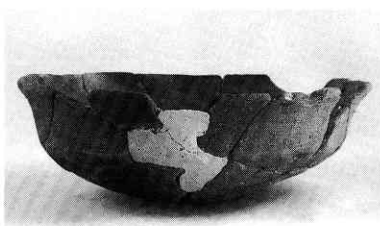
SB-04  
図版26-5



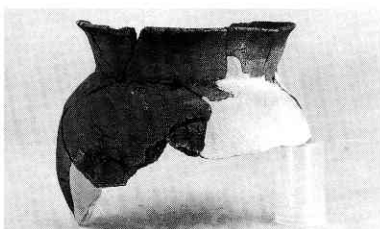
SB-45  
図版25-3



SB-04  
図版26-7



SB-23  
図版27-7



SB-45  
図版25-4

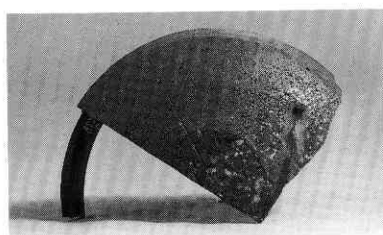


SB-29  
図版29-2



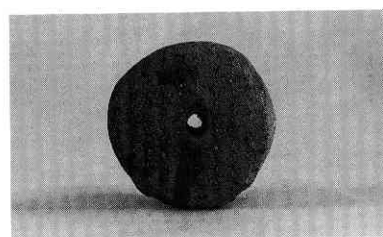
SB-23  
図版27-8

SB-23  
図版28-7

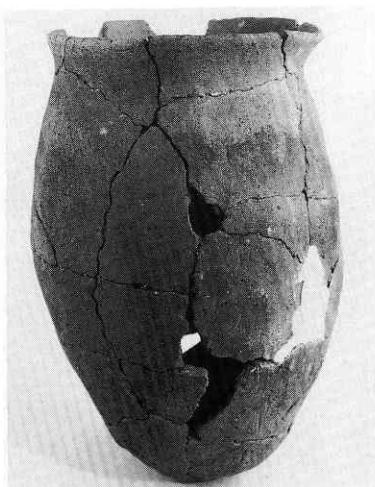


SB-29  
図版30-1

SB-23  
図版28-10



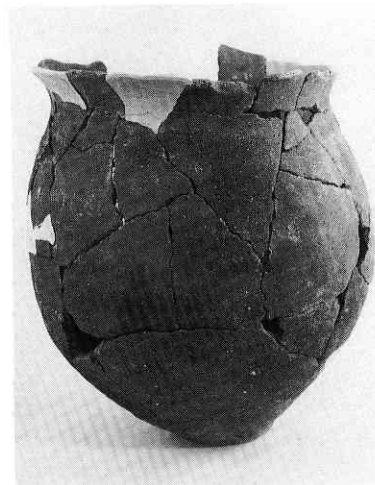
SB-23  
図版28-11



SB-29  
図版30-2



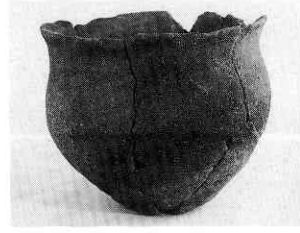
SB-29  
図版29-1







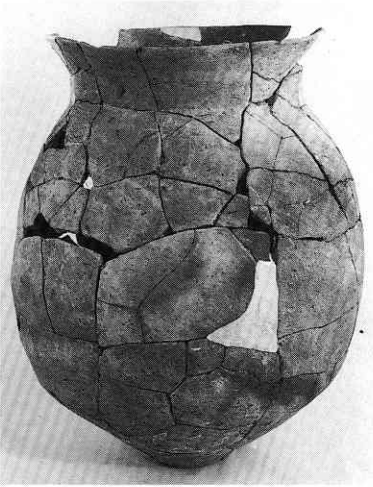
SB-29  
図版32-4



SB-29  
図版32-5



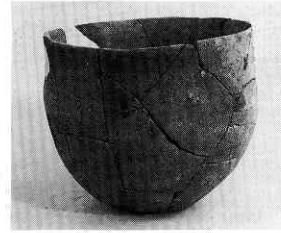
SB-29  
図版31-1



SB-29  
図版33-1



SB-29  
図版33-2



SB-29  
図版31-2



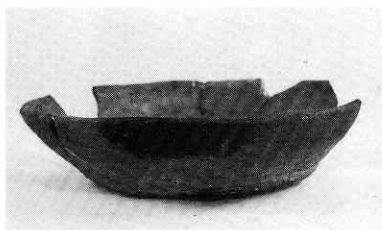
SB-29  
図版33-3



SB-29  
図版33-4



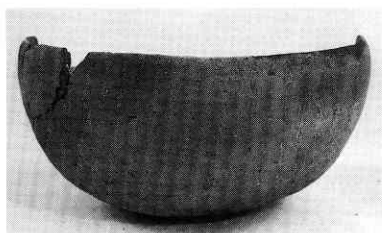
SB-29  
図版32-1



SB-30  
図版34-4



SB-29  
図版33-7

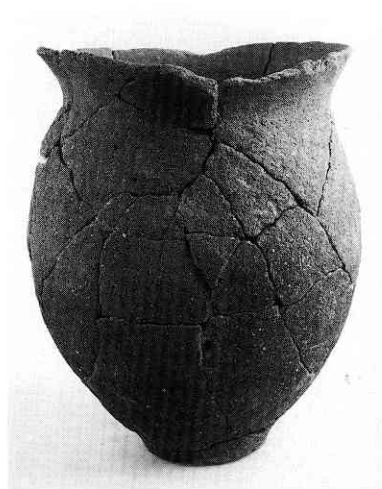


SB-29  
図版33-8



SB-30  
図版35-1

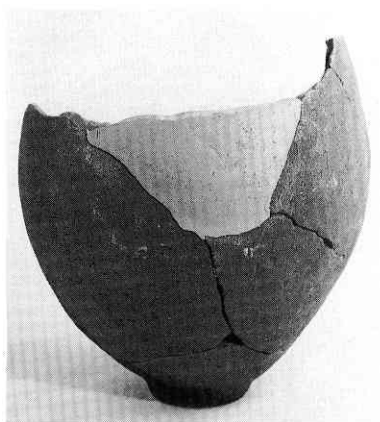
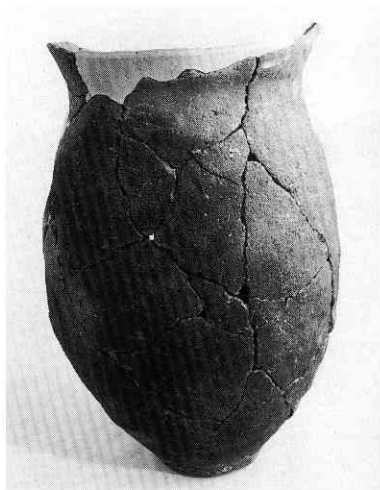
SB-29  
図版34-1



SB-29  
図版34-2

SB-30  
図版35-2

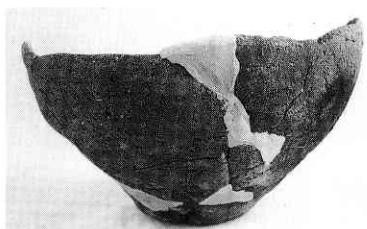
SB-30  
図版34-3







SB-30  
図版36-5



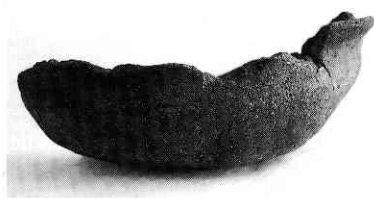
SB-30  
図版36-6



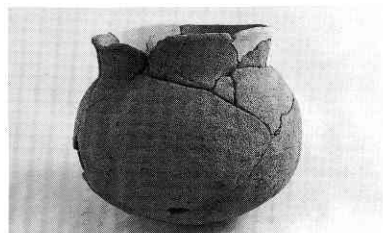
SB-30  
図版35-5



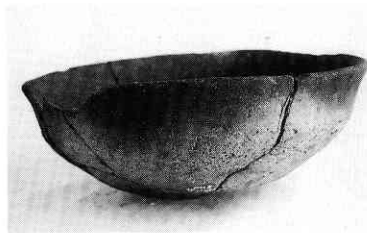
SB-30  
図版36-7



SB-30  
図版36-1



SB-30  
図版36-9



SB-30  
図版36-2



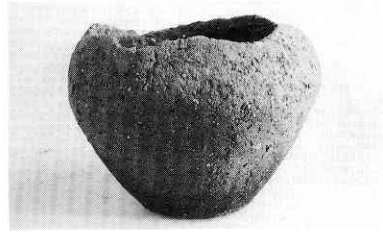
SB-30  
図版36-11



SB-30  
図版36-3



SB-47  
図版37-4

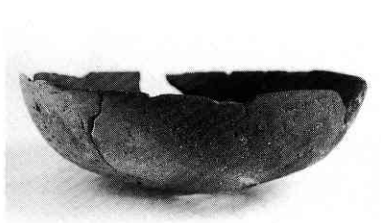
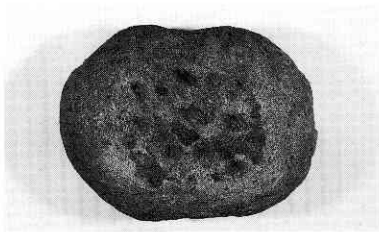


SB-30  
図版36-4



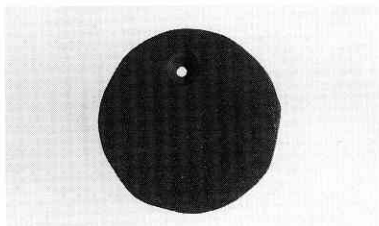
遺構外出土  
多孔石

SB-47  
図版37-9



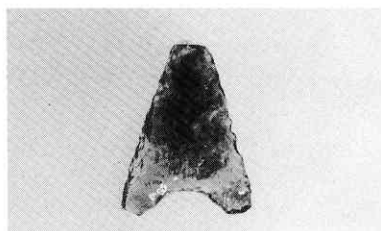
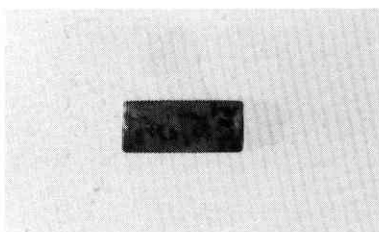
遺構外出土  
磨製垂飾

SB-47  
図版37-10



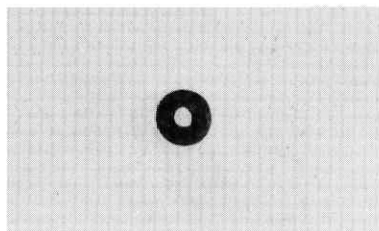
遺構外出土  
管玉

SB-51  
図版38-4



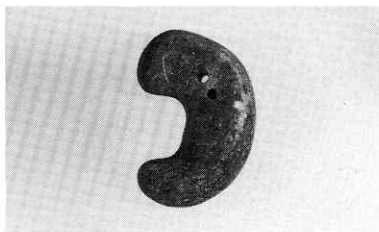
遺構外出土  
白玉

遺構外出土  
石鏃



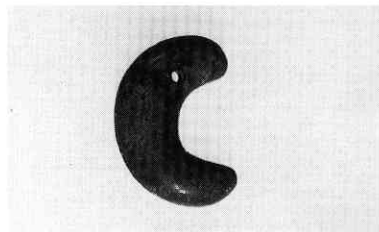
SB-37  
勾玉

遺構外出土  
磨製石鏃



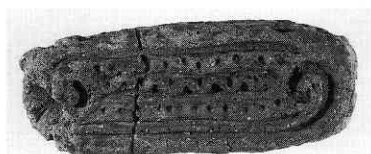
SB-37  
勾玉

遺構外出土  
石包丁





遺構外出土  
図版39-1



遺構外出土  
図版39-2



遺構外出土  
図版39-3



遺構外出土  
図版39-4

---

上田市文化財調査報告書第38集

## 大 道 下

小泉地区県営ほ場整備事業に伴う  
緊急発掘調査報告書

発 行 1991年3月25日

上田市教育委員会

印 刷 田口印刷株式会社

---

336-0004

工部局蔵 425-1

0268-22-0680